

---

---

豊見城市 子供調査

調査結果報告書

---

---

平成30年3月

豊見城市 福祉部社会福祉課



# 目次

|                      |          |
|----------------------|----------|
| <b>I 調査概要</b>        | <b>1</b> |
| 1. 調査目的              | 1        |
| 2. 調査対象              | 1        |
| 3. 調査方法              | 1        |
| 4. 調査期間              | 2        |
| 5. 回収状況              | 2        |
| 6. 調査実施機関            | 2        |
| 7. 注意事項              | 2        |
| <b>II 回答者概要</b>      | <b>3</b> |
| 1. 子供への調査            | 3        |
| 2. 保護者への調査           | 4        |
| <b>III 調査結果概要</b>    | <b>5</b> |
| 1. 将来の夢              | 5        |
| 2. 物品の所有状況           | 8        |
| 3. 友だちとの関係           | 14       |
| 4. 食事                | 16       |
| 5. 学校生活              | 20       |
| 6. 子供の自己肯定感          | 26       |
| 7. 就学援助の利用           | 32       |
| 8. 家計と子供への支出         | 36       |
| 9. 子供の進学に関する意識       | 43       |
| 10. 困窮経験             | 46       |
| 11. 電気代などの滞納経験       | 50       |
| 12. 医療サービスの受診状況      | 53       |
| 13. 社会的ネットワーク        | 56       |
| 14. 子供期の経済状況と現在の困窮経験 | 59       |
| 15. 子供の放課後の居場所       | 61       |

# I 調査概要

## 1. 調査目的

本調査は、豊見城市内における子供の貧困対策事業を更に効果的に推進するため、沖縄県が平成28年3月に公表した沖縄子ども調査と同様の内容で調査を行い、市内における子供の貧困の現状把握や、貧困状態が子供の生活や成長に与える影響について調査・分析するとともに、沖縄子ども調査の結果と比較することを目的としています。

## 2. 調査対象

### (1) 子供への調査

- ①豊見城市内全小学校（8校）の5年生
- ②豊見城市内全中学校（3校）の2年生

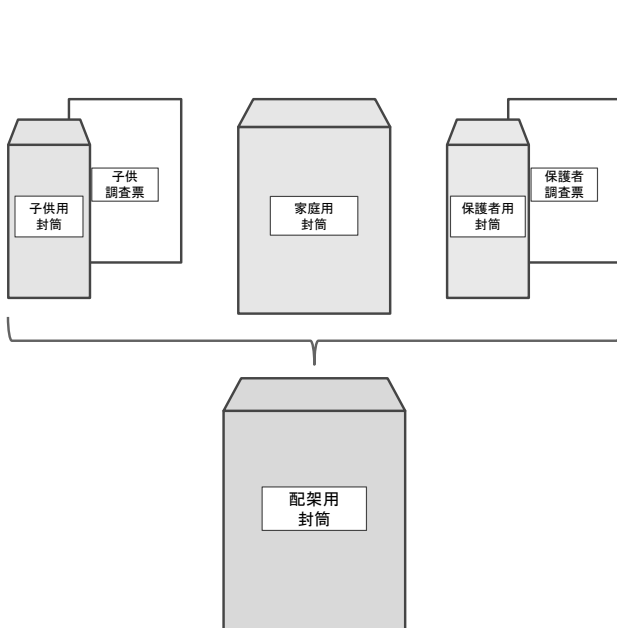
### (2) 保護者への調査

- ①豊見城市内全小学校（8校）の1年生の保護者
- ②豊見城市内全小学校（8校）の5年生の保護者
- ③豊見城市内全中学校（3校）の2年生の保護者

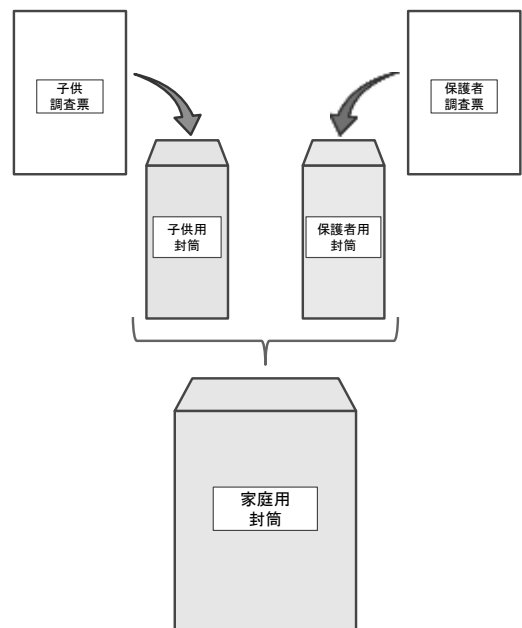
## 3. 調査方法

調査票は、子供票、保護者票を同一封筒に封入し、各学校を通じて各学級内で児童・生徒に配布しました。配布した調査票を子供が家庭に持ち帰り、子供票は児童・生徒に、保護者票は主に保護者に記入していただきました。回答していただいた調査票は、子供票、保護者票それぞれ専用の封筒に封入・密封し、小学5年生・中学2年生はそれぞれ密封した封筒をさらに家庭用封筒に封入・密封の上、学校に提出していただきました。なお、いずれも無記名、自記式としています。

### 【配架時】



### 【回収時】



#### 4. 調査期間

平成29年10月24日～平成29年11月2日

#### 5. 回収状況

|       |       | 子供票   | 保護者票  |
|-------|-------|-------|-------|
| 小学1年生 | 調査対象数 | /     | 901   |
|       | 有効回答数 |       | 603   |
|       | 有効回答率 |       | 66.9% |
| 小学5年生 | 調査対象数 | 806   | 806   |
|       | 有効回答数 | 516   | 515   |
|       | 有効回答率 | 64.0% | 63.9% |
| 中学2年生 | 調査対象数 | 718   | 718   |
|       | 有効回答数 | 492   | 494   |
|       | 有効回答率 | 68.5% | 68.8% |
| 合計    | 調査対象数 | 1,524 | 2,425 |
|       | 有効回答数 | 1,008 | 1,612 |
|       | 有効回答率 | 66.1% | 66.5% |

#### 6. 調査実施機関

豊見城市 福祉部社会福祉課

(調査設計、調査票の配架・回収、回答結果の集計、分析等については、株式会社東京商工リサーチ沖縄支店に委託しました。)

#### 7. 注意事項

○集計は、調査票毎の有効回答を対象としています。

○各設問の全体集計およびクロス集計は、無回答を含めて集計しています。

○図表中の構成比率は、小数点第2位以下を四捨五入しており、合計が100%とならないことがあります。

○回答が2つ以上ありうる場合(複数回答可の設問)、合計が100%を超えることがあります。

○本調査は、可能な限り「沖縄子ども調査 調査結果概要版平成28年3月25日(以降、「沖縄県」と表記)」の結果内容と比較しています。

## Ⅱ 回答者概要

### 1. 子供への調査

|       | 性別    |       |        | 合計     |
|-------|-------|-------|--------|--------|
|       | 男子    | 女子    | 不明+無回答 |        |
| 小学5年生 | 207   | 282   | 27     | 516    |
|       | 40.1% | 54.7% | 5.2%   | 100.0% |
| 中学2年生 | 222   | 246   | 24     | 492    |
|       | 45.1% | 50.0% | 4.9%   | 100.0% |
| 合計    | 429   | 528   | 51     | 1,008  |
|       | 42.6% | 52.4% | 5.1%   | 100.0% |

|       | 世帯累計  |       |      |        | 合計     |
|-------|-------|-------|------|--------|--------|
|       | 二親世帯  | 母子世帯  | 父子世帯 | その他+不明 |        |
| 小学5年生 | 432   | 50    | 4    | 30     | 516    |
|       | 83.7% | 9.7%  | 0.8% | 5.8%   | 100.0% |
| 中学2年生 | 372   | 79    | 12   | 29     | 492    |
|       | 75.6% | 16.1% | 2.4% | 5.9%   | 100.0% |
| 合計    | 804   | 129   | 16   | 59     | 1,008  |
|       | 79.8% | 12.8% | 1.6% | 5.9%   | 100.0% |

|       | 経済状況  |       |       | 合計     |
|-------|-------|-------|-------|--------|
|       | 非貧困   | 貧困    | 不明    |        |
| 小学5年生 | 355   | 83    | 78    | 516    |
|       | 68.8% | 16.1% | 15.1% | 100.0% |
| 中学2年生 | 317   | 109   | 66    | 492    |
|       | 64.4% | 22.2% | 13.4% | 100.0% |
| 合計    | 672   | 192   | 144   | 1,008  |
|       | 66.7% | 19.0% | 14.3% | 100.0% |

## 2. 保護者への調査

|       | 子供との続柄 |       |      |      |      |      | 合計     |
|-------|--------|-------|------|------|------|------|--------|
|       | 母親     | 父親    | 祖母   | 祖父   | その他  | 無回答  |        |
| 小学1年生 | 513    | 64    | 1    | 0    | 0    | 25   | 603    |
|       | 85.1%  | 10.6% | 0.2% | 0.0% | 0.0% | 4.1% | 100.0% |
| 小学5年生 | 430    | 62    | 4    | 1    | 1    | 17   | 515    |
|       | 83.5%  | 12.0% | 0.8% | 0.2% | 0.2% | 3.3% | 100.0% |
| 中学2年生 | 398    | 70    | 4    | 0    | 0    | 22   | 494    |
|       | 80.6%  | 14.2% | 0.8% | 0.0% | 0.0% | 4.5% | 100.0% |
| 合計    | 1,341  | 196   | 9    | 1    | 1    | 64   | 1,612  |
|       | 83.2%  | 12.2% | 0.6% | 0.1% | 0.1% | 4.0% | 100.0% |

|       | 世帯累計  |       |      |        | 合計     |
|-------|-------|-------|------|--------|--------|
|       | 二親世帯  | 母子世帯  | 父子世帯 | その他+不明 |        |
| 小学1年生 | 518   | 54    | 9    | 22     | 603    |
|       | 85.9% | 9.0%  | 1.5% | 3.6%   | 100.0% |
| 小学5年生 | 432   | 50    | 4    | 29     | 515    |
|       | 83.9% | 9.7%  | 0.8% | 5.6%   | 100.0% |
| 中学2年生 | 375   | 80    | 12   | 27     | 494    |
|       | 75.9% | 16.2% | 2.4% | 5.5%   | 100.0% |
| 合計    | 1,325 | 184   | 25   | 78     | 1,612  |
|       | 82.2% | 11.4% | 1.6% | 4.8%   | 100.0% |

|       | 経済状況  |       |       | 合計     |
|-------|-------|-------|-------|--------|
|       | 非貧困   | 貧困    | 不明    |        |
| 小学1年生 | 434   | 111   | 58    | 603    |
|       | 72.0% | 18.4% | 9.6%  | 100.0% |
| 小学5年生 | 355   | 83    | 77    | 515    |
|       | 68.9% | 16.1% | 15.0% | 100.0% |
| 中学2年生 | 320   | 110   | 64    | 494    |
|       | 64.8% | 22.3% | 13.0% | 100.0% |
| 合計    | 1,109 | 304   | 199   | 1,612  |
|       | 68.8% | 18.9% | 12.3% | 100.0% |

### 【経済状況の算出】

貧困、非貧困を分類するための計算は、沖縄県子ども調査と同様、以下の方法に従って行いました。

- ①可処分所得（いわゆる「手取り額」）を基に、世帯人数で調整した額（等価可処分所得）を算出します。

$$\text{等価可処分所得} = \frac{\text{可処分所得}}{\sqrt{\text{世帯員数}}}$$

- ②等価可処分所得が『122万円以上』の世帯を<非貧困>、『122万円未満』の世帯を<貧困>と分類します（122万円は、厚生労働省「平成25年国民生活基礎調査」において推計された相対的貧困基準）。

### Ⅲ 調査結果概要

#### 1. 将来の夢

##### ○将来の夢の有無

小学5年生と中学2年生の子供たちに、将来の夢の有無について質問した結果です。

##### 【小学5年生】

「ある」が81.2%で大半となっています。

性別にみると、「ある」は<女子>が<男子>より11.3ポイント高くなっています。

沖縄県と比較すると、「ある」は全体で2.9ポイント低くなっています。<男子>も6.8ポイント低くなっていますが、<女子>は1.1ポイント高くなっています。

##### 【中学2年生】

「ある」が68.7%と過半数を占め、「ない」が28.0%となっています。

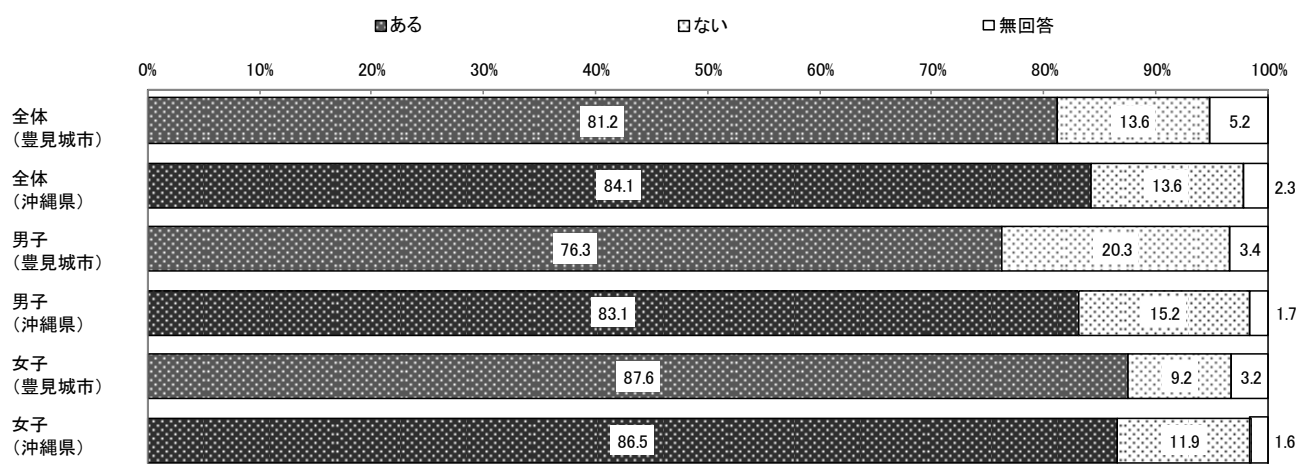
性別にみると、「ある」は<女子>が<男子>より9.5ポイント高くなっています。

沖縄県と比較すると、「ある」は全体で2.8ポイント低くなり、<男子>も1.9ポイント、<女子>も1.3ポイント低くなっています。

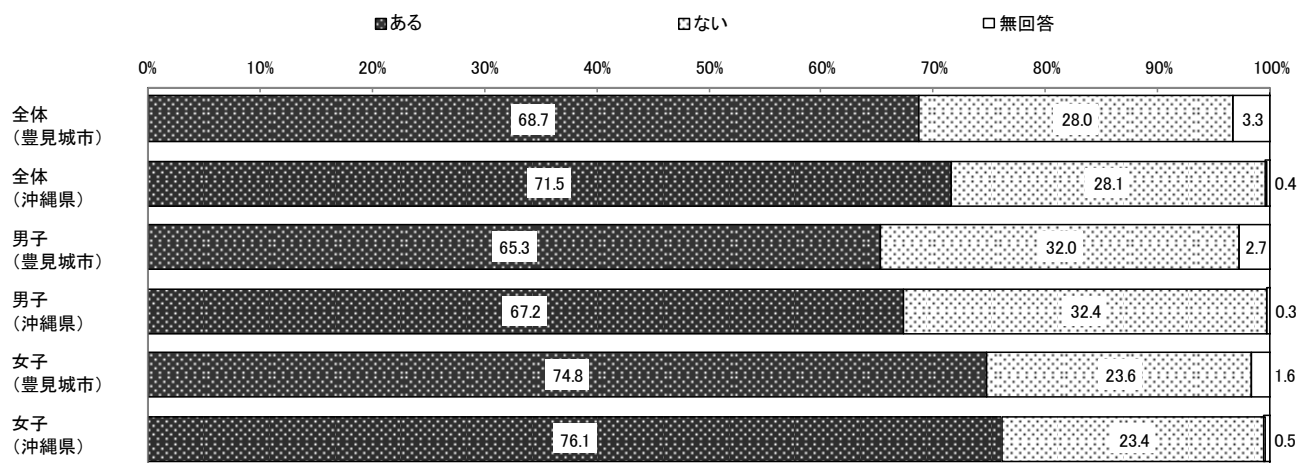
##### 【学年による比較】

「ある」は全体、<男子>、<女子>いずれにおいても、<小学5年生>の方が高くなっています。

##### 【小学5年生】



##### 【中学2年生】





○将来の夢の有無の経済状況による違い

将来の夢の有無が、家庭の経済状況によって異なるか分析した結果です。

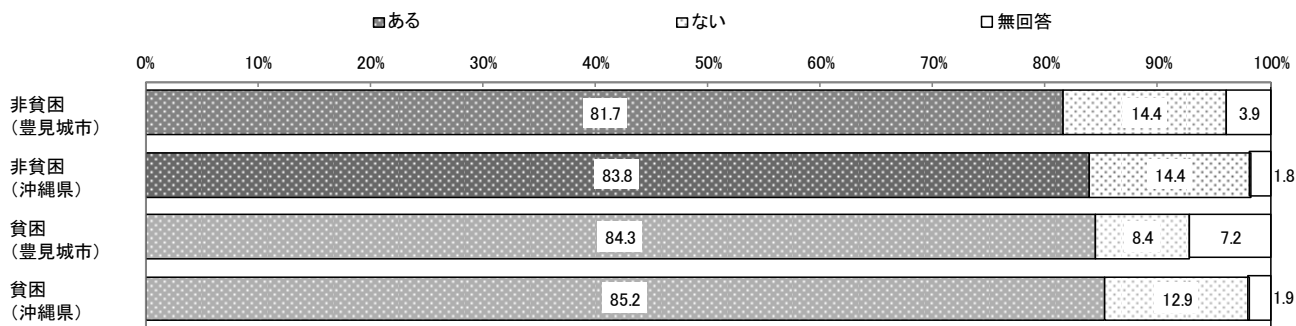
【小学5年生】

「ある」は<貧困>の方が2.6ポイント高くなっています。  
 沖縄県と比較すると、<非貧困>、<貧困>ともに大きな違いはみられません。

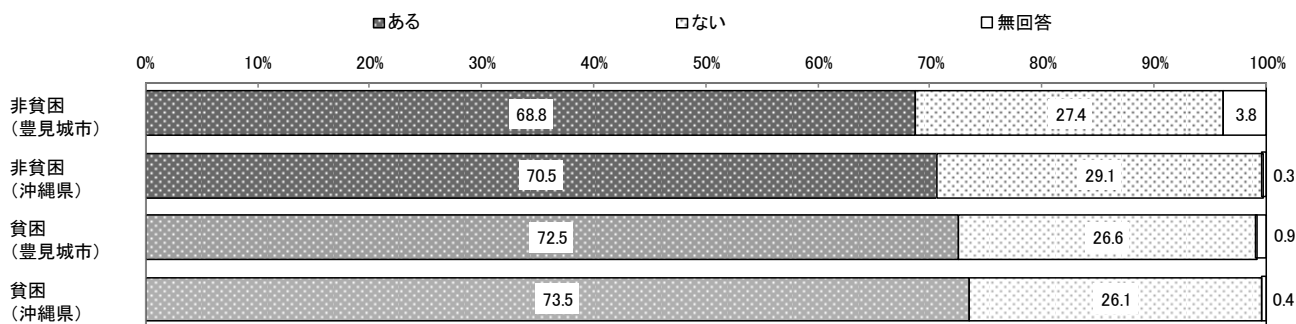
【中学2年生】

「ある」は<貧困>の方が3.7ポイント高くなっています。  
 沖縄県と比較すると、<非貧困>、<貧困>ともに大きな違いはみられません。

【小学5年生】



【中学2年生】



## ○夢がない理由（将来の夢が「ない」と回答した人）

小学5年生と中学2年生の子供たちに、将来の夢がない理由について質問した結果です。

### 【小学5年生】

「具体的に何も思いうかばないから」が60.0%と過半数を占めています。

沖縄県と比較すると、「夢をかなえるのがむずかしいと思うから」は3.8ポイント高くなっています。

### 【中学2年生】

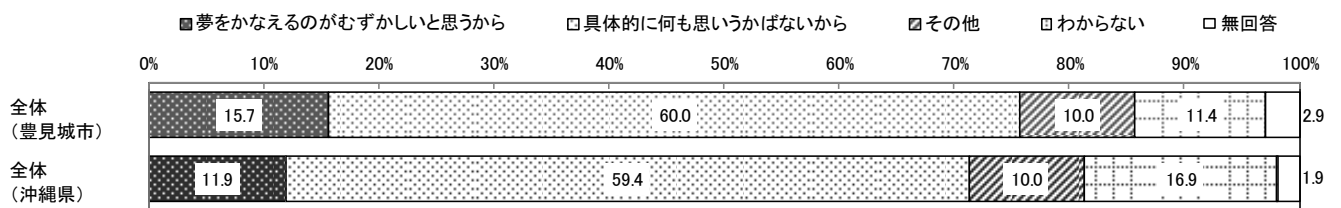
「具体的に何も思いうかばないから」が62.3%と過半数を占めています。

沖縄県と比較すると、「夢をかなえるのがむずかしいと思うから」は4.5ポイント高く、一方、「具体的に何も思いうかばないから」は4.9ポイント低くなっています。

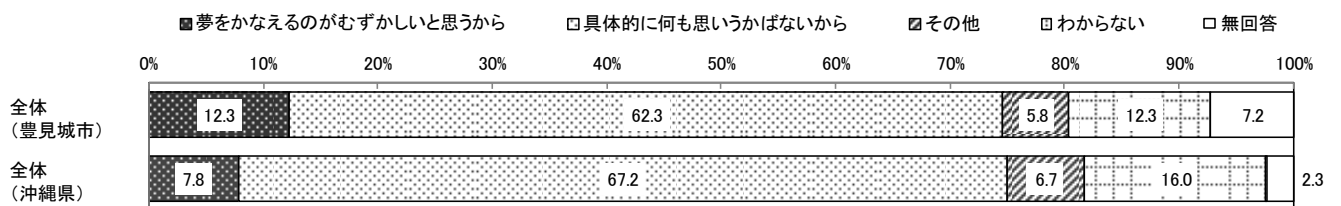
### 【学年による比較】

「夢をかなえるのがむずかしいと思うから」は<小学5年生>の方が3.4ポイント高く、一方、「具体的に何も思いうかばないから」は<中学2年生>の方が2.3ポイント高くなっています。

### 【小学5年生】



### 【中学2年生】



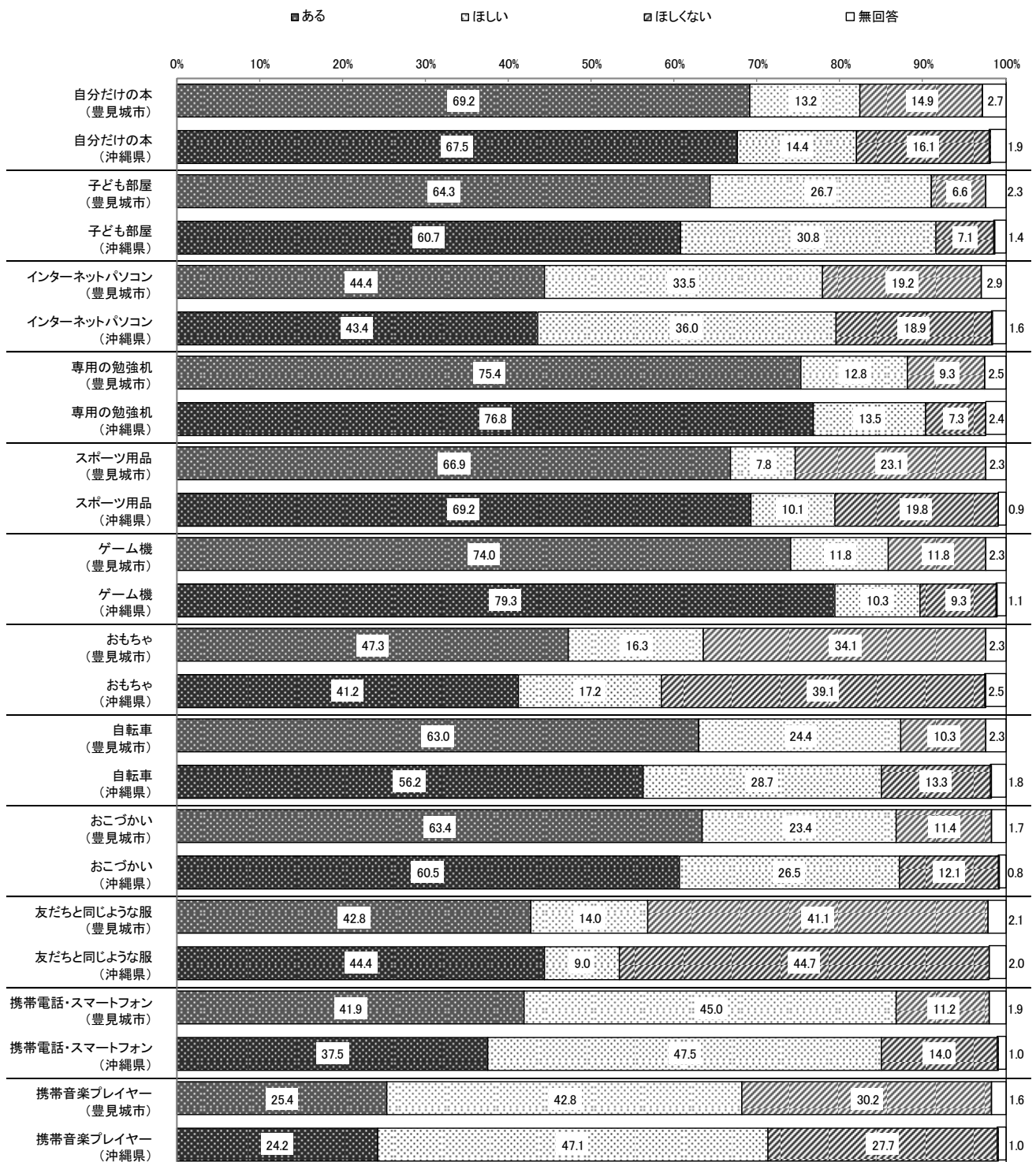
## 2. 物品の所有状況

### ○物品の所有状況【小学5年生】

小学5年生の子供たちに、各物品の所有状況について質問した結果です。

「ある」と回答した物品は、「専用の勉強机」が75.4%、「ゲーム機」が74.0%と7割を超え、特に高くなっています。一方、「(ない場合に)ほしい」と回答した物品は、「携帯電話・スマートフォン」が45.0%、「携帯音楽プレイヤー」が42.8%、「インターネットパソコン」が33.5%と特に高くなっています。

沖縄県と比較すると、「ある」と回答した物品については、「自転車」で6.8ポイント、「おもちゃ」で6.1ポイントそれぞれ高くなり、一方、「ゲーム機」では5.3ポイント低くなり、特に差が大きくなっています。「(ない場合に)ほしい」と回答した物品については、「友だちと同じような服」で5.0ポイント高くなり、一方、「自転車」、および「携帯音楽プレイヤー」ではともに4.3ポイント、「子ども部屋」では4.1ポイントそれぞれ低くなっています。

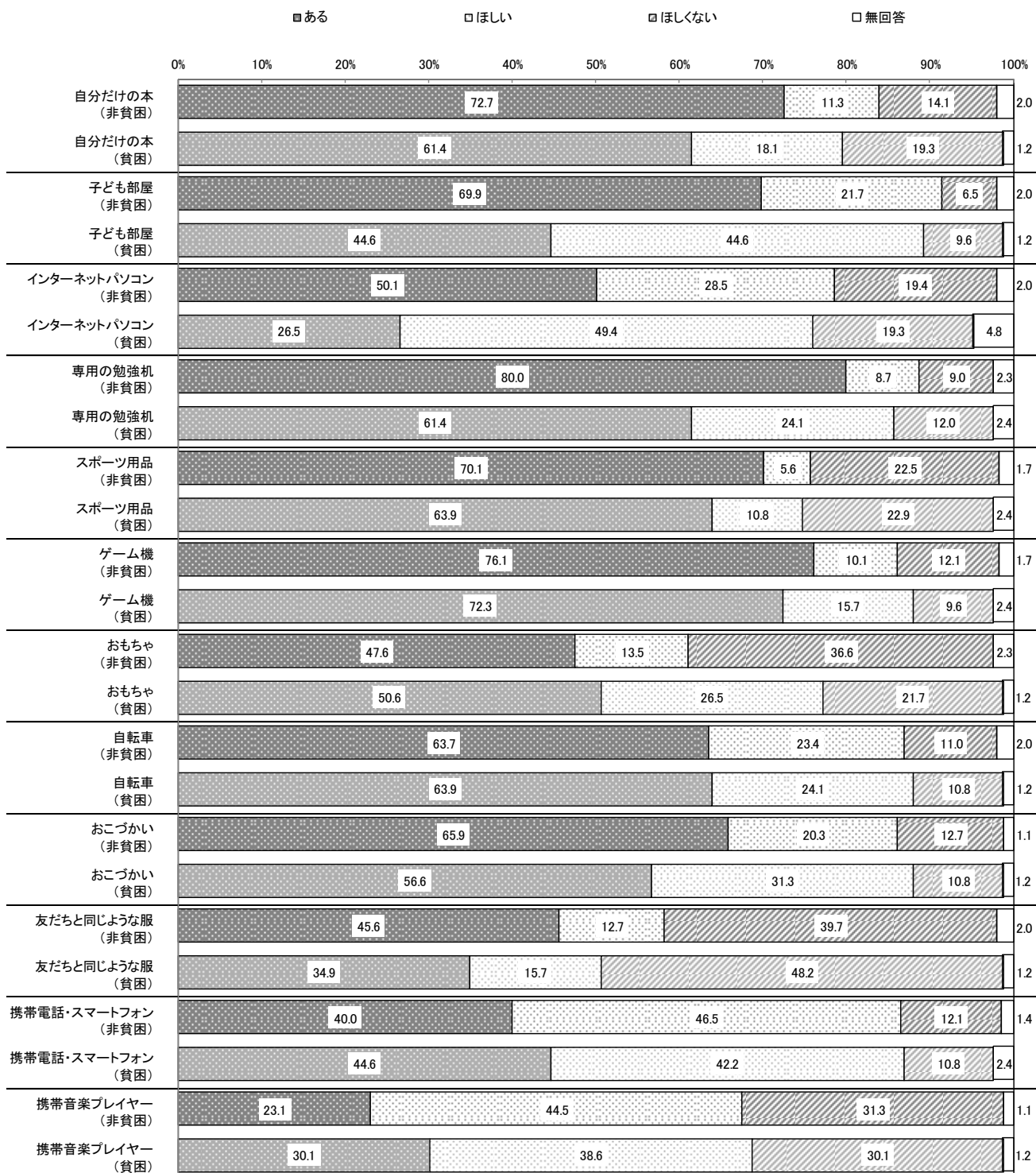


## ○物品の所有状況の経済状況による違い【小学5年生】

各物品の所有状況が、家庭の経済状況によって異なるか分析した結果です。

「ある」は、全12項目中「おもちゃ」、「自転車」、「携帯電話・スマートフォン」、および「携帯音楽プレイヤー」の4項目では<非貧困>の方が低くなっていますが、それ以外の8項目では<貧困>の方が低くなっています。<貧困>の方が低い物品をみると、<非貧困>との差は「子ども部屋」で25.3ポイント、「インターネットパソコン」で23.6ポイント、「専用の勉強机」で18.6ポイントと、特に差が大きくなっています。

一方、「(ない場合に)ほしい」は、全12項目中「携帯電話・スマートフォン」、および「携帯音楽プレイヤー」の2項目では<非貧困>の方が高く、それ以外の10項目では<貧困>の方が高くなっています。<貧困>の方が高い物品をみると、<非貧困>との差は「子ども部屋」で22.9ポイント、「インターネットパソコン」で20.9ポイント、「専用の勉強机」で15.4ポイントと、特に差が大きくなっています。



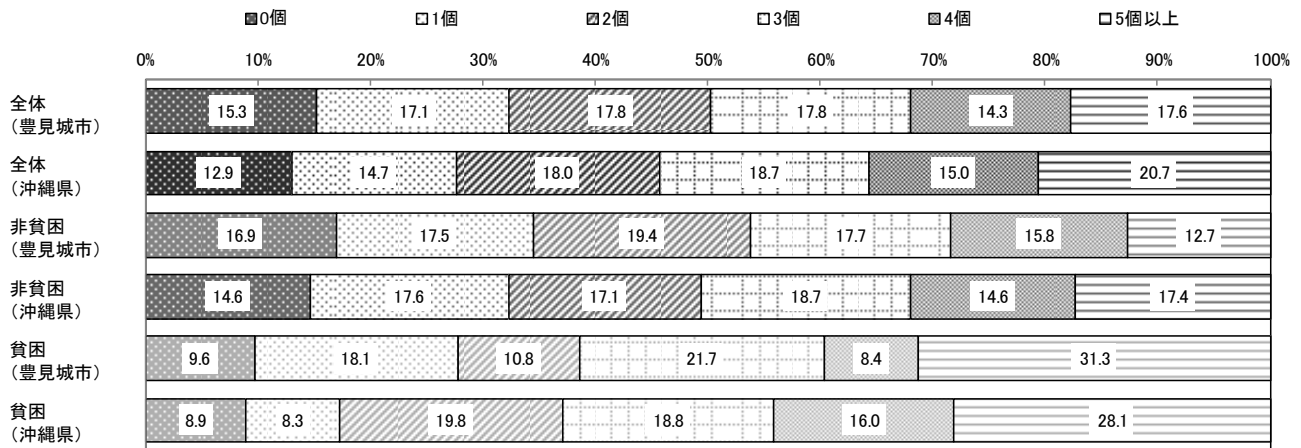
### ○「(ない場合に)ほしい」項目の数の割合【小学5年生】

所有していない物品のうち、ほしい物品数について分析した結果です。

物品の所有状況を質問した12項目の内、「(ない場合に)ほしい」と回答した項目数について、「5個以上」は17.6%となっています。

経済状況別にみると、「5個以上」は<非貧困>が12.7%、<貧困>が31.3%となり、<貧困>の方が18.6ポイント高くなっています。

沖縄県と比較すると、「5個以上」は全体で3.1ポイント低くなっています。<非貧困>も4.7ポイント低くなっていますが、<貧困>では3.2ポイント高くなっています。

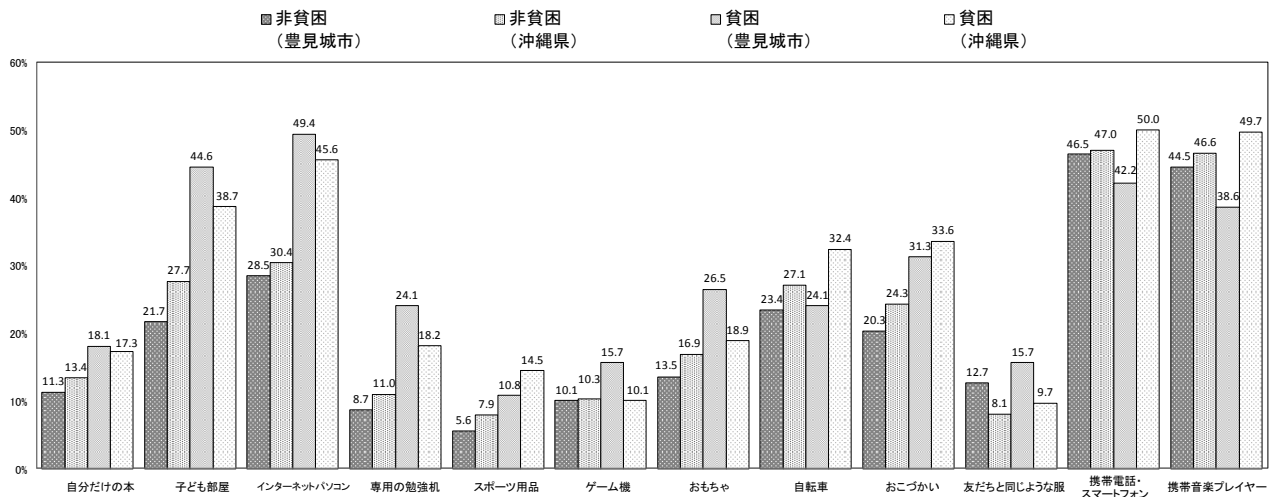


### ○「(ない場合に)ほしい」子供の割合【小学5年生】

各物品について、所有していないがほしいとする割合を分析した結果です。

「(ない場合に)ほしい」物品を項目ごとに、経済状況別にみると、「携帯電話・スマートフォン」、および「携帯音楽プレイヤー」は<非貧困>の方が高くなっていますが、それ以外の10項目では<貧困>の方が高くなっています。<貧困>の方が高くなった物品をみると、「子ども部屋」は22.9ポイント、「インターネットパソコン」は20.9ポイント、「専用の勉強机」は15.4ポイント、「おもちゃ」は13.0ポイント、「おこづかい」は11.0ポイントと特に差が大きくなっています。

沖縄県と比較すると、「子ども部屋」、「インターネットパソコン」、「専用の勉強机」、「おもちゃ」では<非貧困>と<貧困>の差が特に大きくなっています。

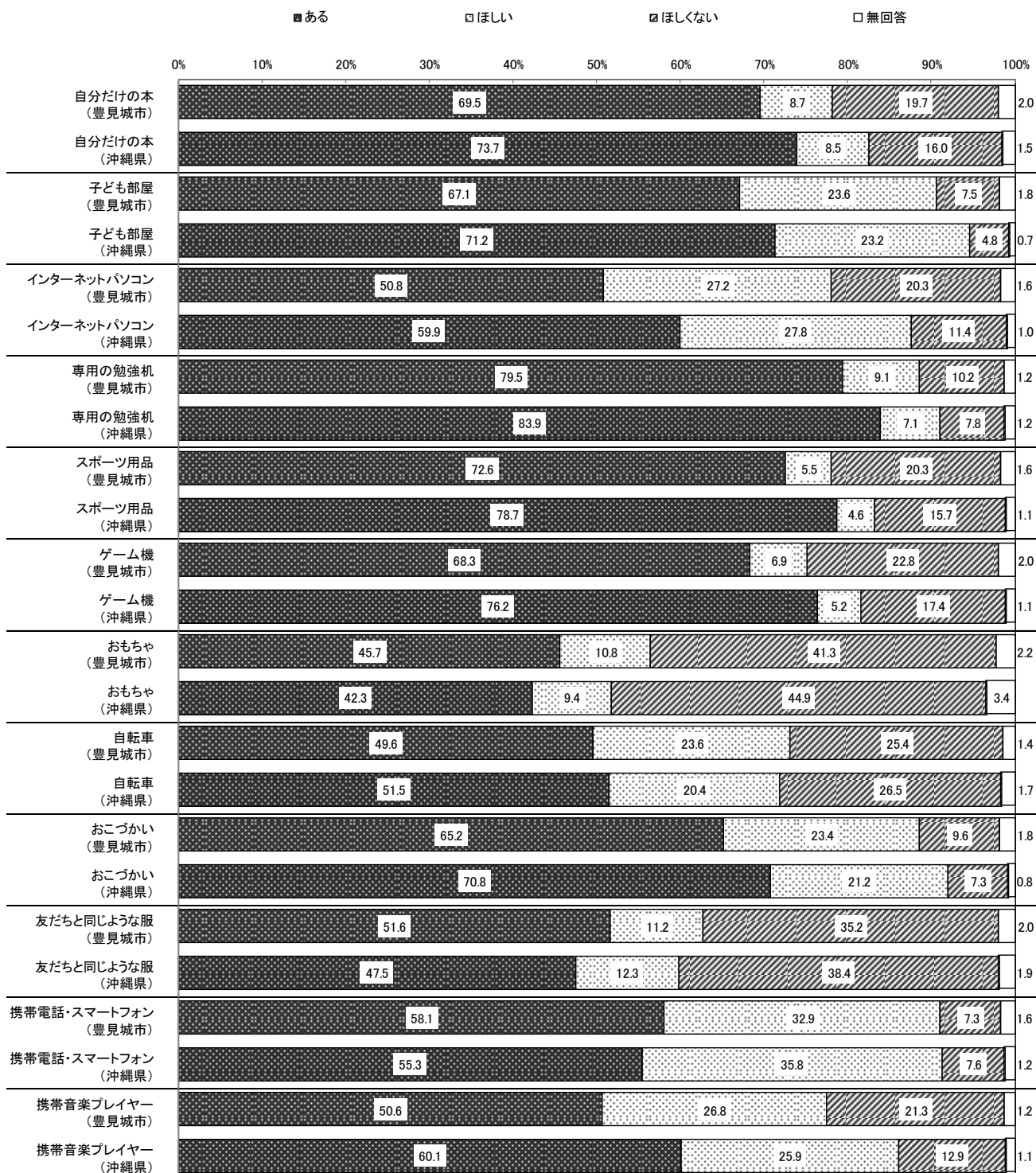


## ○物品の所有状況【中学2年生】

中学2年生の子供たちに、各物品の所有状況について質問した結果です。

「ある」と回答した物品は、「専用の勉強机」が79.5%、「スポーツ用品」が72.6%と7割を超え、特に高くなっています。一方、「(ない場合に)ほしい」と回答した物品は、「携帯電話・スマートフォン」が32.9%、「インターネットパソコン」が27.2%、「携帯音楽プレイヤー」が26.8%と特に高くなっています。

沖縄県と比較すると、「ある」と回答した物品では「友達と同じような服」は4.1ポイント、「おもちゃ」は3.4ポイントそれぞれ高くなり、一方、「携帯音楽プレイヤー」は9.5ポイント、「インターネットパソコン」は9.1ポイント、「ゲーム機」は7.9ポイントそれぞれ低くなり、特に差が大きくなっています。「(ない場合に)ほしい」と回答した物品では、「自転車」は3.2ポイント高くなり、一方、「携帯電話・スマートフォン」は2.9ポイント低くなっています。

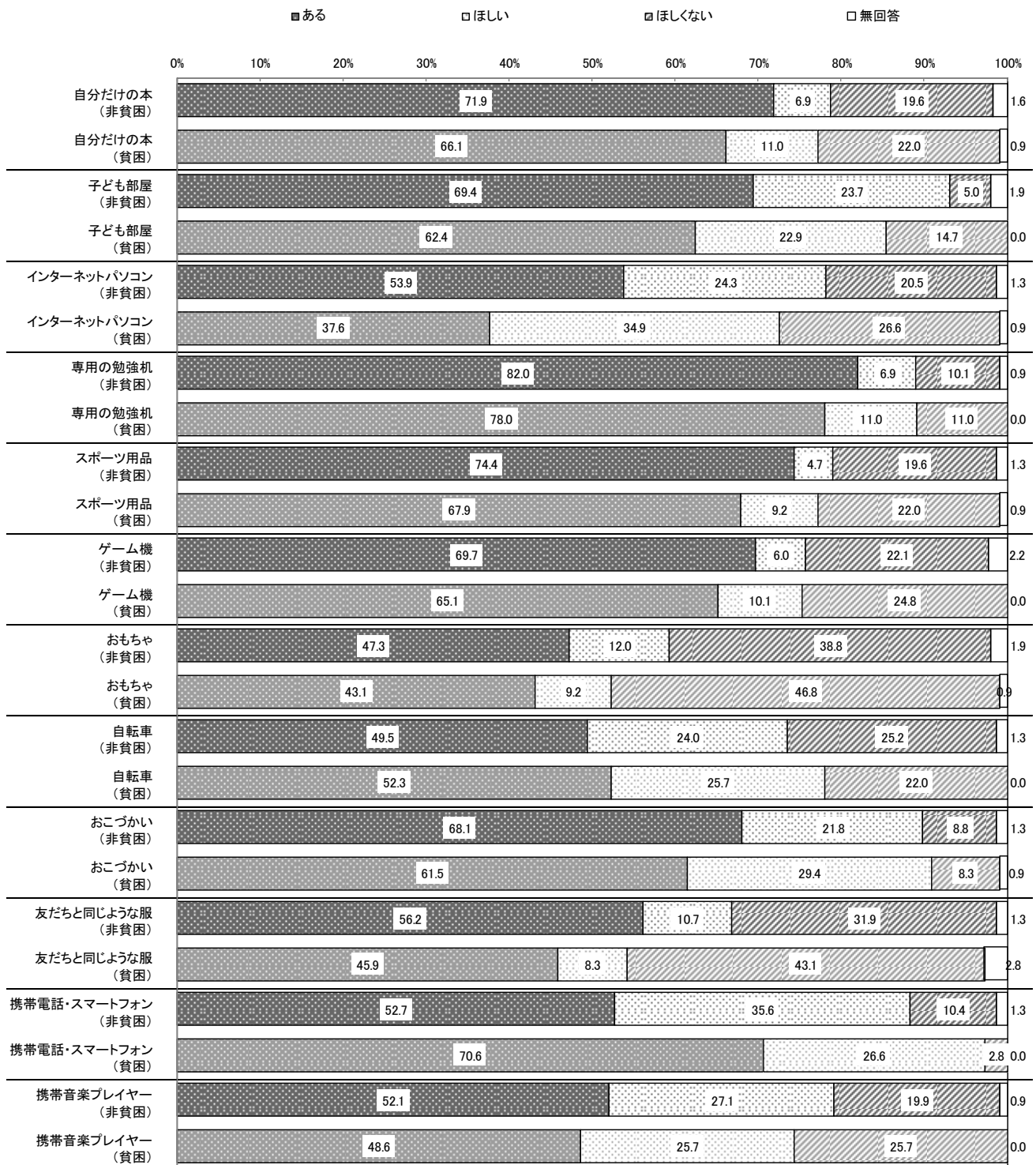


## ○物品の所有状況の経済状況による違い【中学2年生】

各物品の所有状況が、家庭の経済状況によって異なるか分析した結果です。

「ある」は、全12項目中「自転車」、および「携帯電話・スマートフォン」では<非貧困>の方が低くなっていますが、それ以外の10項目では<貧困>の方が低くなっています。<貧困>の方が低い物品をみると、「インターネットパソコン」は16.3ポイント、「友だちと同じような服」は10.3ポイントと特に差が大きくなっています。

一方、「(ない場合に)ほしい」は、全12項目中「子ども部屋」、「おもちゃ」、「友だちと同じような服」、「携帯電話・スマートフォン」、および「携帯音楽プレイヤー」の5項目では<非貧困>の方が高く、それ以外の7項目では<貧困>の方が高くなっています。<貧困>の方が高い物品をみると、「インターネットパソコン」は10.6ポイントと特に差が大きくなっています。



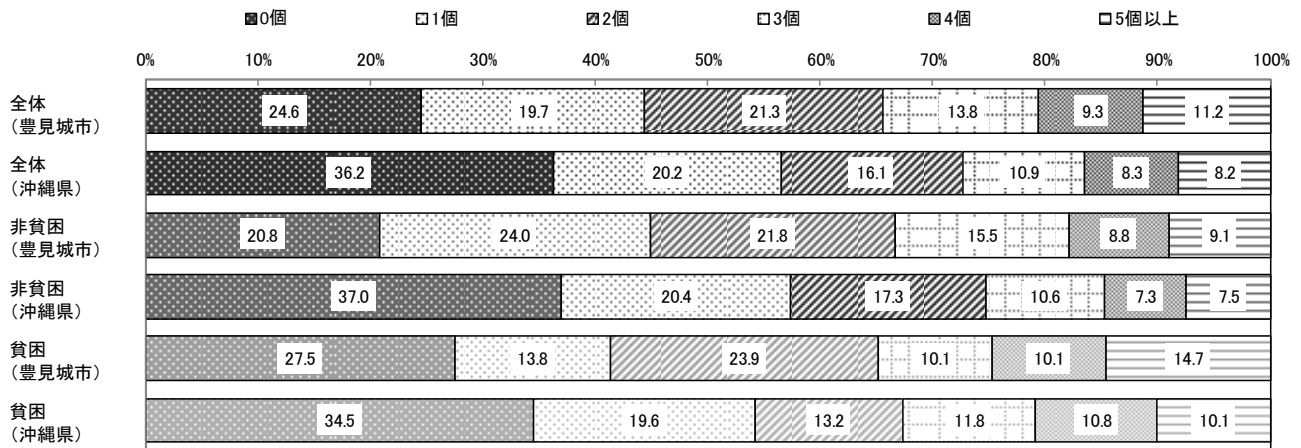
### ○「(ない場合に)ほしい」項目の数の割合【中学2年生】

所有していない物品のうち、ほしい物品数について分析した結果です。

物品の所有状況の設問で質問した12項目のうち、「(ない場合に)ほしい」と回答した項目数について、「5個以上」は11.2%となっています。

経済状況別にみると、「5個以上」は<非貧困>が9.1%、<貧困>が14.7%となり、<貧困>の方が5.6ポイント高くなっています。

沖縄県と比較すると、「5個以上」は全体では3.0ポイント高くなり、<非貧困>も1.6ポイント、<貧困>も4.6ポイントそれぞれ高くなっています。

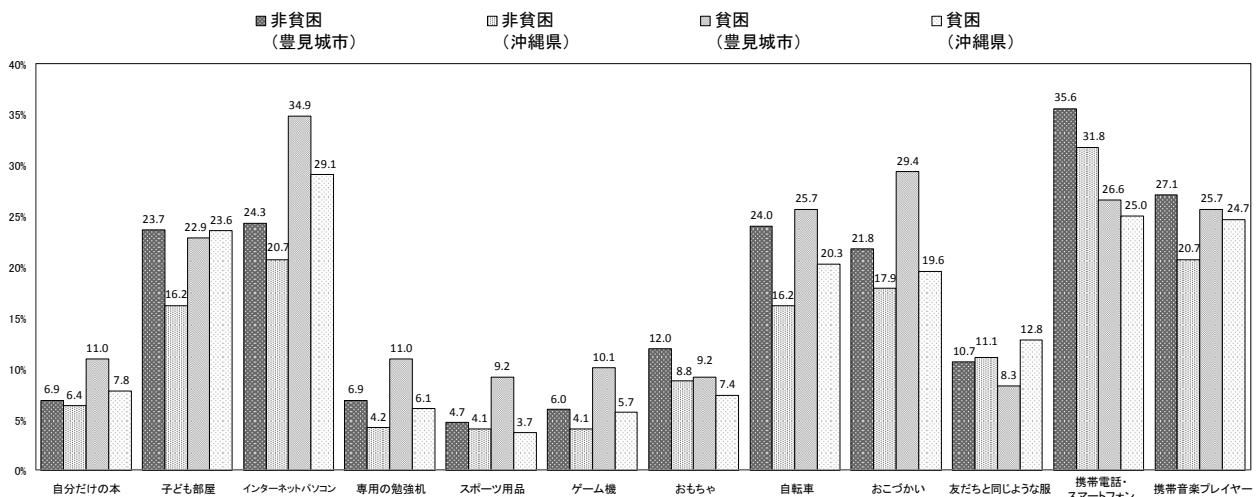


### ○「(ない場合に)ほしい」子供の割合【中学2年生】

各物品について、所有していないがほしいとする割合を分析した結果です。

「(ない場合に)ほしい」物品を項目毎に、経済状況別にみると、「子ども部屋」、「おもちゃ」、「友だちと同じような服」、「携帯電話・スマートフォン」、および「携帯音楽プレイヤー」は<非貧困>の方が高くなり、それ以外の7項目では<貧困>の方が高くなっています。<貧困>の方が高くなった物品をみると、「インターネットパソコン」は10.6ポイント、「おこづかい」は7.6ポイントと特に大きな差となっています。

沖縄県と比較すると、「おこづかい」、「スポーツ用品」では<非貧困>と<貧困>の差が特に大きくなっています。





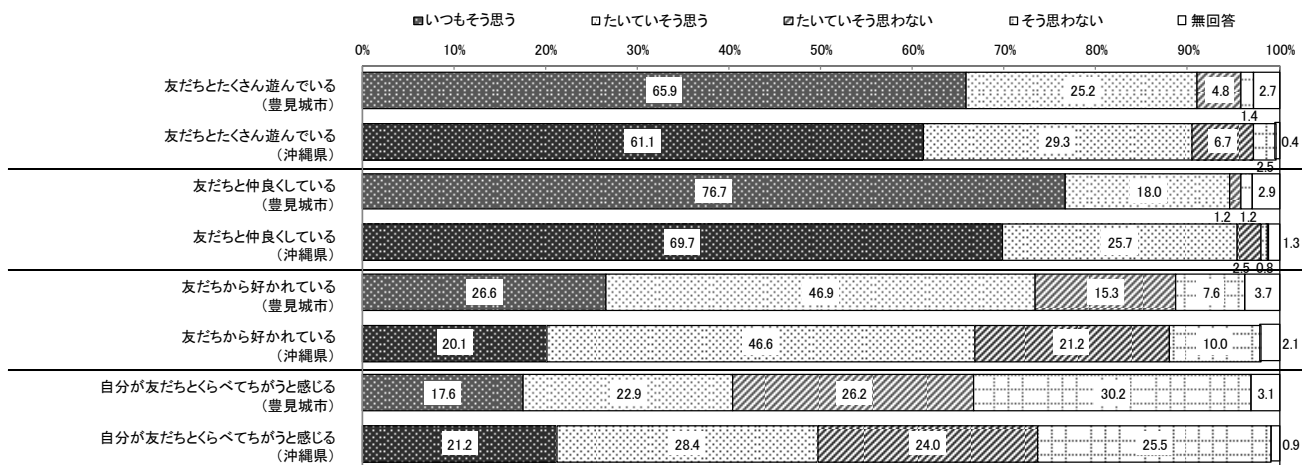
### 3. 友だちとの関係

#### ○友だちとの関係【小学5年生】

小学5年生の子供たちに、友だちとの関係について質問した結果です。

『そう思う』（「いつもそう思う」＋「たいていそう思う」）と回答した割合は、「友だちと仲良くしている」が94.7%、「友だちとたくさん遊んでいる」が91.1%、「友だちから好かれている」が73.5%、「自分が友だちとくらべてちがうと感じる」が40.5%となっています。

沖縄県と比較すると、『そう思う』と回答した割合は、「友だちから好かれている」では6.8ポイント高く、「自分が友だちとくらべてちがうと感じる」では9.1ポイント低くなっています。「友だちとたくさん遊んでいる」、および「友だちと仲良くしている」では大きな違いはみられません。

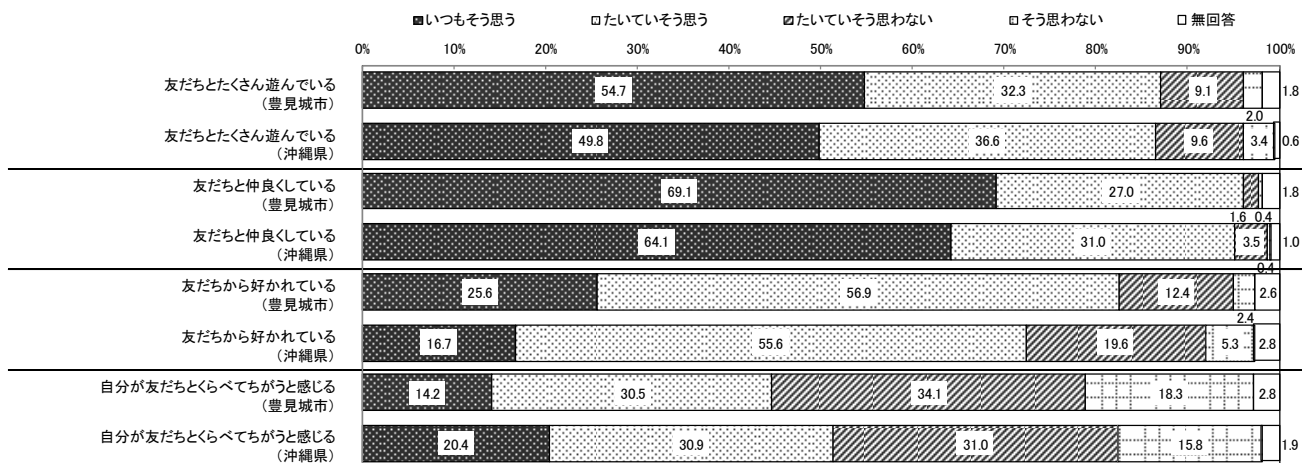


#### ○友だちとの関係【中学2年生】

中学2年生の子供たちに、友だちとの関係について質問した結果です。

『そう思う』（「いつもそう思う」＋「たいていそう思う」）と回答した割合は、「友だちと仲良くしている」が96.1%、「友だちとたくさん遊んでいる」が87.0%、「友だちから好かれている」が82.5%、「自分が友だちとくらべてちがうと感じる」が44.7%となっています。

沖縄県と比較すると、『そう思う』と回答した割合は、「友だちから好かれている」では10.2ポイント高く、「自分が友だちとくらべてちがうと感じる」では6.6ポイント低くなっています。「友だちとたくさん遊んでいる」、および「友だちと仲良くしている」では大きな違いはみられません。

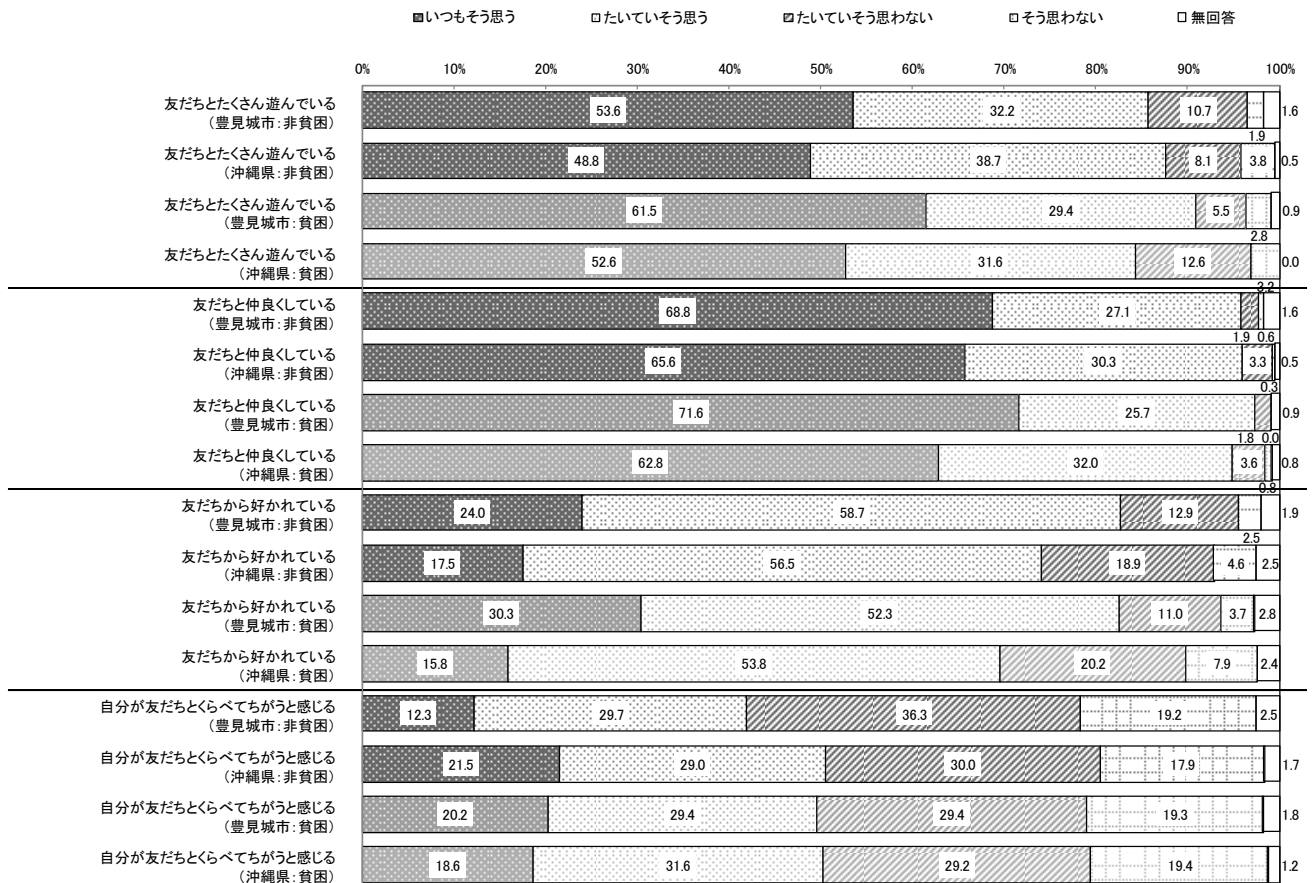


## ○友だちとの関係の経済状況による違い【中学2年生】

中学2年生における友だちとの関係が、家庭の経済状況によって異なるか分析した結果です。

経済状況別にみると、『そう思う』（「いつもそう思う」＋「たいていそう思う」）と回答した割合は、＜貧困＞の方が「自分が友だちとくらべてちがうと感じる」で7.6ポイント、「友だちとたくさん遊んでいる」で5.1ポイント、「友だちと仲良くしている」で1.4ポイントそれぞれ高くなっています。

沖縄県と比較すると、「友だちとたくさん遊んでいる」について、『そう思う』と回答した割合は、沖縄県では＜非貧困＞の方が3.3ポイント高くなっていますが、豊見城市では＜貧困＞の方が5.1ポイント高くなっており、異なる傾向がみられました。



## 4. 食事

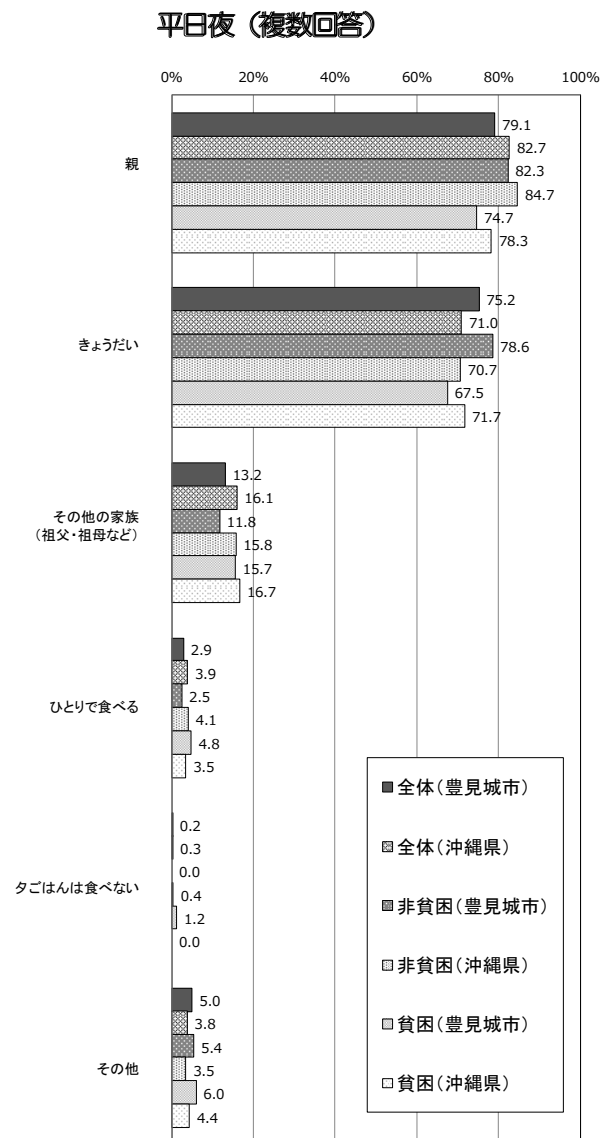
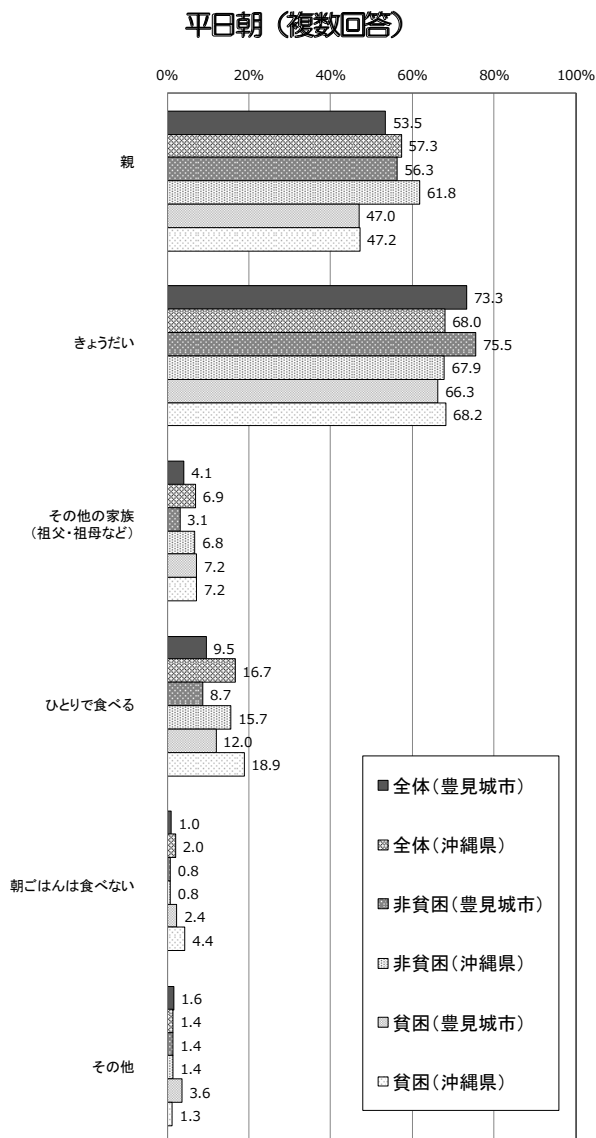
### ○食事を誰と食べるか／平日【小学5年生】

小学5年生の子供たちに、平日に食事を誰と食べるかについて質問した結果です。

「親」は平日朝で53.5%、平日夜で79.1%となっています。一方、「ひとりで食べる」は平日朝で9.5%、平日夜で2.9%となっています。

経済状況別にみると、「親」は<貧困>の方が平日朝で9.3ポイント、平日夜で7.6ポイントともに低くなっています。「ひとりで食べる」は<貧困>の方が平日朝で3.3ポイント、平日夜で2.3ポイントともに高くなっています。

沖縄県と比較すると、「親」は平日朝で3.8ポイント低く、平日夜でも3.6ポイント低くなっています。一方、「ひとりで食べる」は平日朝で7.2ポイント低くなっていますが、平日夜では大きな違いはみられません。



## ○食事を誰と食べるか/休日【小学5年生】

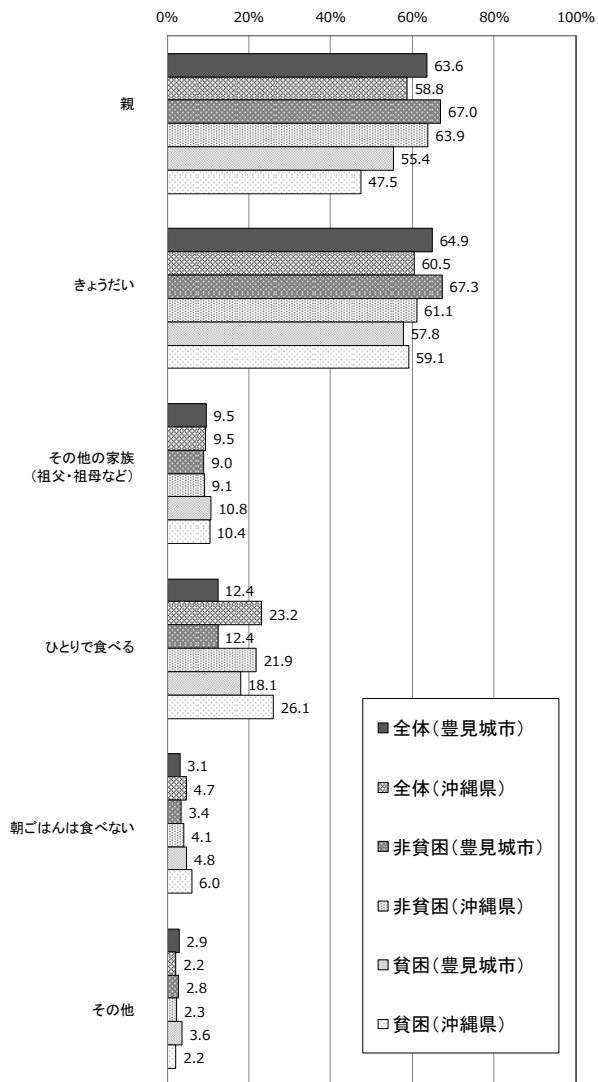
小学5年生の子供たちに、休日に食事を誰と食べるかについて質問した結果です。

「親」は休日朝で63.6%、休日夜で86.4%となっています。一方、「ひとりで食べる」は休日朝で12.4%、休日夜で1.2%となっています。

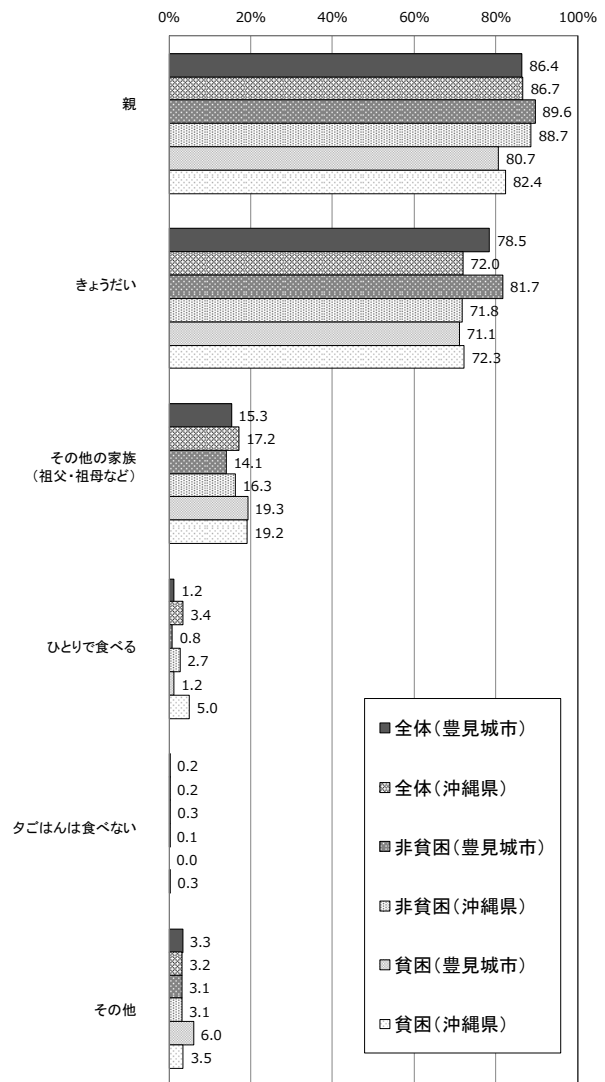
経済状況別にみると、「親」は<貧困>の方が休日朝で11.6ポイント、休日夜で8.9ポイントともに低くなっています。「ひとりで食べる」は<貧困>の方が休日朝で5.7ポイント高くなっていますが、休日夜では大きな違いはみられません。

沖縄県と比較すると、「親」は休日朝で4.8ポイント高くなっていますが、休日夜では大きな違いはみられません。一方、「ひとりで食べる」は休日朝で10.8ポイント、休日夜で2.2ポイントともに低くなっています。

### 休日朝（複数回答）



### 休日夜（複数回答）



## ○食事を誰と食べるか/平日【中学2年生】

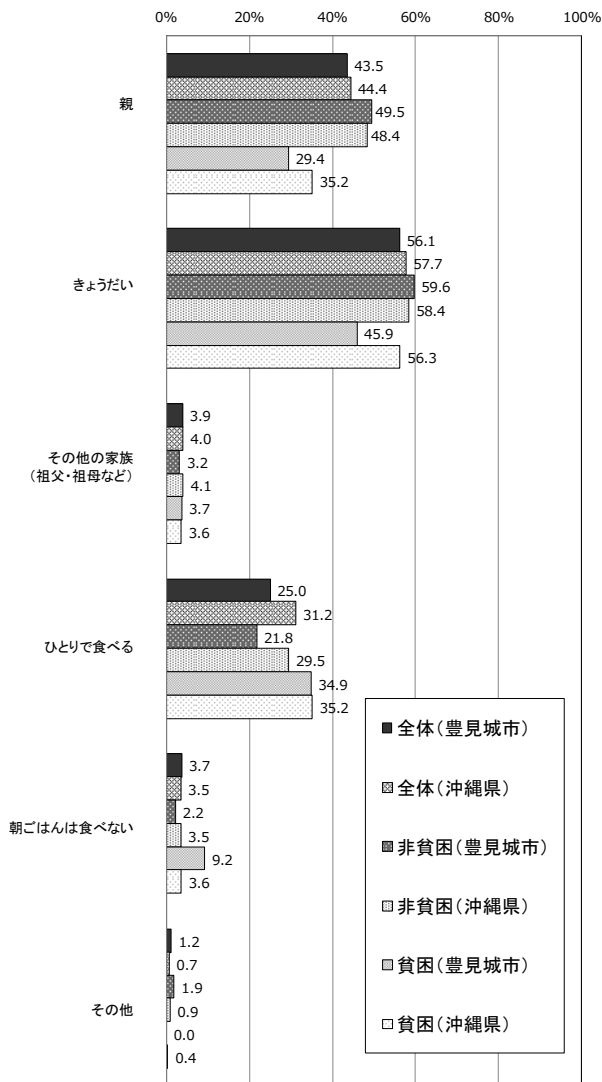
中学2年生の子供たちに、平日に食事を誰と食べるかについて質問した結果です。

「親」は平日朝で43.5%、平日夜で78.7%となっています。一方、「ひとりで食べる」は平日朝で25.0%、平日夜で8.1%となっています。

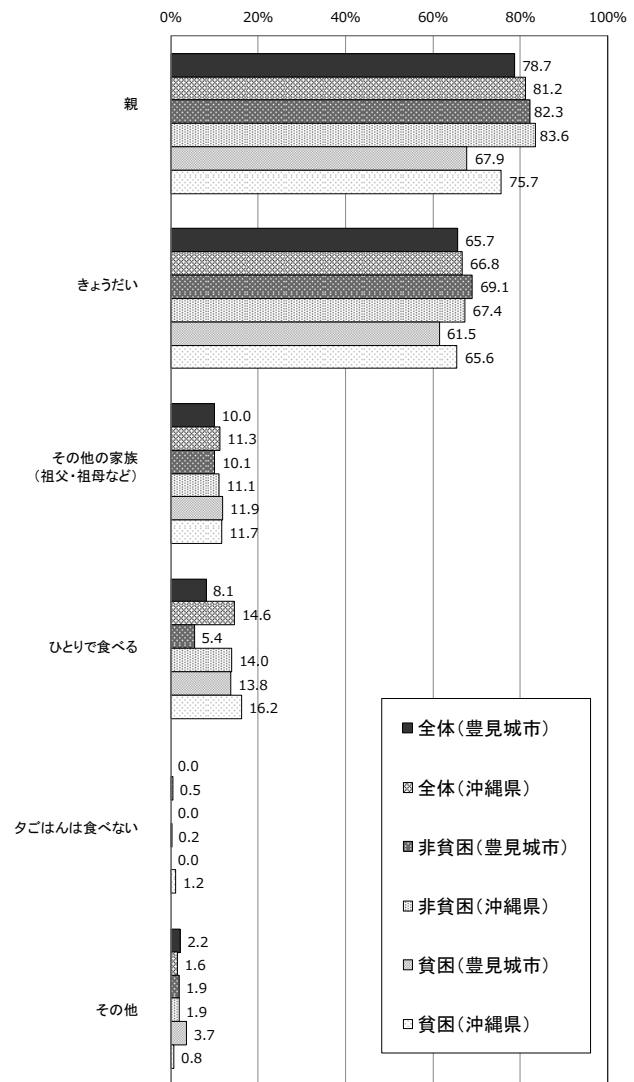
経済状況別にみると、「親」は<貧困>の方が平日朝で20.1ポイント、平日夜で14.4ポイントともに低くなっています。「ひとりで食べる」は<貧困>の方が平日朝で13.1ポイント、平日夜で8.4ポイントともに高くなっています。

沖縄県と比較すると、「親」は平日朝では大きな違いはみられませんが、平日夜では2.5ポイント低くなっています。一方、「ひとりで食べる」は平日朝で6.2ポイント、平日夜で6.5ポイントともに低くなっています。

平日朝（複数回答）



平日夜（複数回答）



## ○食事を誰と食べるか/休日【中学2年生】

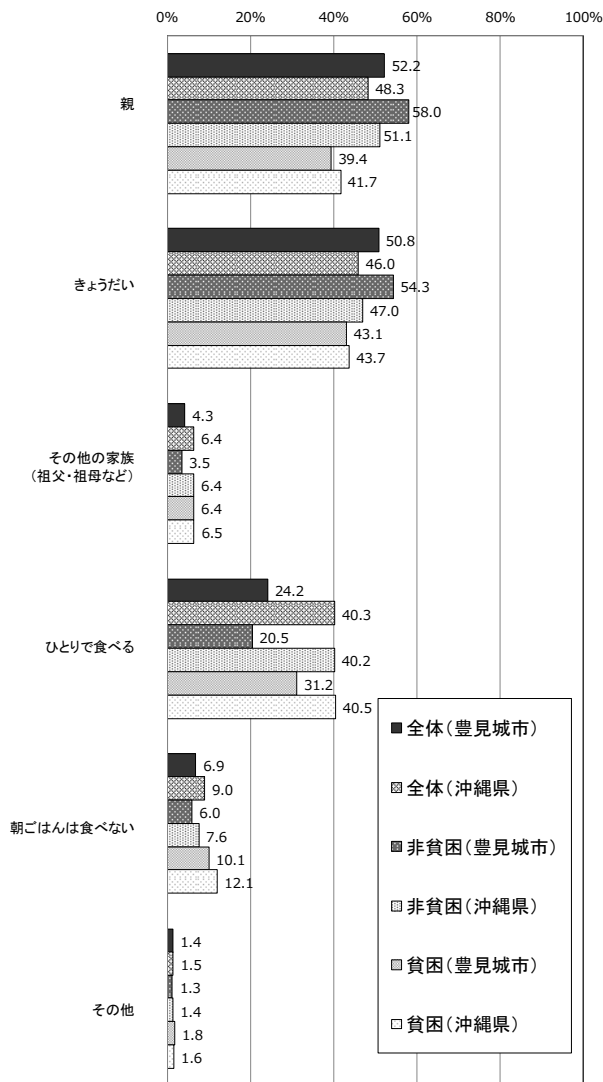
中学2年生の子供たちに、休日に食事を誰と食べるかについて質問した結果です。

「親」は休日朝で52.2%、休日夜で87.8%となっています。一方、「ひとりで食べる」は休日朝で24.2%、休日夜で4.7%となっています。

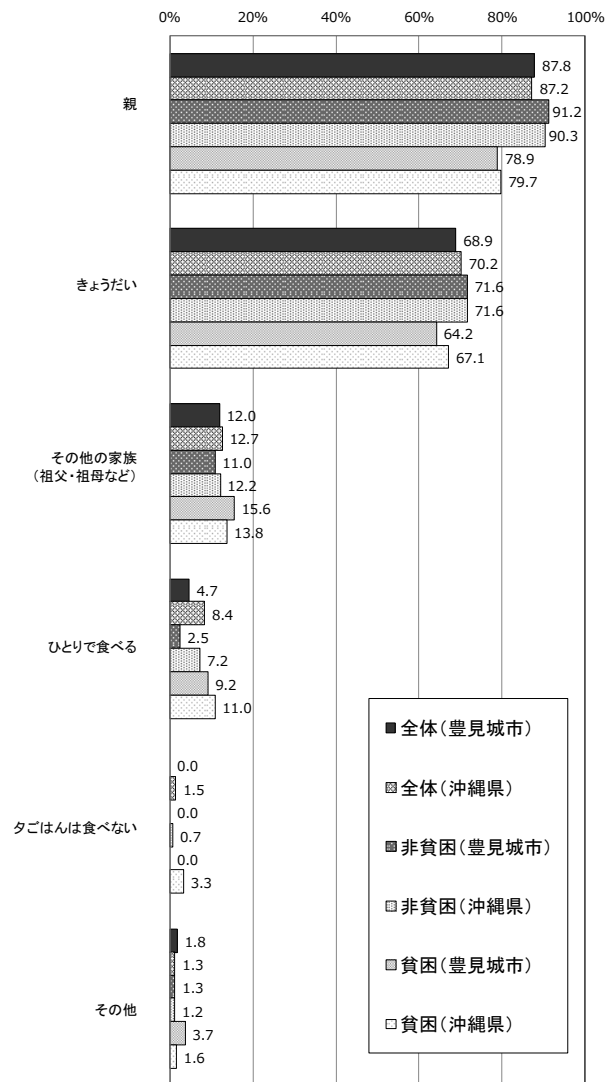
経済状況別にみると、「親」は<貧困>の方が休日朝で18.6ポイント、休日夜で12.3ポイントともに低くなっています。「ひとりで食べる」は<貧困>の方が休日朝で10.7ポイント、休日夜で6.7ポイントともに高くなっています。

沖縄県と比較すると、「親」は休日朝で3.9ポイント高くなっていますが、休日夜では大きな違いはみられません。一方、「ひとりで食べる」は休日朝で16.1ポイント、休日夜で3.7ポイントともに低くなっています。

### 休日朝（複数回答）



### 休日夜（複数回答）



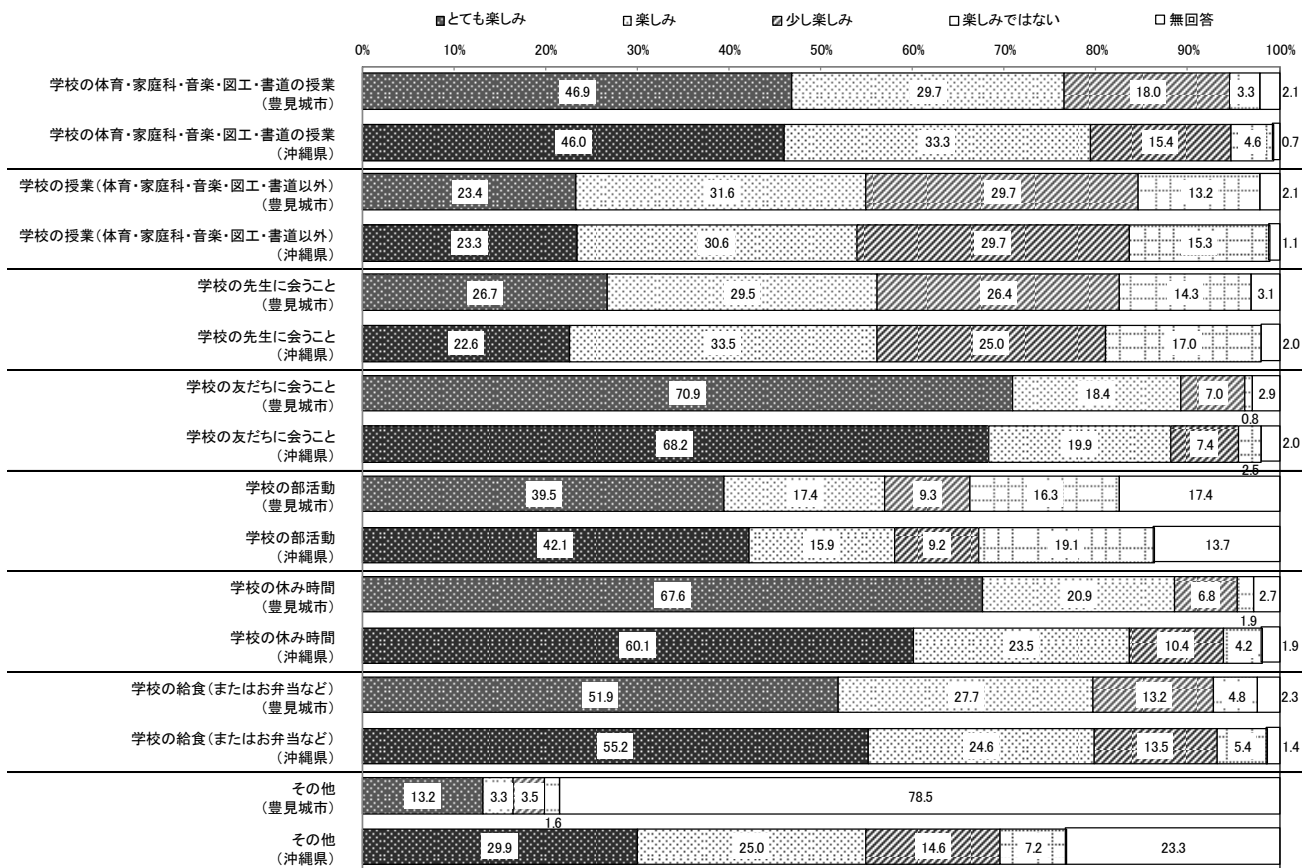
## 5. 学校生活

### ○学校生活【小学5年生】

小学5年生の子供たちに、学校生活について質問した結果です。

「友だちに会うこと」(70.9%)、「学校の休み時間」(67.6%)、「学校の給食(またはお弁当など)」(51.9%)については過半数の子供が「とても楽しみ」としています。一方で、「学校の部活動」(16.3%)、「学校の先生に会うこと」(14.3%)、「学校の授業(体育・家庭科・音楽・図工・書道以外)」(13.2%)については「楽しみではない」とする子供が1割を超えています。

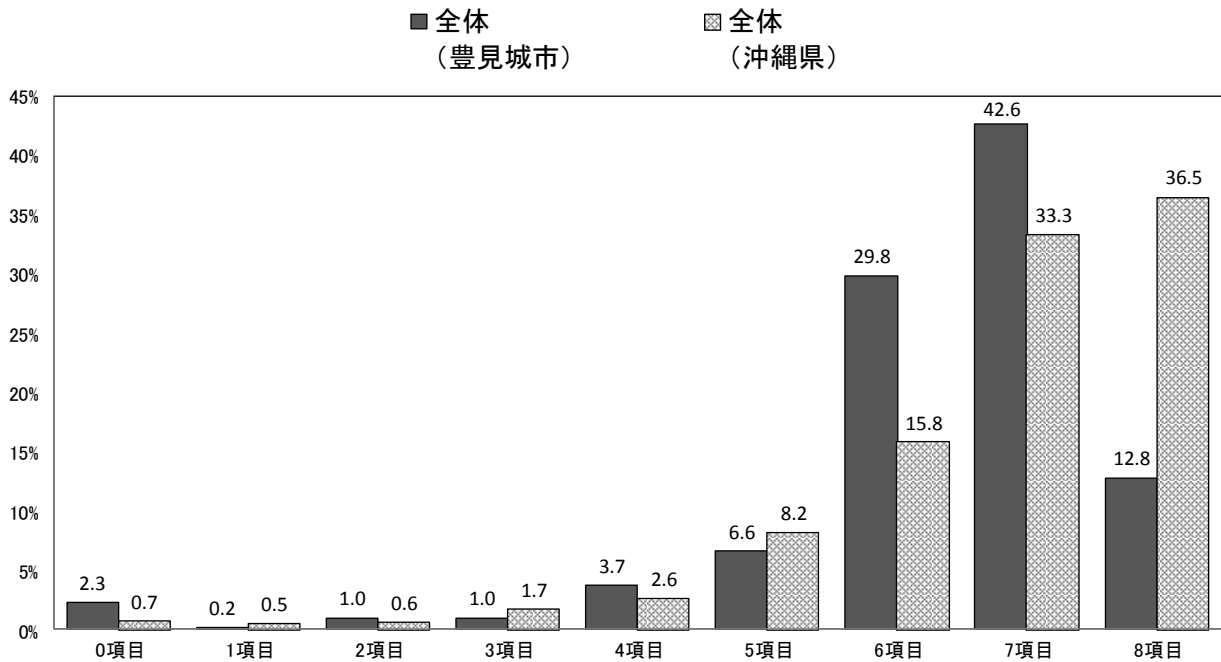
沖縄県と比較すると、「とても楽しみ」とする割合は「学校の休み時間」が7.5ポイント、「学校の先生に会うこと」が4.1ポイントともに高くなり、一方、「学校の給食(またはお弁当など)」は3.3ポイント低くなり、特に差が大きくなっています。



○学校生活が「とても楽しみ」、「楽しみ」、または「少し楽しみ」と答えた項目数【小学5年生】

小学5年生の子供たちが「とても楽しみ」、「楽しみ」、または「少し楽しみ」と答えた項目数について分析した結果です。

全8項目のうち、「とても楽しみ」、「楽しみ」、または「少し楽しみ」と答えた項目数は、「8項目」すべてが12.8%、「7項目」が42.6%、「6項目」が29.8%となっており、『6項目以上』で85.2%を占めています。沖縄県と比較すると、「8項目」すべてに「とても楽しみ」「楽しみ」「少し楽しみ」と答えた子供は23.7ポイント低くなっていますが、「7項目」は9.3ポイント、「6項目」は14.0ポイントともに高くなっており、『6項目以上』では大きな違いはみられません。一方、「0項目」の割合は1.6ポイント高くなっています。



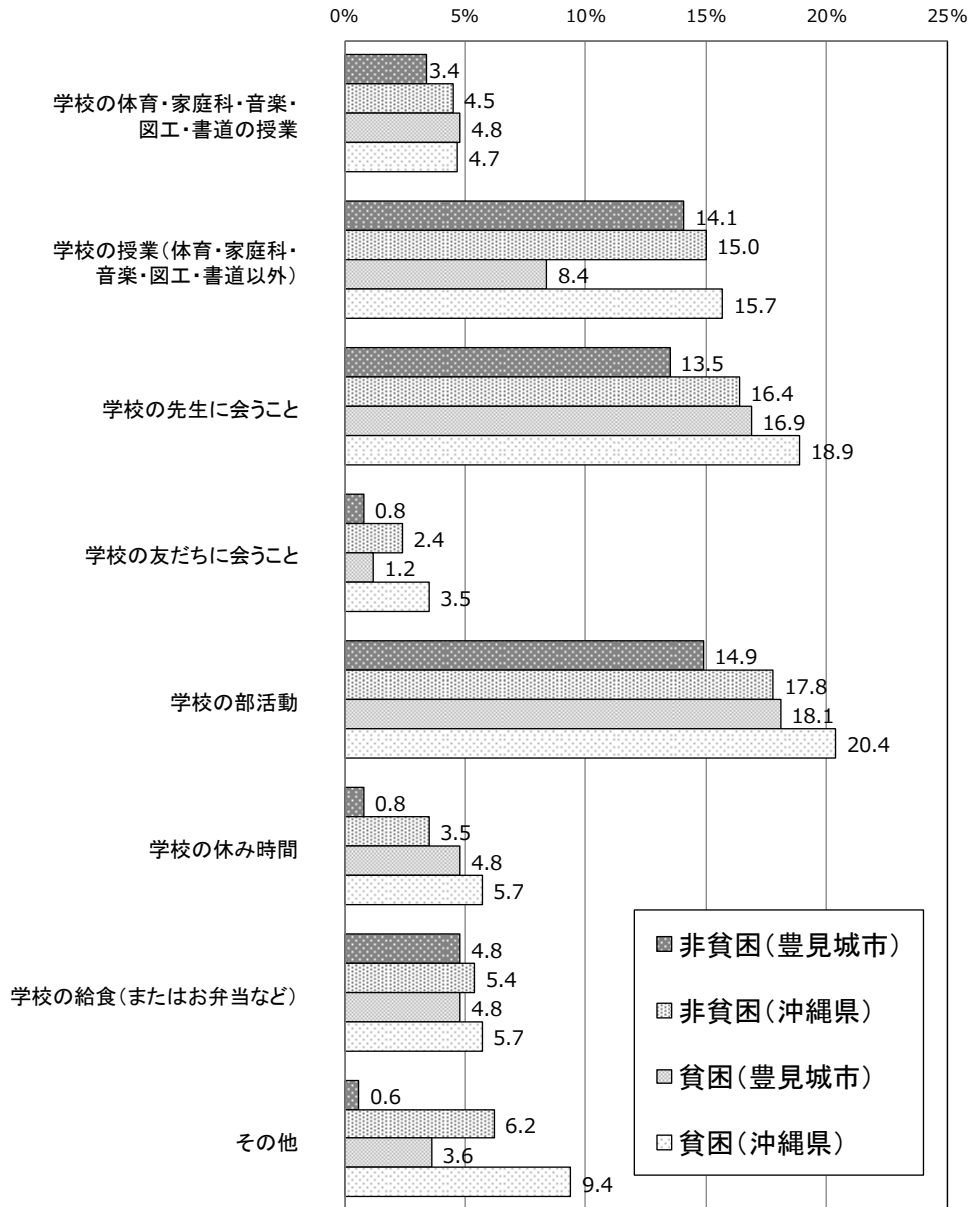


## ○学校生活が「楽しみではない」とした子供の割合【小学5年生】

小学5年生の子供たちが、「楽しみではない」とする割合が、家庭の経済状況によって異なるか分析した結果です。

「楽しみではない」とする割合を経済状況別にみると、＜非貧困＞、＜貧困＞ともに「学校の部活動」が最も高くなっています。また、「学校の休み時間」、「学校の先生に会うこと」、および「学校の部活動」については＜貧困＞の方がいずれも約3.0～4.0ポイント高くなっていますが、「学校の授業（体育・家庭科・音楽・図工・書道以外）」については＜貧困＞の方が5.7ポイント低くなっています。

沖縄県と比較すると、「学校の授業（体育・家庭科・音楽・図工・書道以外）」については、沖縄県では経済状況による大きな違いはみられませんが、豊見城市では＜貧困＞の方が5.7ポイント低くなっています。

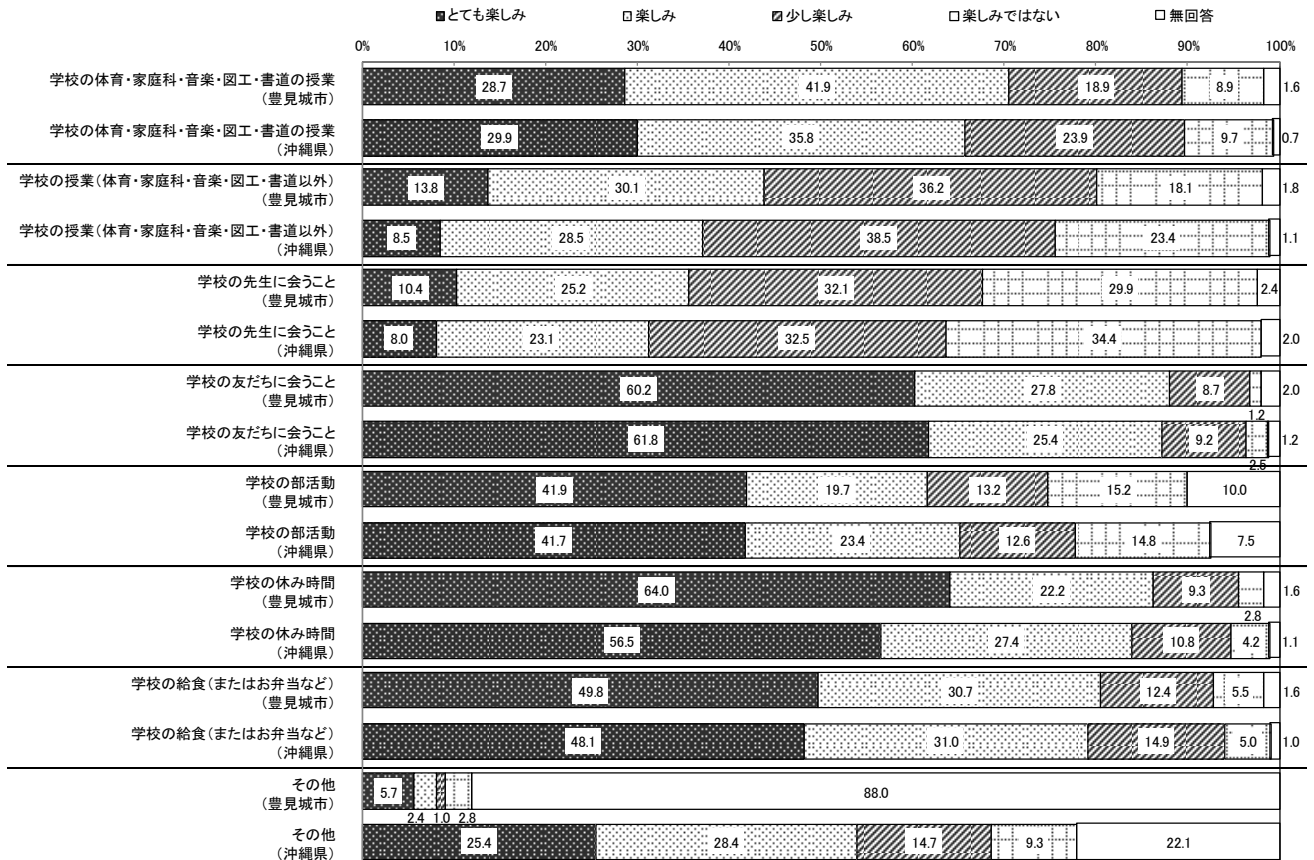


## ○学校生活【中学2年生】

中学2年生の子供たちに、学校生活について質問した結果です。

「学校の休み時間」(64.0%)、「友だちに会うこと」(60.2%)については過半数の子供が「とても楽しみ」としています。一方で、「学校の先生に会うこと」(29.9%)、「学校の授業(体育・家庭科・音楽・図工・書道以外)」(18.1%)「学校の部活動」(15.2%)については「楽しみではない」とする割合が高くなっています。

沖縄県と比較すると、「とても楽しみ」とする割合は「学校の休み時間」が7.5ポイント、「学校の授業(体育・家庭科・音楽・図工・書道以外)」が5.3ポイントともに高くなっています。一方、「楽しみではない」とする割合は、「学校の授業(体育・家庭科・音楽・図工・書道以外)」が5.3ポイント、「学校の先生に会うこと」が4.5ポイントともに低くなっており、特に差が大きくなっています。

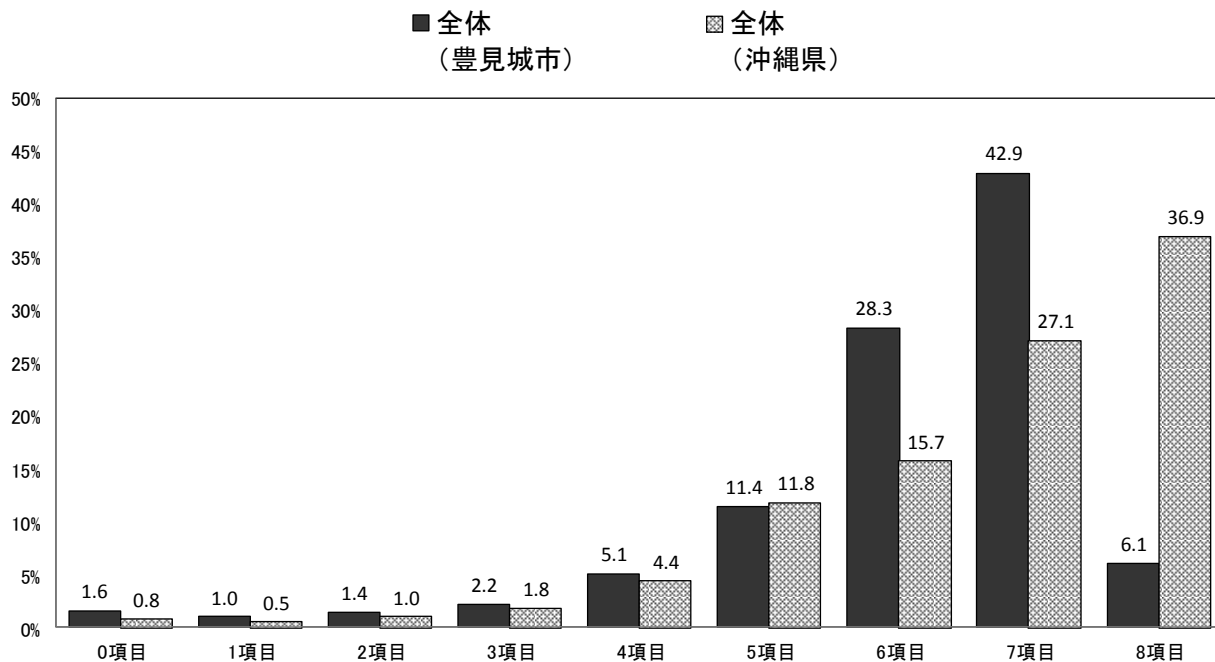


### ○学校生活が「とても楽しみ」、「楽しみ」、または「少し楽しみ」と答えた項目数【中学2年生】

中学2年生の子供たちが「とても楽しみ」、「楽しみ」、または「少し楽しみ」と答えた項目数について分析した結果です。

全8項目のうち、「とても楽しみ」、「楽しみ」、または「少し楽しみ」と答えた項目数は、「8項目」すべてが6.1%、「7項目」が42.9%、「6項目」が28.3%となっており、『6項目以上』で77.3%を占めています。

沖縄県と比較すると、「8項目」すべてに「とても楽しみ」「楽しみ」「少し楽しみ」と答えた子供は30.8ポイント低くなっていますが、「7項目」は15.8ポイント高く、「6項目」も12.6ポイント高くなっており、『6項目以上』では大きな違いはみられません。

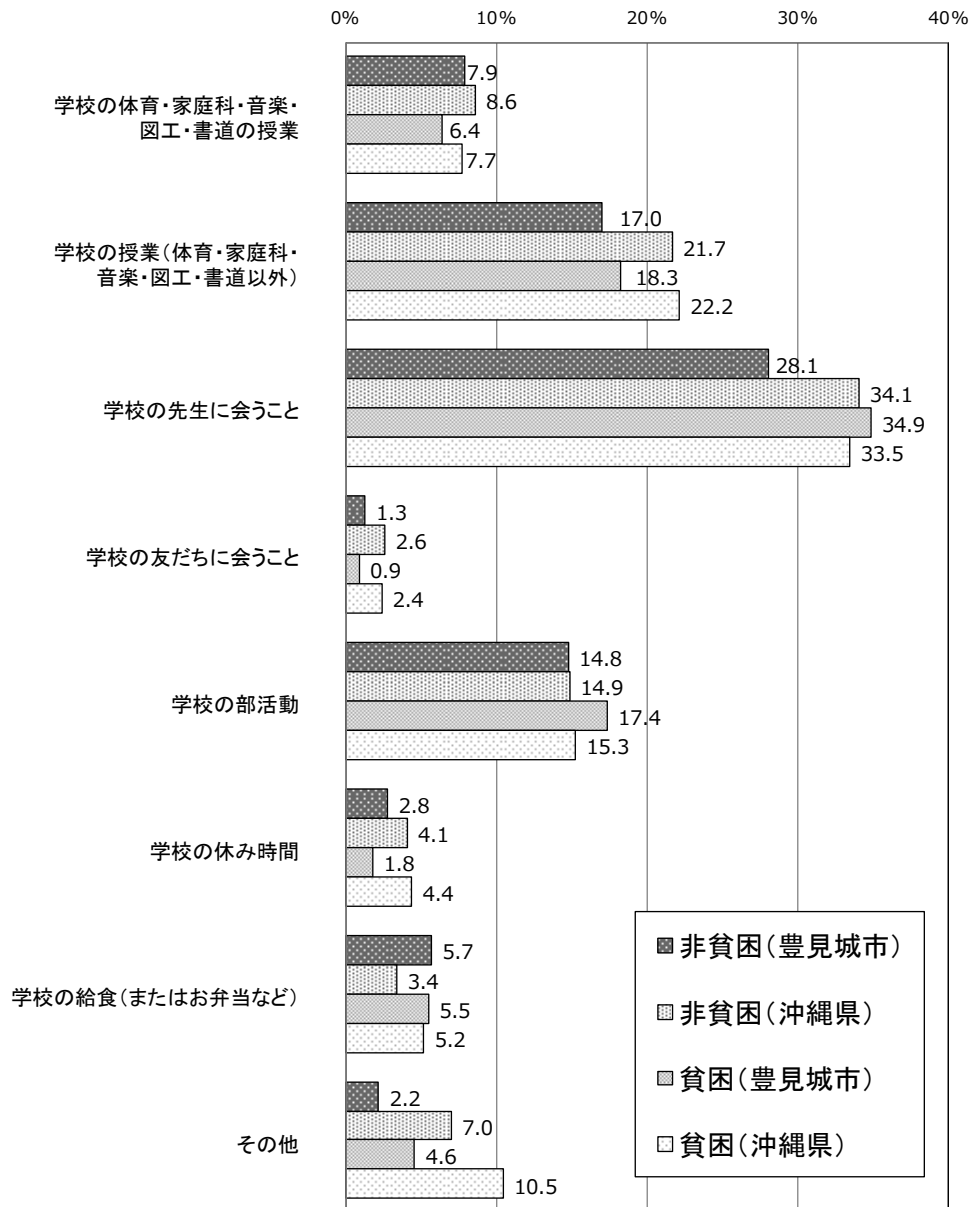


## ○学校生活が「楽しみではない」とした子供の割合【中学2年生】

中学2年生の子供たちが、「楽しみではない」とする割合が、家庭の経済状況によって異なるか分析した結果です。

経済状況別にみると、〈非貧困〉、〈貧困〉ともに「学校の先生に会うこと」が最も高くなっています。また、「学校の先生に会うこと」については〈貧困〉の方が6.8ポイント高く、特に差が大きくなっていますが、〈非貧困〉の方が特に高い項目はありませんでした。

沖縄県と比較すると、「学校の先生に会うこと」については、沖縄県では経済状況による大きな違いはみられませんが、豊見城市では〈貧困〉の方が6.8ポイント高く、経済状況による差が大きくなっています。



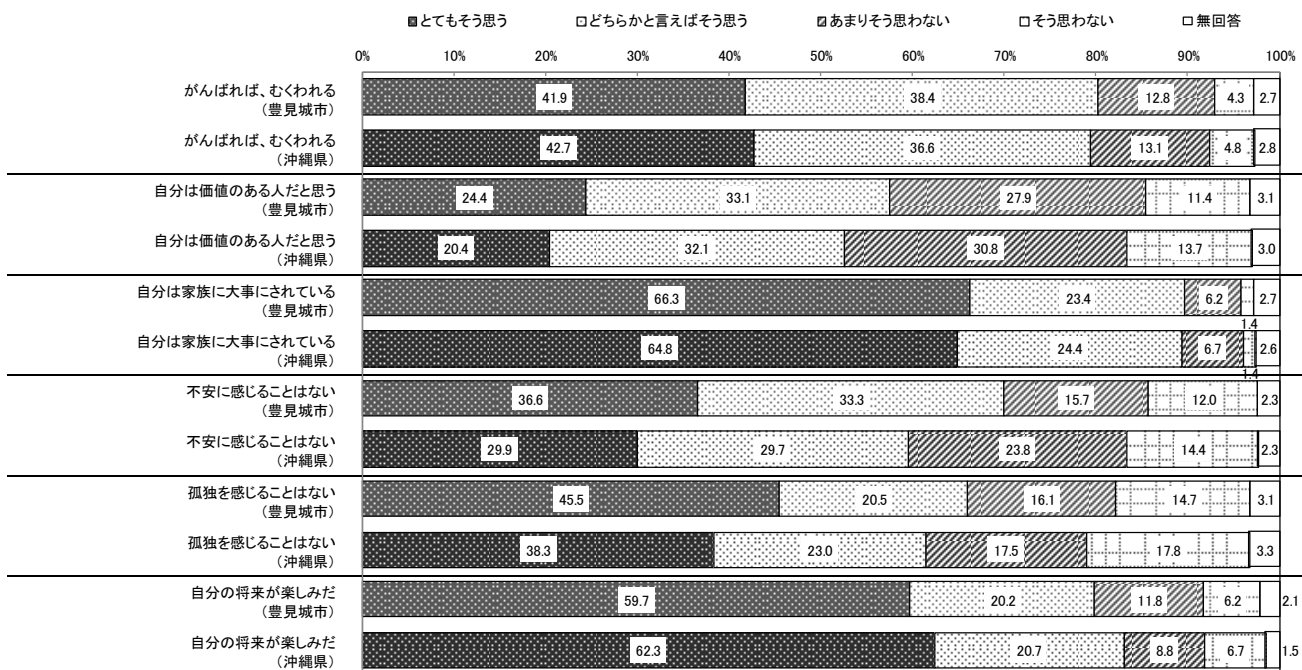
## 6. 子供の自己肯定感

### ○子供の自己肯定感【小学5年生】

小学5年生の子供たちに、自分のことをどう思っているか（自己肯定感）について質問した結果です。

『そう思う』（「とてもそう思う」＋「どちらかと言えばそう思う」と回答した割合は、すべての項目で過半数となっており、特に「自分は家族に大事にされている」で89.7%、「がんばれば、むくわれる」で80.3%と8割を超えています。

沖縄県と比較すると、『そう思う』と回答した割合は、「不安に感じることはない」で10.3ポイント、「自分は価値のある人だと思う」で5.0ポイント、「孤独を感じることはない」で4.7ポイントそれぞれ高くなっています。一方、「自分の将来が楽しみだ」は3.1ポイント低くなっています。



## ○子供の自己肯定感【小学5年生】：性別

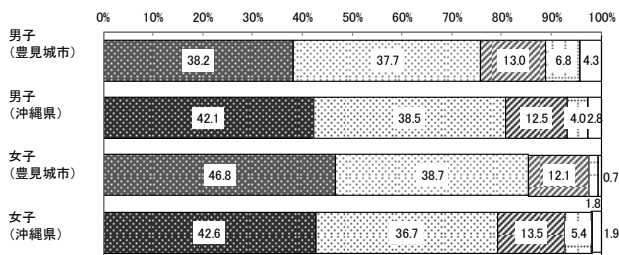
小学5年生の子供たちの自己肯定感が、性別によって異なるか分析した結果です。

『そう思う』（「とてもそう思う」＋「どちらかと言えばそう思う」）と回答した割合は、「不安に感じることはない」は＜男子＞の方が高くなっていますが、それ以外の5項目では＜女子＞の方が高くなっています。＜女子＞の方が高い項目の中では、「孤独を感じることはない」で14.2ポイント、「自分は価値のある人間だと思う」で11.8ポイント高く、特に差が大きくなっています。

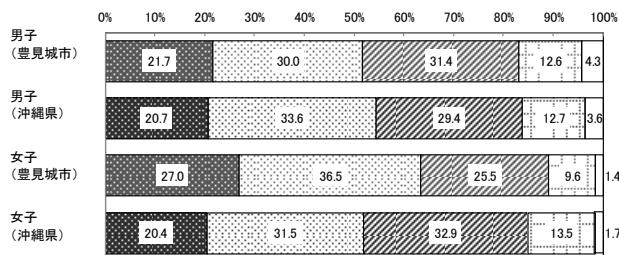
沖縄県と比較すると、『そう思う』と回答した割合は、＜女子＞の「孤独を感じることはない」で13.1ポイント、＜女子＞の「価値のある人間だ」で11.6ポイント、＜男子＞の「不安に感じることはない」で11.6ポイントそれぞれ高くなっています。一方、＜男子＞の「自分の将来が楽しみだ」については7.5ポイント低くなっています。

■とてもそう思う      □どちらかと言えばそう思う      □あまりそう思わない      □そう思わない      □無回答

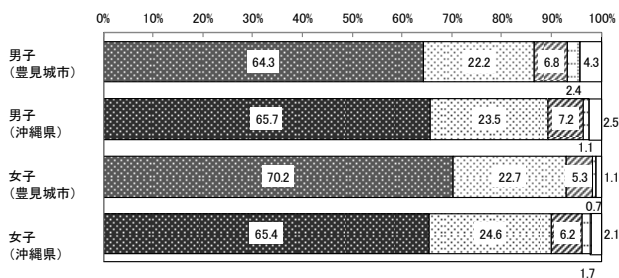
### がんばれば、むくわれる



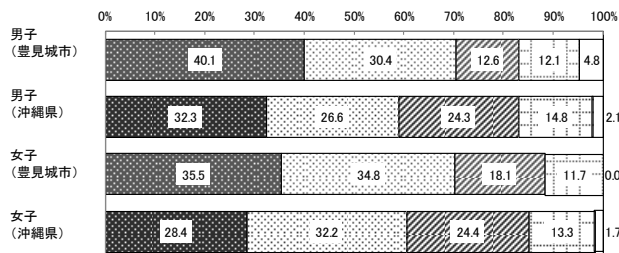
### 自分は価値のある人だと思う



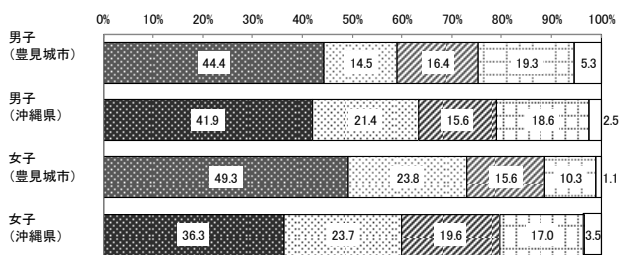
### 自分は家族に大事にされている



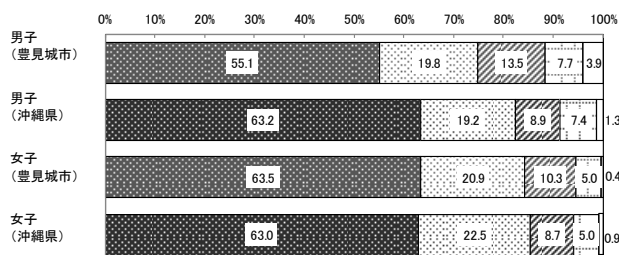
### 不安に感じることはない



### 孤独を感じることはない



### 自分の将来が楽しみだ

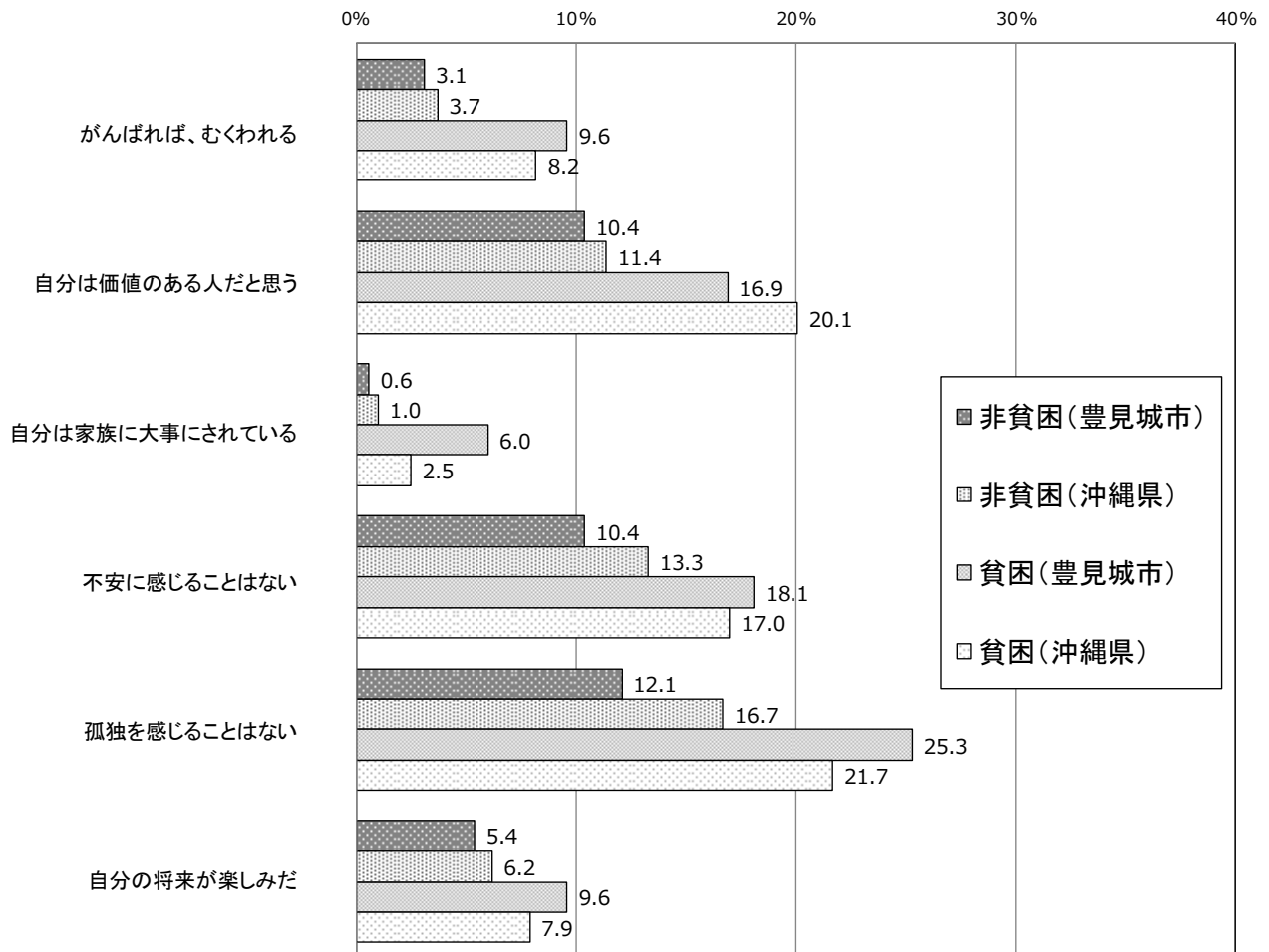


## ○自己肯定感「そう思わない」とした子供の割合【小学5年生】

小学5年生の子供たちが、自己肯定感について「そう思わない」とした割合が経済状況により異なるか分析した結果です。

経済状況別にみると、＜非貧困＞、＜貧困＞ともに「孤独を感じることはない」が最も高くなっていますが、すべての項目で＜貧困＞の方が4.0ポイント以上高く、特に「孤独を感じることはない」では13.2ポイントの差がみられます。

沖縄県と比較すると、「孤独を感じることはない」については、＜非貧困＞と＜貧困＞の差が特に大きくなっています。

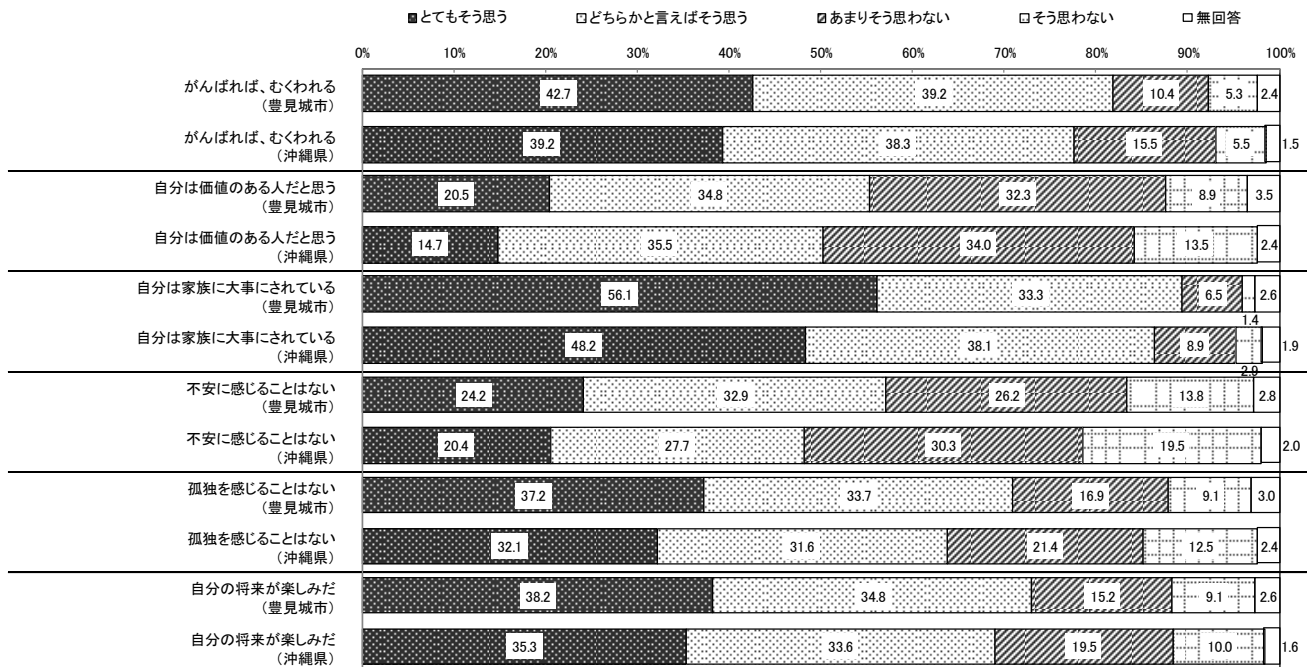


## ○子供の自己肯定感【中学2年生】

中学2年生の子供たちに、自分のことをどう思っているか（自己肯定感）について質問した結果です。

『そう思う』（「とてもそう思う」＋「どちらかと言えばそう思う」）と回答した割合は、すべての項目で過半数となっており、特に「自分は家族に大事にされている」で89.4%、「がんばれば、むくわれる」で81.9%と8割を超えています。

沖縄県と比較すると、『そう思う』と回答した割合は、すべての項目で3.0ポイント以上高く、特に「不安に感じることはない」で9.0ポイント、「孤独を感じることはない」で7.2ポイントそれぞれ高くなっています。





## ○子供の自己肯定感【中学2年生】：性別

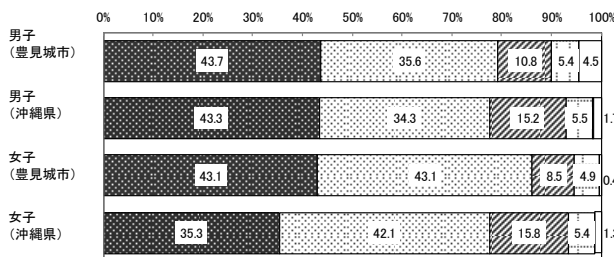
中学2年生の子供たちの自己肯定感が、性別により異なるか分析した結果です。

『そう思う』（「とてもそう思う」＋「どちらかと言えばそう思う」）と回答した割合は、「不安に感じることはない」では＜男子＞の方が高くなっていますが、それ以外の5項目は＜女子＞の方が高くなっています。＜男子＞の方が高い項目の中では、「不安に感じることはない」で9.3ポイントの差があり、＜女子＞の方が高い項目の中では、「がんばれば、むくわれる」で6.9ポイントの差があり、特に差が大きくなっています。

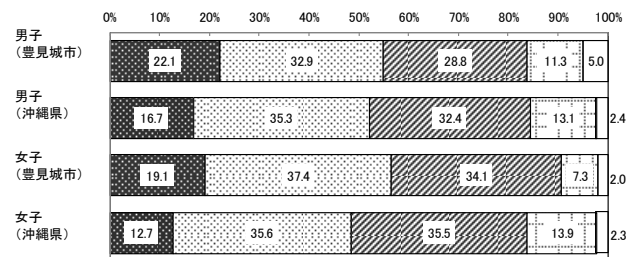
沖縄県と比較すると、『そう思う』と回答した割合は、＜男子＞、＜女子＞ともにすべての項目で沖縄県の割合を上回っており、＜女子＞の「孤独を感じることはない」で13.0ポイントの差、＜女子＞の「不安に感じることはない」で11.4ポイントの差がみられます。

■とてもそう思う      □どちらかと言えばそう思う      □あまりそう思わない      □そう思わない      □無回答

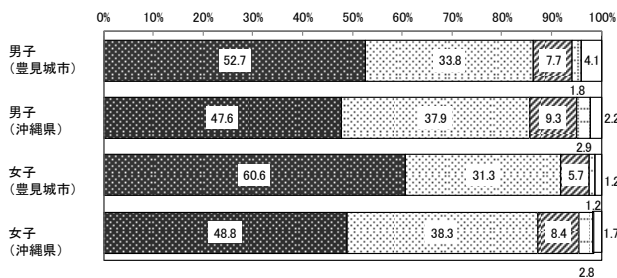
### がんばれば、むくわれる



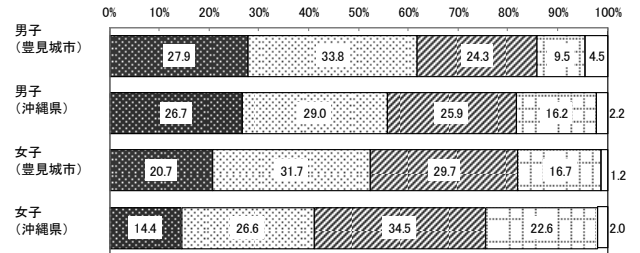
### 自分は価値のある人だと思う



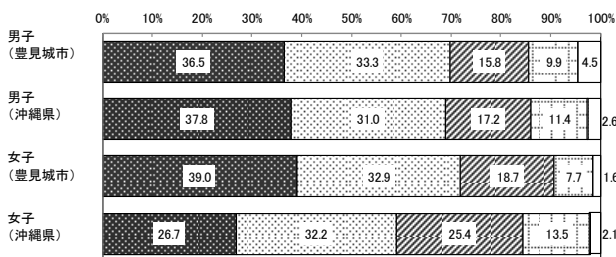
### 自分は家族に大事にされている



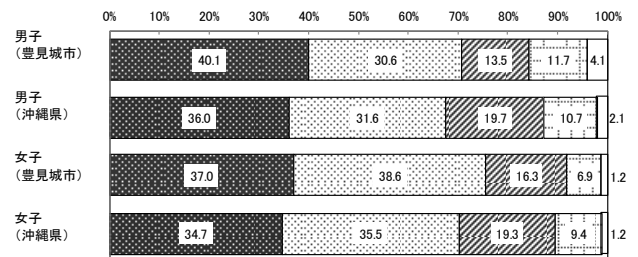
### 不安に感じることはない



### 孤独を感じることはない



### 自分の将来が楽しみだ

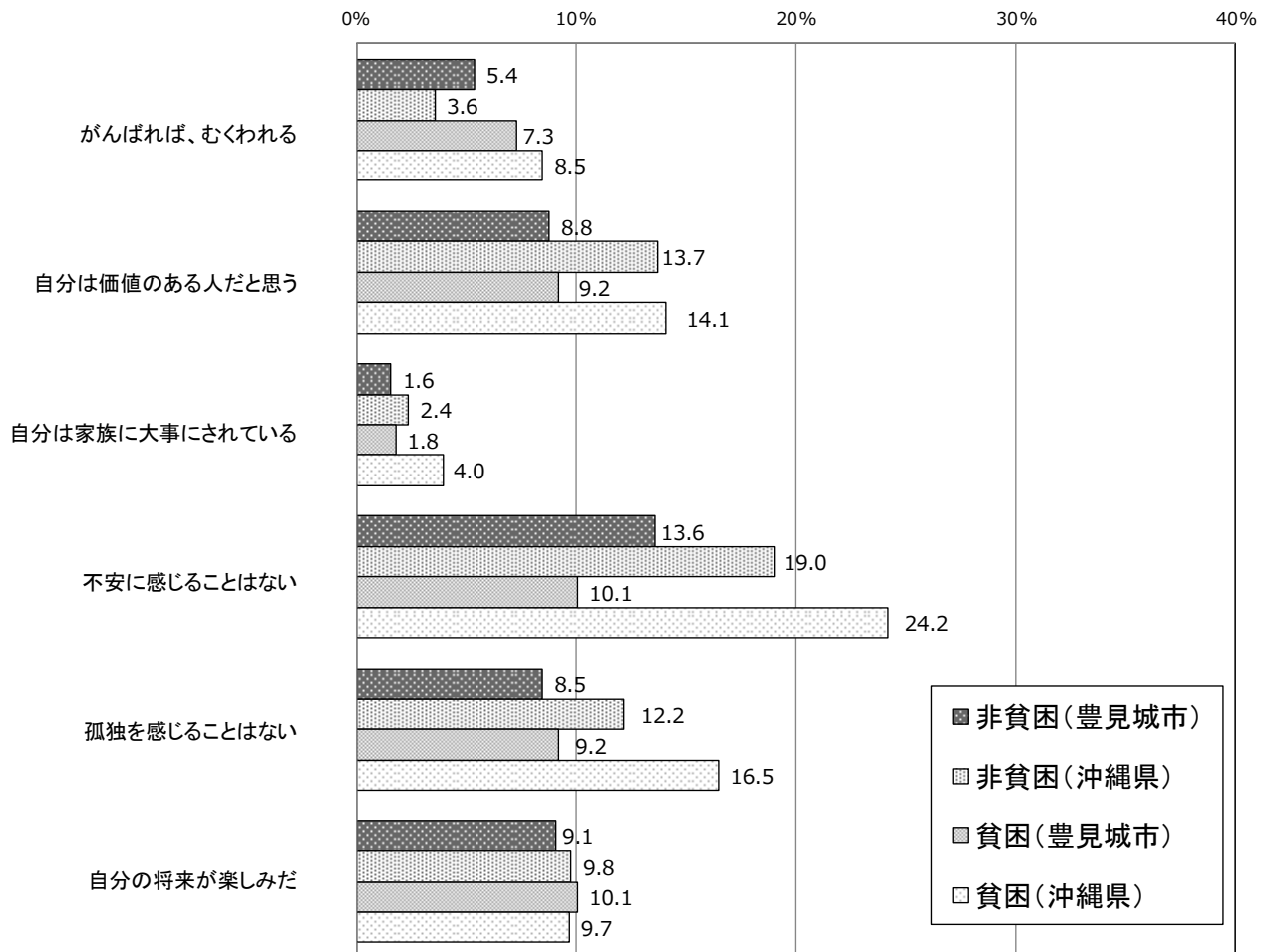


## ○自己肯定感「そうは思わない」とした子供の割合【中学2年生】

中学2年生の子供たちが、自己肯定感について「そうは思わない」とした割合が経済状況により異なるか分析した結果です。

経済状況別にみると、＜非貧困＞では「不安に感じることはない」、＜貧困＞では「不安に感じることはない」、および「自分の将来が楽しみだ」が最も高くなっています。「不安に感じることはない」は＜非貧困＞の方が3.5ポイント高くなっていますが、これ以外のすべての項目では大きな違いはみられませんでした。

沖縄県と比較すると、「不安に感じることはない」については、沖縄県では＜貧困＞の方が5.2ポイント高くなっていますが、豊見城市では＜非貧困＞の方が3.5ポイント高くなっており、異なる傾向がみられています。



## 7. 就学援助の利用

### ○就学援助の利用状況

小学1年生、小学5年生、中学2年生の保護者たちに、就学援助の利用状況について質問した結果です。

#### 【小学1年生】

就学援助制度の利用状況について、「利用している」は11.9%となっています。

（「利用している」と回答したうち）必要な経費をカバーできているかについては、「あまりカバーできていない」が37.5%、「カバーできていない」が4.2%となり、合計で41.7%となっています。

（「利用していない」と回答したうち）就学援助を申請しなかった理由については、「必要ないため」が59.7%と過半数を占めています。一方、「必要であるが、申請要件を満たしていなかったため」は20.0%となっています。また、「就学援助制度を知らなかったため」は11.7%となっています。

沖縄県と比較すると、就学援助制度を「利用している」は1.6ポイント低くなっています。必要な経費について、「あまりカバーできていない」と「カバーできていない」の合計は12.2ポイント高くなっています。就学援助を申請しなかった理由は、「必要ないため」は4.6ポイント低く、一方「必要であるが、申請要件を満たしていなかったため」は7.8ポイント高くなっています。また、「就学援助制度を知らなかったため」は1.9ポイント低くなっています。

#### 【小学5年生】

就学援助制度の利用状況について、「利用している」は12.4%となっています。

（「利用している」と回答したうち）必要な経費をカバーできているかについては、「あまりカバーできていない」が43.8%、「カバーできていない」が4.7%となり、合計で48.5%となっています。

（「利用していない」と回答したうち）就学援助を申請しなかった理由については、「必要ないため」が70.5%と7割を超えています。一方、「必要であるが、申請要件を満たしていなかったため」は12.6%となっています。また、「就学援助制度を知らなかったため」は5.9%となっています。

沖縄県と比較すると、就学援助制度を「利用している」は5.4ポイント低くなっています。必要な経費について、「あまりカバーできていない」と「カバーできていない」の合計は9.0ポイント高くなっています。就学援助を申請しなかった理由は、「必要ないため」は5.8ポイント、「必要であるが、申請要件を満たしていなかったため」は0.2ポイントともに高くなっています。また、「就学援助制度を知らなかったため」は4.9ポイント低くなっています。

#### 【中学2年生】

就学援助制度の利用状況について、「利用している」は18.8%となっています。

（「利用している」と回答したうち）必要な経費をカバーできているかについては、「あまりカバーできていない」が40.9%、「カバーできていない」が12.9%となり、合計で53.8%と過半数を占めています。

（「利用していない」と回答したうち）就学援助を申請しなかった理由については、「必要ないため」が64.4%と過半数を占めています。一方、「必要であるが、申請要件を満たしていなかったため」は18.3%となっています。また、「就学援助制度を知らなかったため」は5.8%となっています。

沖縄県と比較すると、就学援助制度を「利用している」は0.6ポイント低くなっています。必要な経費について、「あまりカバーできていない」と「カバーできていない」の合計は18.5ポイント高くなっています。就学援助を申請しなかった理由は、「必要ないため」は1.4ポイント低く、一方「必要であるが、申請要件を満たしていなかったため」は3.5ポイント高くなっています。また、「就学援助制度を知らなかったため」は2.2ポイント低くなっています。

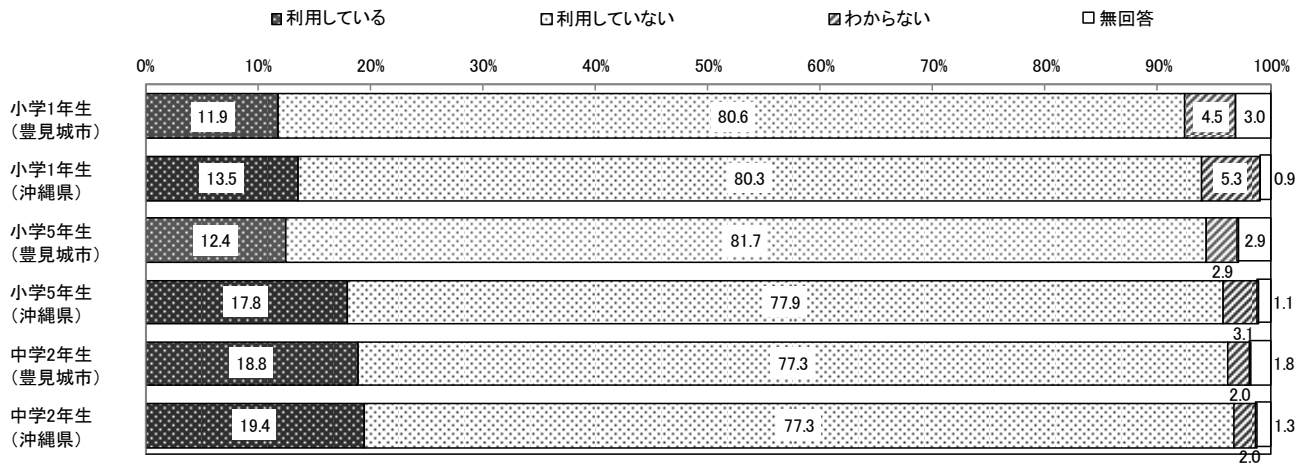
#### 【子供の学年による比較】

就学援助制度を「利用している」は学年が上がるにつれて高くなっています。

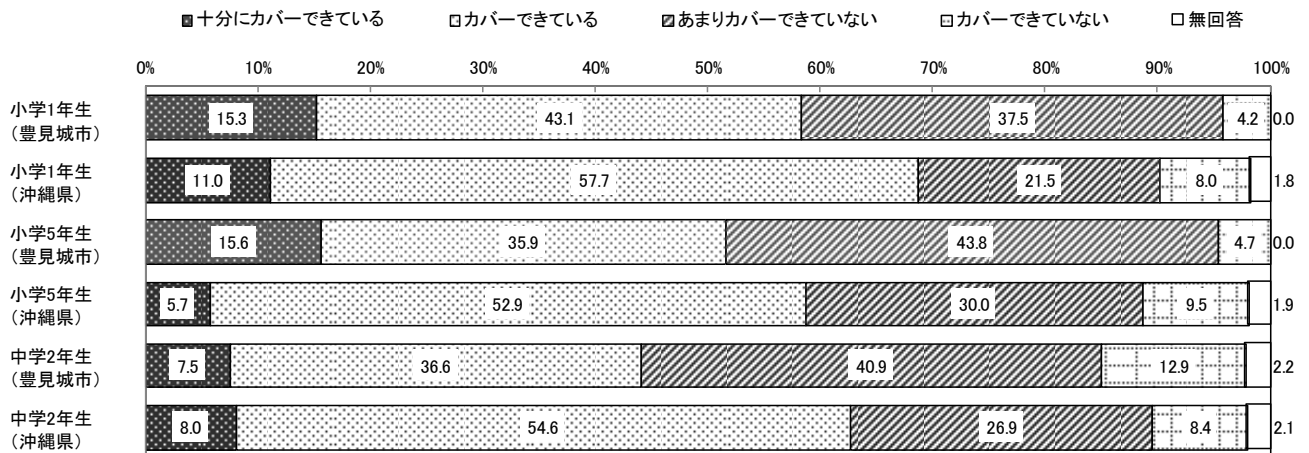
必要な経費について、「あまりカバーできていない」と「カバーできていない」の合計も学年が上がるにつれて高くなり、＜中学2年生＞では過半数を占めています。

就学援助を申請しなかった理由は、「必要ないため」は＜小学5年生＞が、「必要であるが、申請要件を満たしていなかったため」は＜小学1年生＞がそれぞれ比較的高くなっています。「就学援助制度を知らなかったため」は＜小学1年生＞のみ1割を超え、特に高くなっています。

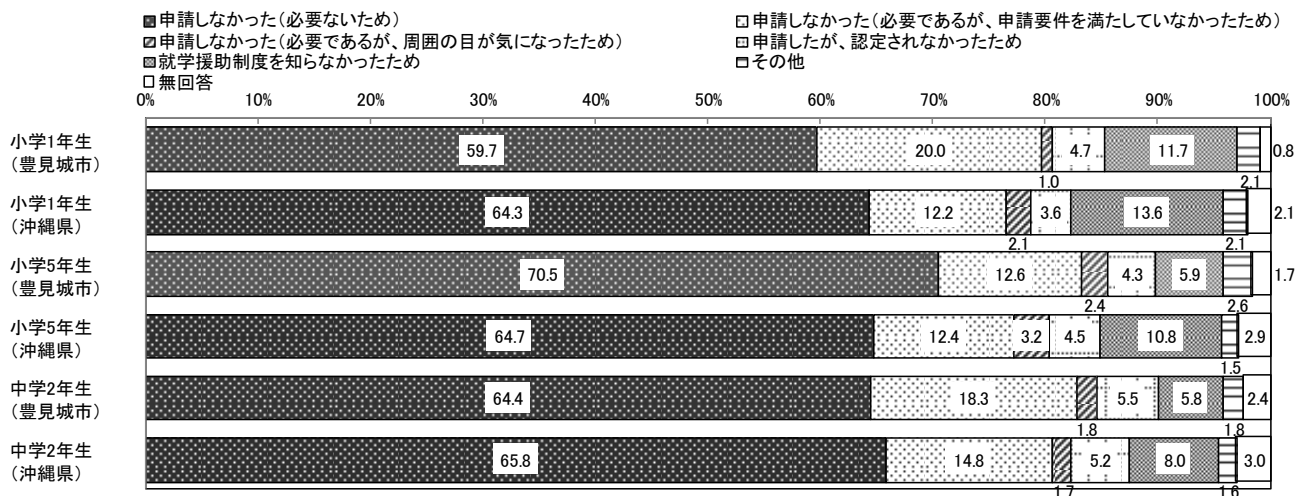
## 就学援助制度の利用状況



## 「利用している」と回答したうち) 必要な経費をカバーできているか



## 「利用していない」と回答したうち) 就学援助を申請しなかった理由



## ○就学援助の利用／経済状況別

上記設問を経済状況別に集計し、〈貧困〉層に着目して分析します。〈貧困〉層の家庭は、〈非貧困〉層の家庭に比べ、就学援助が必要な可能性が高いことが考えられます。

### 【小学1年生】

就学援助制度の利用状況について、「利用していない」は52.3%と過半数を占めています。必要な経費については、「あまりカバーできていない」が42.2%、「カバーできていない」が2.2%となり、合計で44.4%となっています。

就学援助を申請しなかった理由について、「就学援助制度を知らなかったため」は17.2%となっています。

沖縄県と比較すると、就学援助制度を「利用していない」は4.6ポイント低くなっています。必要な経費について、「あまりカバーできていない」と「カバーできていない」の合計は10.8ポイント高くなっています。就学援助を申請しなかった理由について、「就学援助制度を知らなかったため」は5.9ポイント低くなっています。

### 【小学5年生】

就学援助制度の利用状況について、「利用していない」は49.4%と半数近くを占めています。

必要な経費については、「あまりカバーできていない」が34.3%、「カバーできていない」が5.7%となり、合計で40.0%となっています。

就学援助を申請しなかった理由について、「就学援助制度を知らなかったため」は12.2%となっています。

沖縄県と比較すると、就学援助制度を「利用していない」は2.5ポイント低くなっています。必要な経費について、「あまりカバーできていない」と「カバーできていない」の合計は1.2ポイント低くなっています。就学援助を申請しなかった理由について、「就学援助制度を知らなかったため」は7.6ポイント低くなっています。

### 【中学2年生】

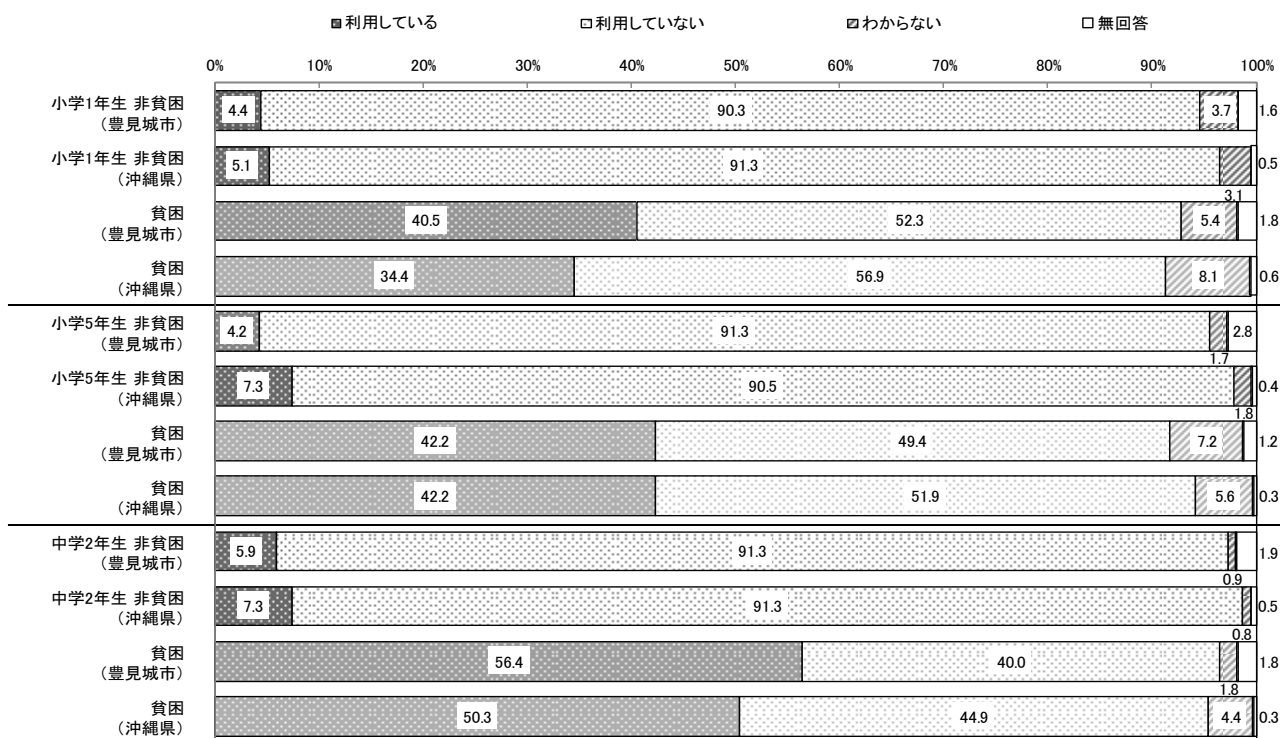
就学援助制度の利用状況について、「利用していない」は40.0%となっています。

必要な経費については、「あまりカバーできていない」が45.2%、「カバーできていない」が14.5%となり、合計で59.7%と過半数を占めています。

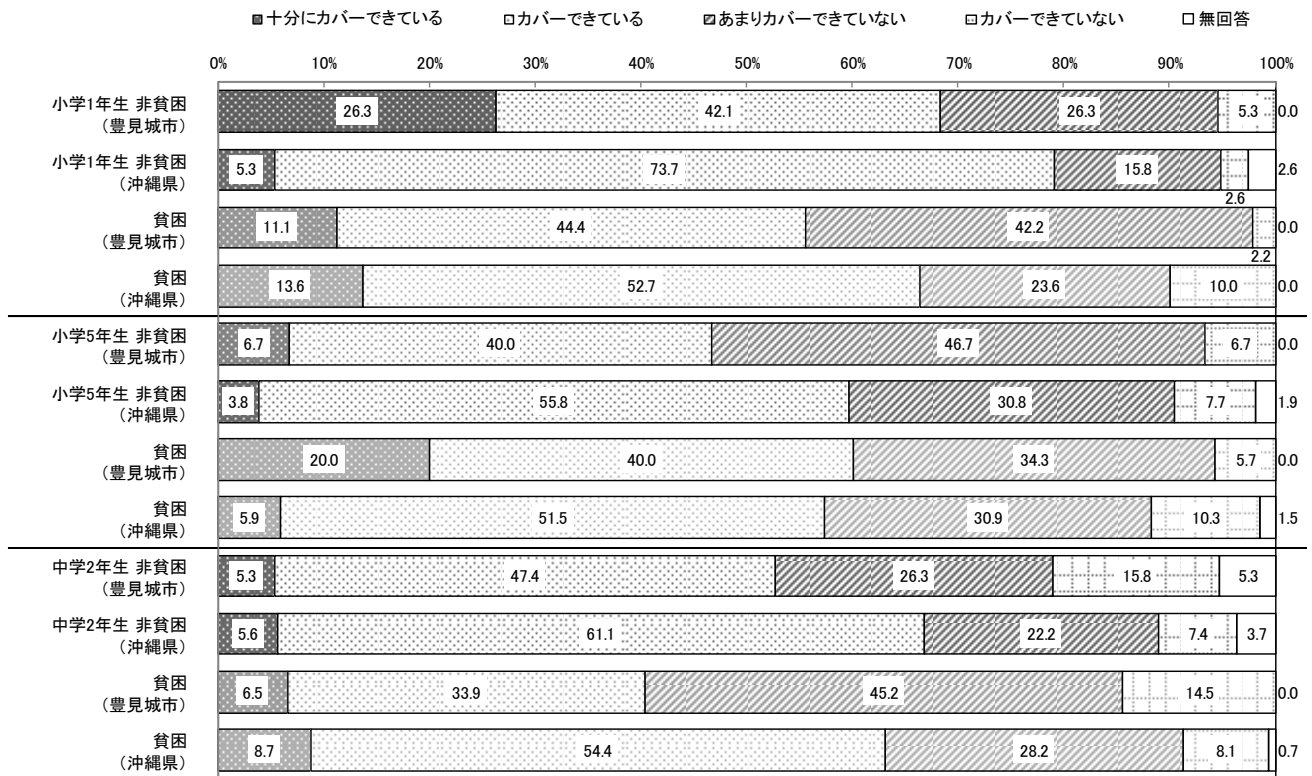
就学援助を申請しなかった理由について、「就学援助制度を知らなかったため」は18.2%となっています。

沖縄県と比較すると、就学援助制度を「利用していない」は4.9ポイント低くなっています。必要な経費について、「あまりカバーできていない」と「カバーできていない」の合計は23.4ポイント高くなっています。就学援助を申請しなかった理由について、「就学援助制度を知らなかったため」は1.3ポイント低くなっています。

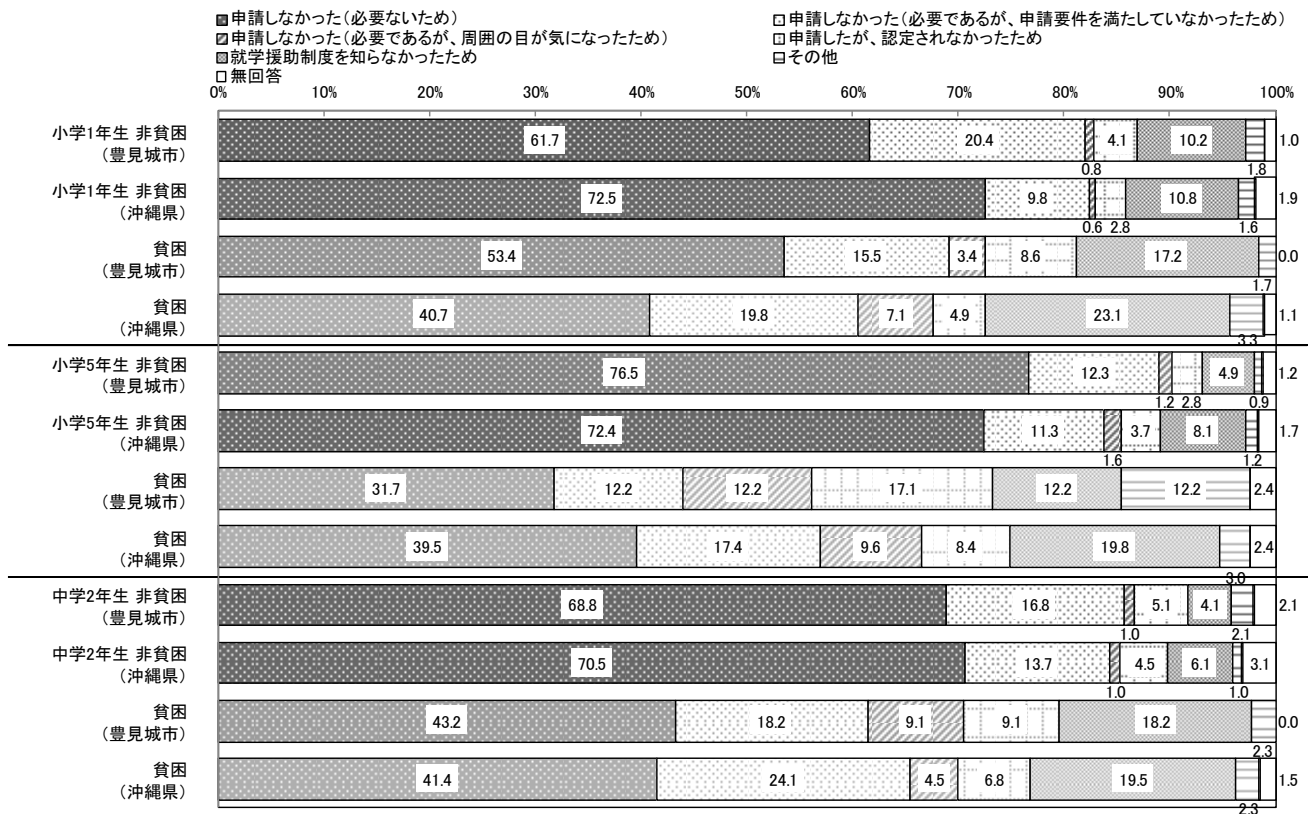
就学援助制度の利用状況



## （「利用している」と回答したうち）必要な経費をカバーできているか



## （「利用していない」と回答したうち）就学援助を申請しなかった理由



## 8. 家計と子供への支出

### ○家計の状況

小学1年生、小学5年生、中学2年生の保護者たちに、家計の状況について質問した結果です。

#### 【小学1年生】

家計の状況について、全体では「赤字でも黒字でもなく、ぎりぎりである」が55.6%と過半数を占めています。また、「赤字であり、借金をして生活している」、および「赤字であり、貯蓄を取り崩している」がともに11.1%であり、家計が『赤字』の家庭は22.2%となっています。

経済状況別にみると、＜貧困＞では「赤字であり、借金をして生活している」が23.4%、「赤字であり、貯蓄を取り崩している」が16.2%となり、家計が『赤字』の家庭は39.6%と、＜非貧困＞に比べて22.3ポイント高くなっています。また、＜貧困＞では「黒字であり、余裕がある」は2.7%、「黒字であり、毎月貯蓄をしている」は0.9%と、家計が『黒字』の家庭はわずか3.6%にとどまっています。

沖縄県と比較すると、全体では「赤字であり、借金をして生活している」は1.9ポイント、「赤字であり、貯蓄を取り崩している」は1.8ポイントともに低くなっていますが、一方で、「赤字でも黒字でもなく、ぎりぎりである」は3.0ポイント高くなっています。家計が『赤字』の割合については、沖縄県では＜非貧困＞と＜貧困＞の差が25.9ポイント、豊見城市では＜非貧困＞と＜貧困＞の差が22.3ポイントとなっており、経済状況による格差は沖縄県に比べてやや小さくなっています。

#### 【小学5年生】

家計の状況について、全体では「赤字でも黒字でもなく、ぎりぎりである」が46.8%とほぼ半数を占めています。また、「赤字であり、借金をして生活している」は12.4%、「赤字であり、貯蓄を取り崩している」は13.2%であり、家計が『赤字』の家庭は25.6%となっています。

経済状況別にみると、＜貧困＞では「赤字であり、借金をして生活している」が34.9%、「赤字であり、貯蓄を取り崩している」が24.1%で、家計が『赤字』の家庭は59.0%と過半数を占めており、＜非貧困＞に比べて39.8ポイント高くなっています。また、＜貧困＞では「黒字であり、余裕がある」は1.2%、「黒字であり、毎月貯蓄をしている」は1.2%と、家計が『黒字』の家庭はわずか2.4%にとどまっています。

沖縄県と比較すると、全体では「赤字であり、借金をして生活している」は2.0ポイント、「赤字であり、貯蓄を取り崩している」は0.7ポイントともに低く、「赤字でも黒字でもなく、ぎりぎりである」も5.8ポイント低くなっています。家計が『赤字』の割合については、沖縄県では＜非貧困＞と＜貧困＞の差が24.7ポイント、豊見城市では＜非貧困＞と＜貧困＞の差が39.8ポイントとなっており、経済状況による格差は沖縄県に比べて大きくなっています。

#### 【中学2年生】

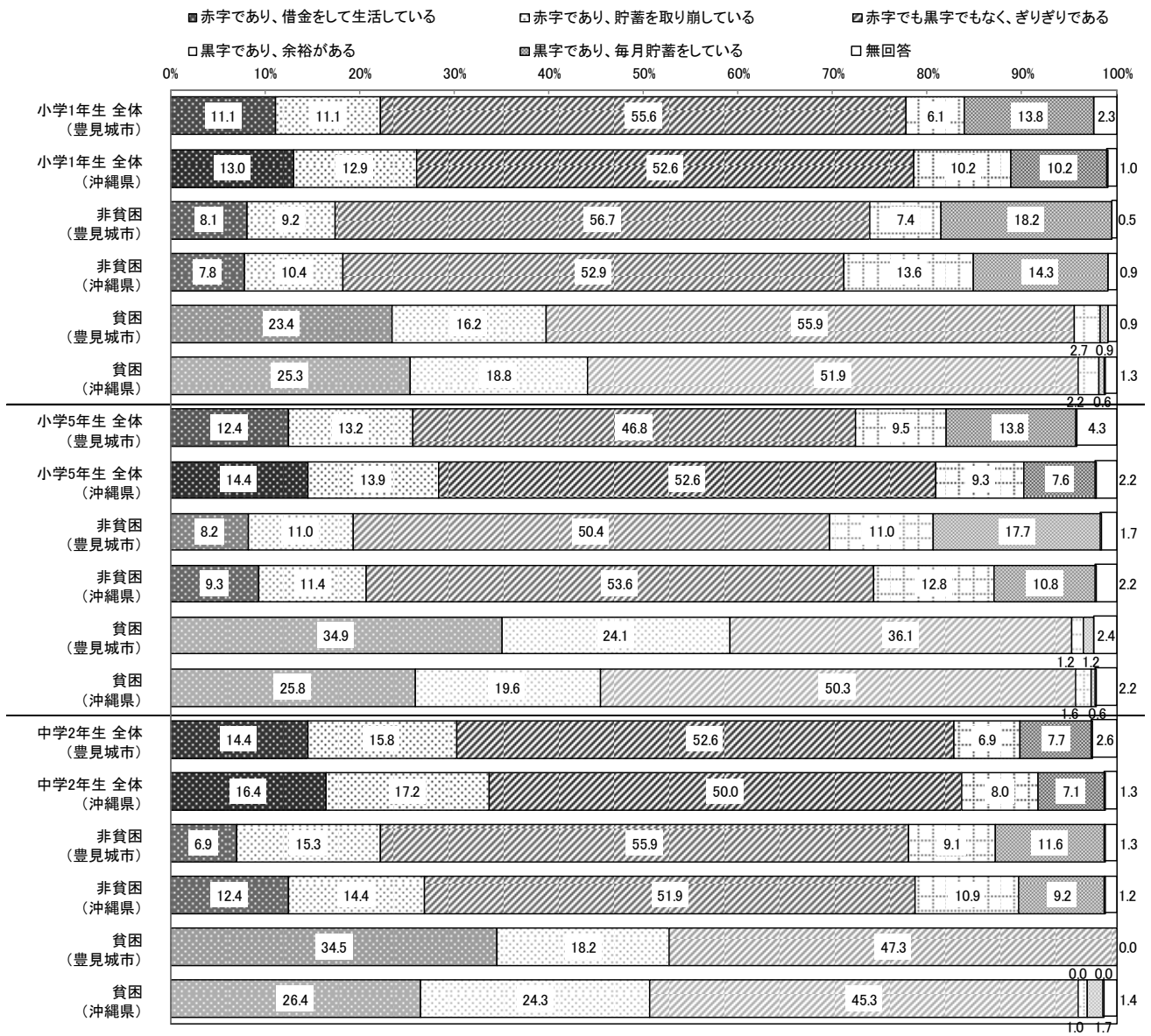
家計の状況について、全体では「赤字でも黒字でもなく、ぎりぎりである」が52.6%とほぼ半数を占めています。また、「赤字であり、借金をして生活している」は14.4%、「赤字であり、貯蓄を取り崩している」は15.8%であり、家計が『赤字』の家庭は30.2%となっています。

経済状況別にみると、＜貧困＞では「赤字であり、借金をして生活している」が34.5%、「赤字であり、貯蓄を取り崩している」が18.2%で、家計が『赤字』の家庭は52.7%と過半数を占めており、＜非貧困＞に比べて30.5ポイント高くなっています。また、＜貧困＞では「黒字であり、余裕がある」、および「黒字であり、毎月貯蓄をしている」はともに0.0%であり、家計が『黒字』の家庭はありませんでした。

沖縄県と比較すると、全体では「赤字であり、借金をして生活している」は2.0ポイント、「赤字であり、貯蓄を取り崩している」は1.4ポイントともに低くなっています。家計が『赤字』の割合については、沖縄県では＜非貧困＞と＜貧困＞の差が23.9ポイント、豊見城市では＜非貧困＞と＜貧困＞の差が30.5ポイントとなっており、経済状況による格差は沖縄県に比べて大きくなっています。

#### 【子供の学年による比較】

「赤字であり、借金をして生活している」、および「赤字であり、貯蓄を取り崩している」はともに学年が上がるにつれて高くなり、＜中学2年生＞では約3割の家庭の家計が『赤字』となっています。また、＜貧困＞層に着目して比較すると、＜小学5年生＞において、家計が『赤字』の割合が約6割となっており、他の学年より高くなっています。

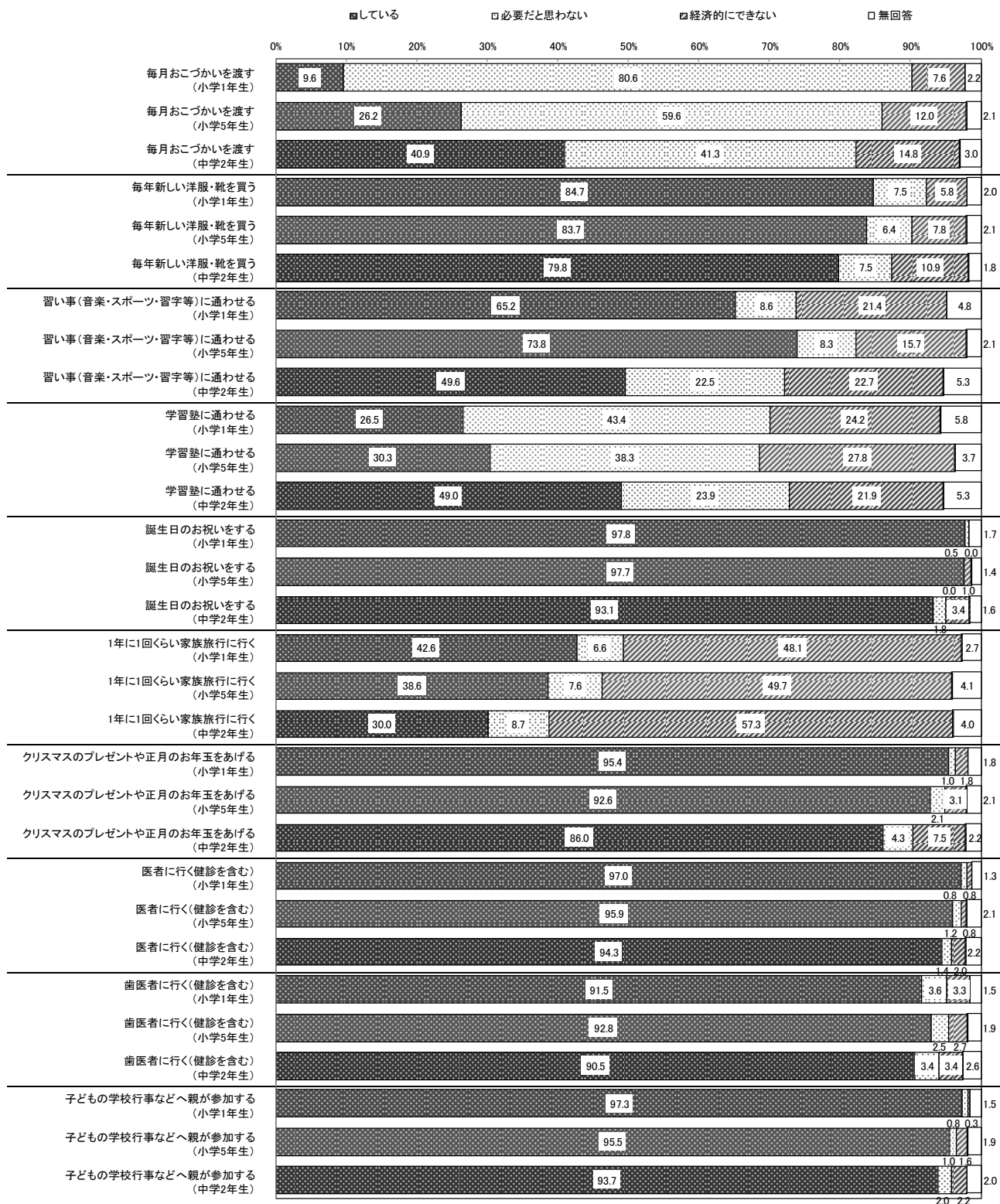




## ○子供への支出

小学1年生、小学5年生、中学2年生の保護者たちに、以下の10項目に関する子供への支出を行っているか質問した結果です。

「誕生日のお祝いをする」、「医者に行く（健診を含む）」、「歯医者に行く（健診を含む）」、および「子どもの学校行事などへ親が参加する」については、いずれの学年においても「している」が9割を超えています。一方、「1年に1回くらい家族旅行に行く」は、いずれの学年においても「経済的にできない」が4～5割台と最も高く、その割合は学年が上がるにつれて高くなっています。また、「学習塾に通わせる」が「経済的にできない」割合は、いずれの学年においても2割台となり、＜小学5年生＞で他の学年より高くなっていますが、「習い事（音楽・スポーツ・習字等）に通わせる」が「経済的にできない」割合は、＜小学5年生＞で他の学年より低くなっています。このほか、「毎月おこづかいを渡す」、および「毎年新しい洋服・靴を買う」が「経済的にできない」割合はいずれの学年においても2割以下ですが、学年が上がるにつれて高くなっています。

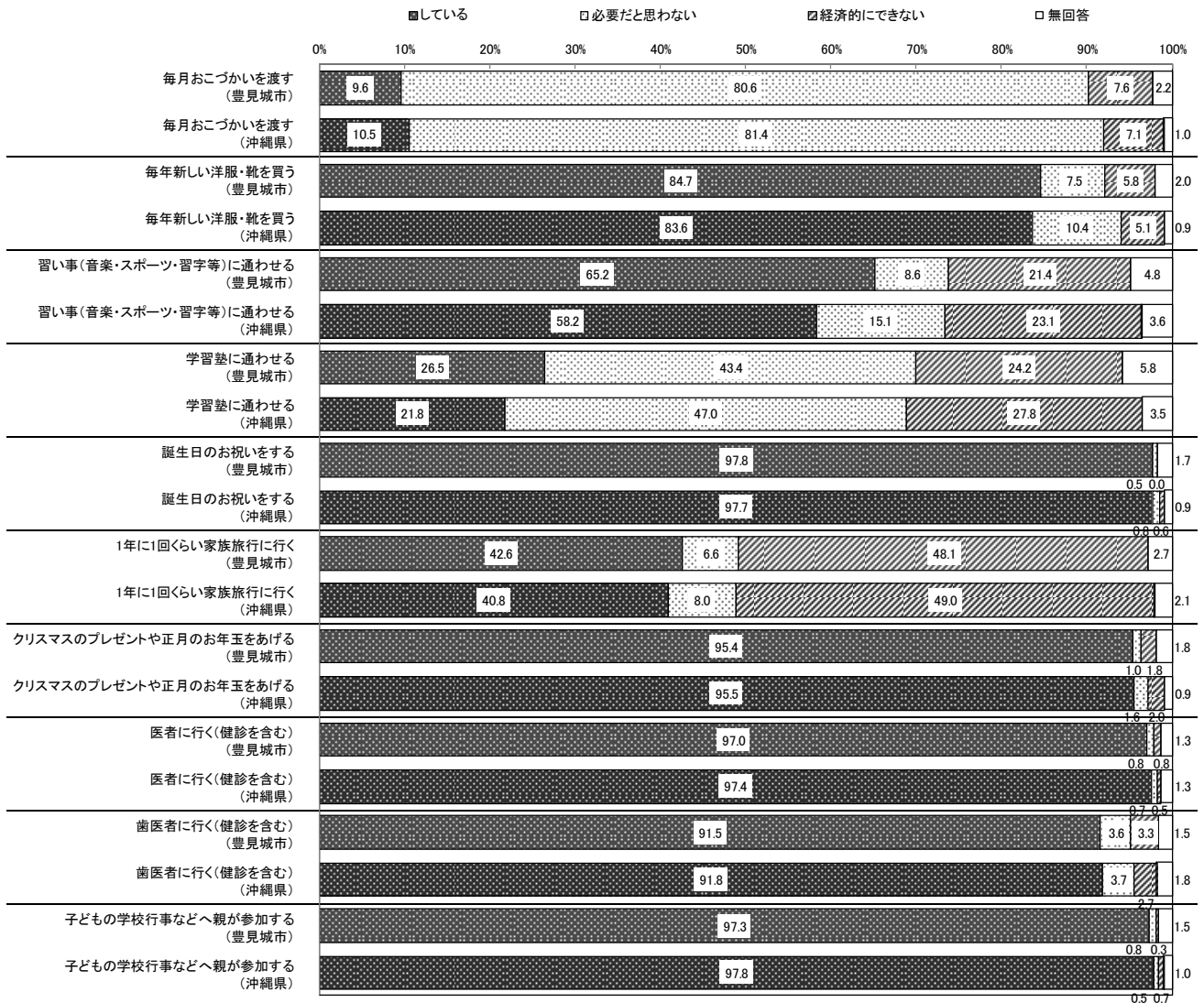


## ○子供への支出【小学1年生】

小学1年生の保護者たちが、以下の10項目に関する子供への支出を行っているかを沖縄県と比較して分析しています。

子供への支出について、「している」割合を沖縄県と比較すると、「習い事（音楽・スポーツ・習字等）に通わせる」は7.0ポイント、「学習塾に通わせる」は4.7ポイントともに高くなっていますが、それ以外の項目で大きな違いはみられませんでした。一方、「経済的にできない」割合については、「毎月おこづかいを渡す」、「毎年新しい洋服・靴を買う」、「医者に行く（健診を含む）」、および「歯医者に行く（健診を含む）」の4項目でわずかに沖縄県より高くなっていますが、それ以外の6項目ではすべて沖縄県より低く、特に「学習塾に通わせる」は3.6ポイント低くなっています。

### 【小学1年生】

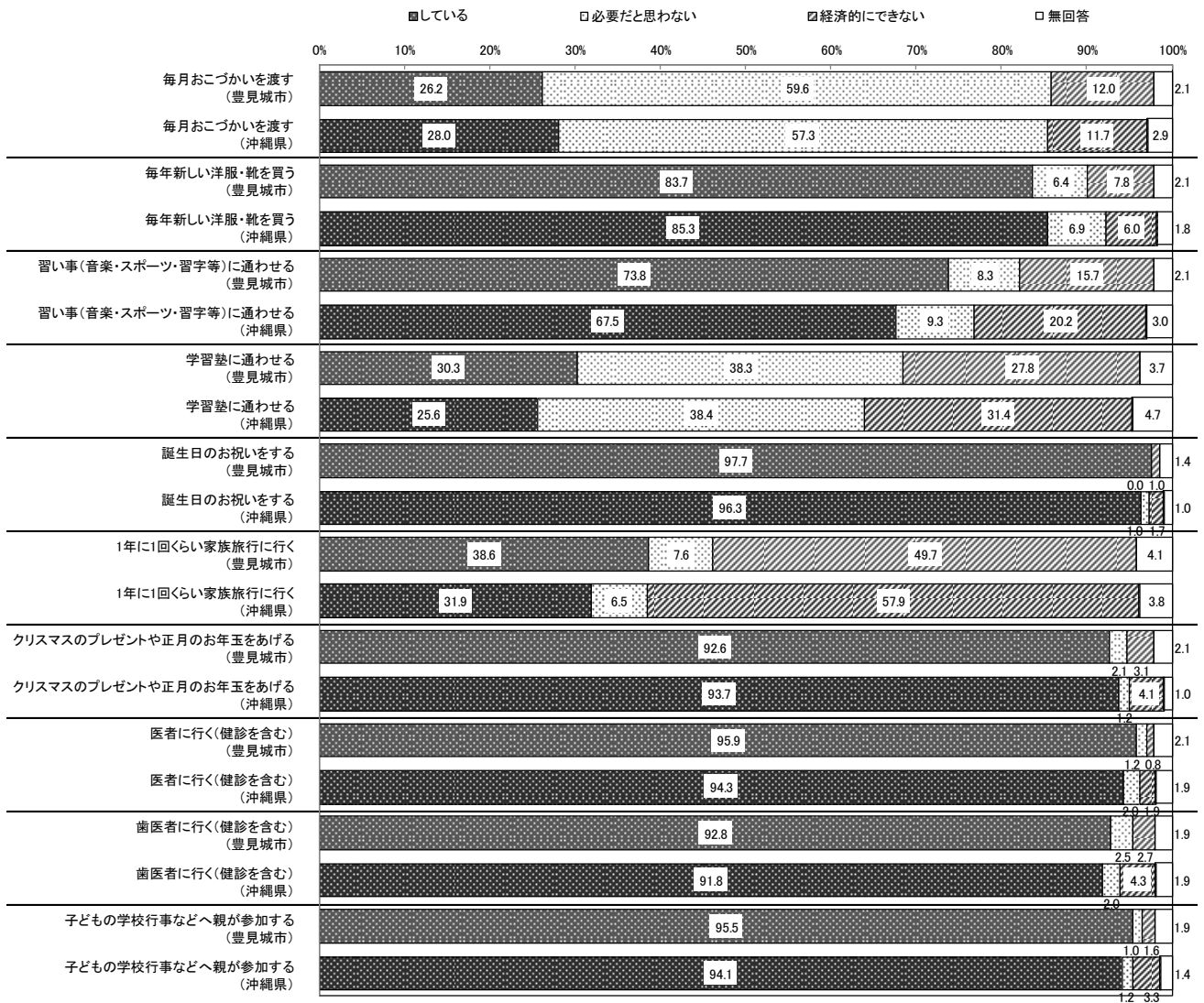


## ○子供への支出【小学5年生】

小学5年生の保護者たちが、以下の10項目に関する子供への支出を行っているかを沖縄県と比較して分析しています。

子供への支出について、「している」割合を沖縄県と比較すると、「1年に1回くらい家族旅行に行く」は6.7ポイント、「習い事（音楽・スポーツ・習字等）に通わせる」は6.3ポイント、「学習塾に通わせる」は4.7ポイントそれぞれ高くなっています。一方、「経済的にできない」割合については、「毎月おこづかいを渡す」、および「毎月新しい洋服・靴を買う」でわずかに沖縄県の割合を上回っていますが、それ以外の8項目についてはすべて沖縄県より低く、特に「1年に1回くらい家族旅行に行く」は8.2ポイント低くなっています。

### 【小学5年生】

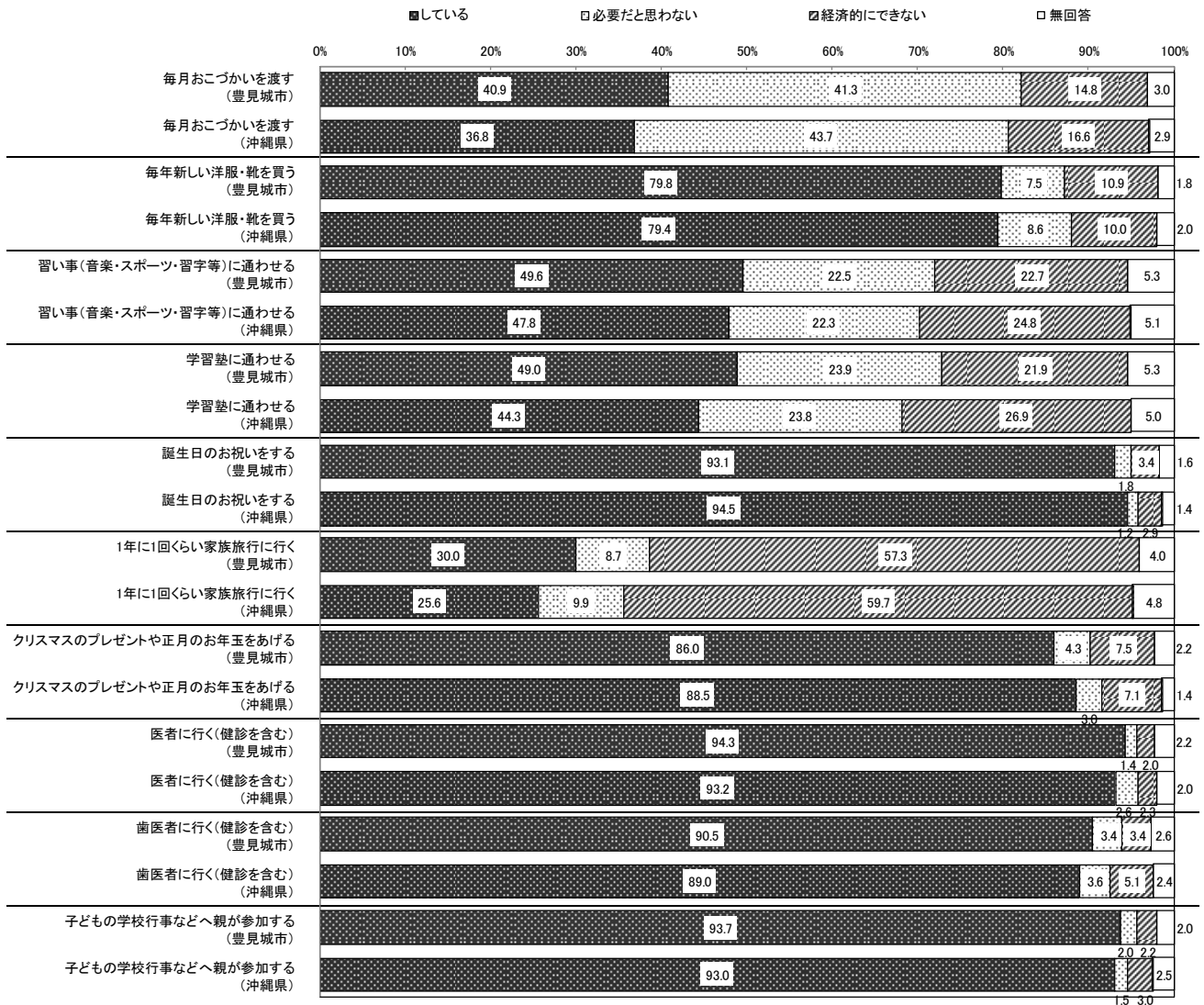


## ○子供への支出【中学2年生】

中学2年生の保護者たちが、以下の10項目に関する子供への支出を行っているかを沖縄県と比較して分析しています。

子供への支出について、「している」割合を沖縄県と比較すると、「学習塾に通わせる」は4.7ポイント、「1年に1回くらい家族旅行に行く」は4.4ポイント、「毎月おこづかいを渡す」は4.1ポイントそれぞれ高くなっています。一方、「経済的にできない」割合を沖縄県と比較すると、「毎月新しい洋服・靴を買う」、「誕生日のお祝いをする」、および「クリスマスのプレゼントや正月のお年玉をあげる」でわずかに沖縄県の割合を上回っていますが、それ以外の7項目についてはすべて沖縄県より低く、特に「学習塾に通わせる」は5.0ポイント低くなっています。

### 【中学2年生】



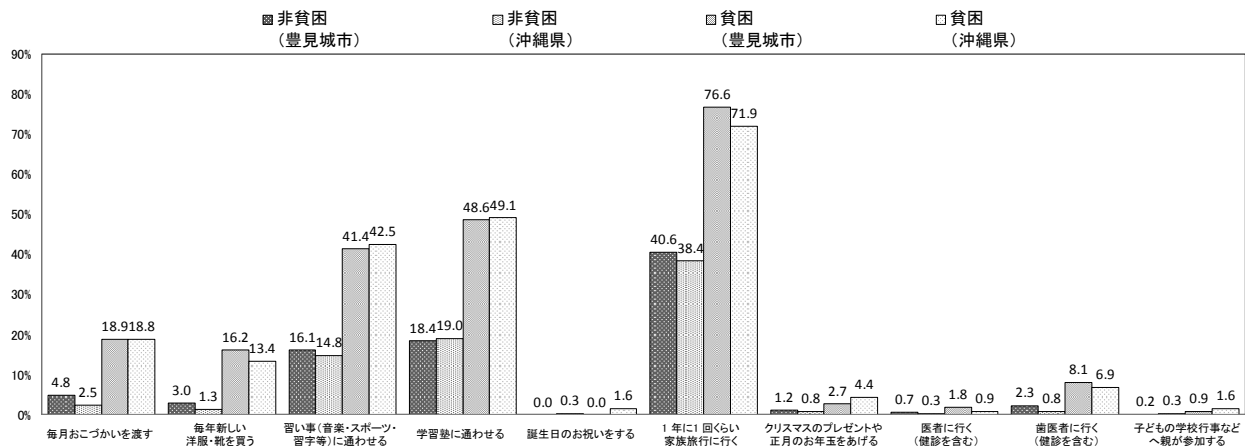
## ○子供への支出：経済的にできないこと

子供への支出を経済的にできない割合が、家庭の経済状況によって異なるか分析した結果です。

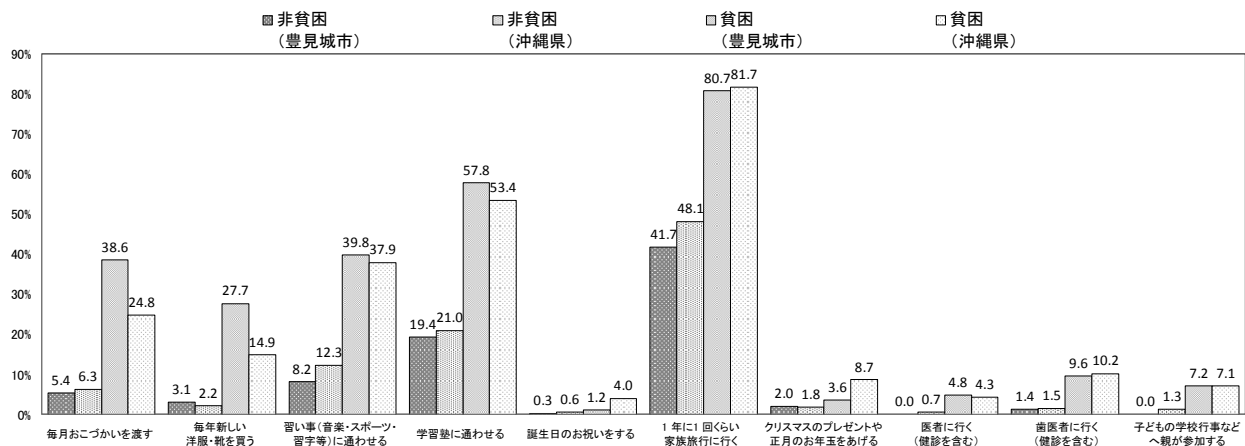
「経済的にできない」割合は、〈非貧困〉、〈貧困〉ともに0.0%であった〈小学1年生〉の「誕生日のお祝いをする」を除いては、いずれの項目、いずれの学年においても〈貧困〉の方が高くなっています。〈貧困〉層が「経済的にできない」割合をみると、「1年に1回くらい家族旅行に行く」はいずれの学年でも7割後半～8割強と最も高く、次いで「学習塾に通わせる」が4～5割台、「習い事（音楽・スポーツ・習字等）に通わせる」が4割程度となり、これらの項目では〈非貧困〉との差が特に大きくなっています。

〈貧困〉層に着目して沖縄県と比較すると、「経済的にできない」割合は〈小学1年生〉の「1年に1回くらい家族旅行に行く」で4.7ポイント、〈小学5年生〉の「毎月おこづかいを渡す」で13.8ポイント、〈小学5年生〉の「毎年新しい洋服・靴を買う」で12.8ポイント、および〈中学2年生〉の「クリスマスのプレゼントやお年玉をあげる」で7.6ポイントいずれも高くなっています。

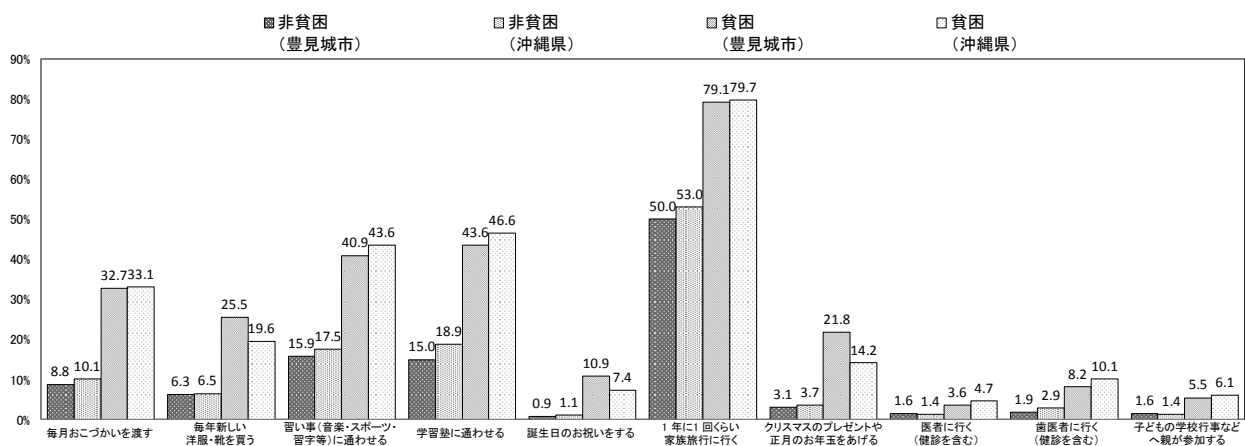
### 【小学1年生】



### 【小学5年生】



### 【中学2年生】

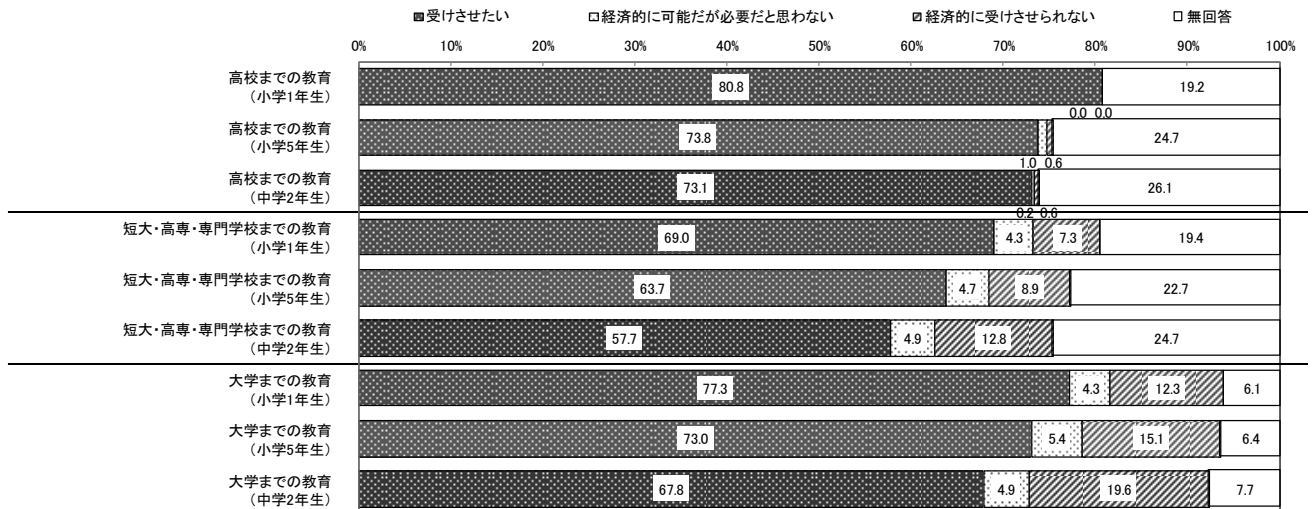


## 9. 子供の進学に関する意識

### ○どの段階までの教育を受けさせたいか

小学1年生、小学5年生、中学2年生の保護者たちに、子供にどの段階までの教育を受けさせたいか質問した結果です。

いずれの学年においても「高校までの教育」については「経済的に受けさせられない」という回答はほとんどみられませんでした。ただし、「短大・高等・専門学校までの教育」については、＜小学1年生＞で7.3%、＜小学5年生＞で8.9%、＜中学2年生＞で12.8%が「経済的に受けさせられない」としており、学年が上がると高くなっていきます。また、「大学までの教育」についても、＜小学1年生＞で12.3%、＜小学5年生＞で15.1%、＜中学2年生＞で19.6%が「経済的に受けさせられない」としており、学年が上がると高くなっていきます。



## ○どの段階までの教育を受けさせたいか／沖縄県比較

子供にどの段階までの教育を受けさせたいかを沖縄県と比較して分析した結果です。

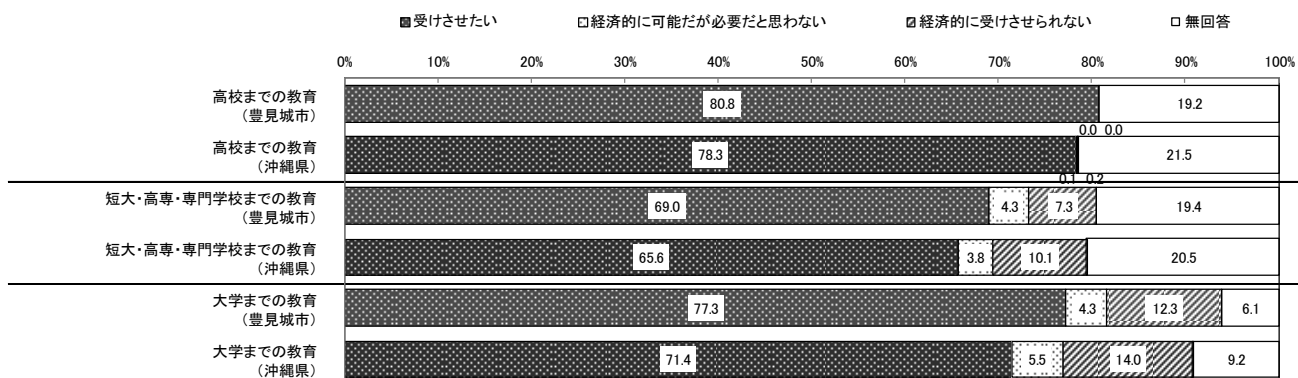
小学1年生において、「経済的に受けさせられない」とする割合を沖縄県と比較すると、「短大・高等・専門学校までの教育」は2.8ポイント、「大学までの教育」は1.7ポイントともに低くなっています。

次に、小学5年生において、「経済的に受けさせられない」とする割合を沖縄県と比較すると、「短大・高等・専門学校までの教育」は0.9ポイント低くなっていますが、「大学までの教育」は0.4ポイント高くなっています。

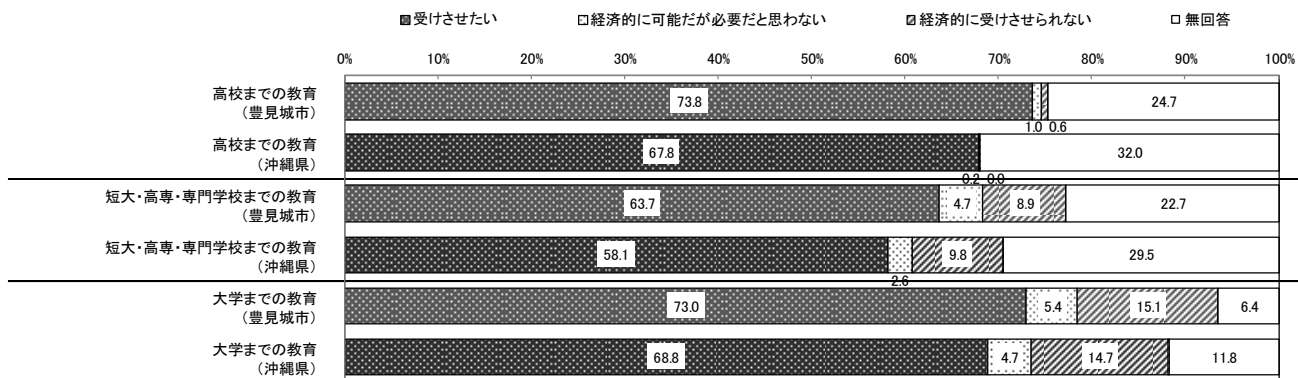
また、中学2年生において、「経済的に受けさせられない」とする割合を沖縄県と比較すると、「短大・高等・専門学校までの教育」は2.5ポイント、「大学までの教育」は3.2ポイントともに高くなっています。

学年で比較すると、沖縄県では学年ごとの「経済的に受けさせられない」とする割合に大きな変化がないのに対して、豊見城市では学年が上がるにつれて、「経済的に受けさせられない」とする割合が高くなっている点に違いがみられます。

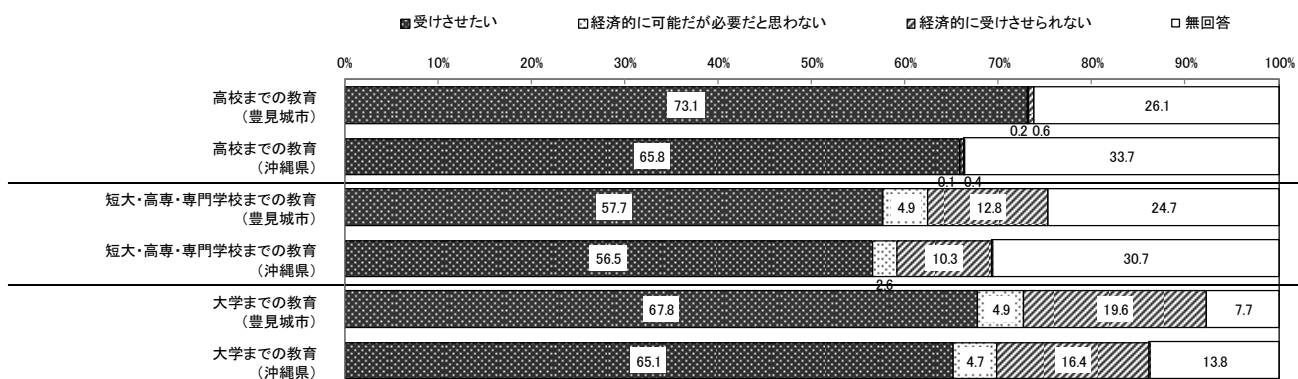
### 【小学1年生】



### 【小学5年生】



### 【中学2年生】

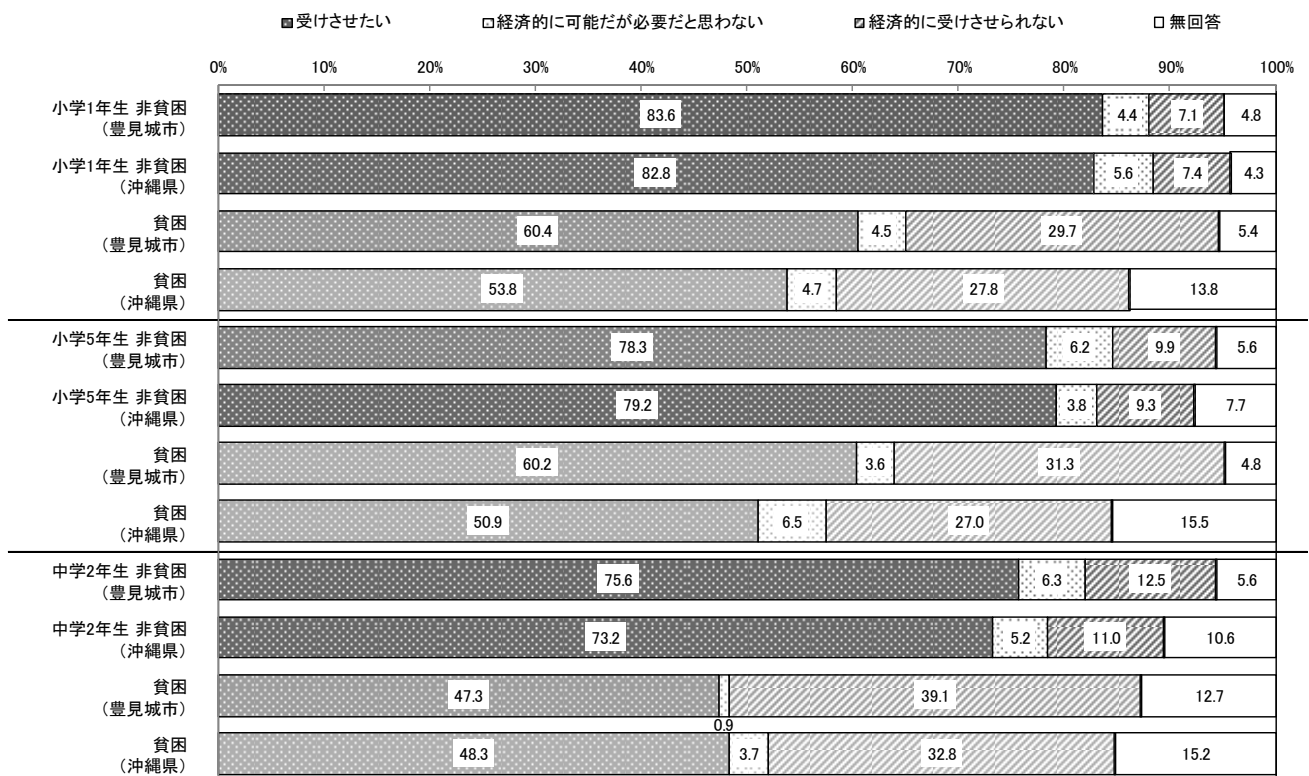


## ○大学までの教育を受けさせたい保護者の割合

大学までの教育を受けさせたい保護者の割合が、家庭の経済状況によって異なるかを分析した結果です。

大学までの教育を「経済的に受けさせられない」とする割合は、いずれの学年においても<貧困>の方が高くなっており、<小学1年生>では<非貧困>で7.1%、<貧困>で29.7%と、22.6ポイントの差があり、<小学5年生>では<非貧困>で9.9%、<貧困>で31.3%と、21.4ポイントの差がみられます。また、<中学2年生>においては<非貧困>で12.5%、<貧困>で39.1%と、その差は26.6ポイントまで拡大しています。

<貧困>層に着目して沖縄県と比較すると、「経済的に受けさせられない」とする割合は、<小学1年生>で1.9ポイント、<小学5年生>で4.3ポイント、<中学2年生>で6.3ポイントそれぞれ高くなっており、学年が上がるにつれてその差は大きくなっています。





## 10. 困窮経験

### ○食料を買えなかった経験

小学1年生、小学5年生、中学2年生の保護者たちに、過去1年間に経済的な理由で家族が必要とする食料が買えないことがあったかを質問した結果です。

#### 【小学1年生】

『あった』（「よくあった」＋「ときどきあった」＋「まれにあった」）とする割合は22.0%となっています。経済状況別にみると、『あった』は＜非貧困＞で16.2%、＜貧困＞で44.1%となり、＜貧困＞の方が27.9ポイント高くなっています。

沖縄県と比較すると、『あった』は全体で2.5ポイント低く、＜貧困＞でも2.5ポイント低くなっていますが、＜非貧困＞では1.1ポイント高くなっています。

#### 【小学5年生】

『あった』（「よくあった」＋「ときどきあった」＋「まれにあった」）とする割合は21.8%となっています。経済状況別にみると、『あった』は＜非貧困＞で14.1%、＜貧困＞で55.4%となり、＜貧困＞の方が41.3ポイント高くなっています。

沖縄県と比較すると、『あった』は全体で6.9ポイント低く、＜非貧困＞でも5.3ポイント低くなっていますが、＜貧困＞では6.1ポイント高くなっています。

#### 【中学2年生】

『あった』（「よくあった」＋「ときどきあった」＋「まれにあった」）とする割合は27.9%となっています。経済状況別にみると、『あった』は＜非貧困＞で17.5%、＜貧困＞で59.2%となり、＜貧困＞の方が41.7ポイント高くなっています。

沖縄県と比較すると、『あった』は全体で1.5ポイント低く、＜非貧困＞でも3.7ポイント低くなっていますが、＜貧困＞では9.5ポイント高くなっています。

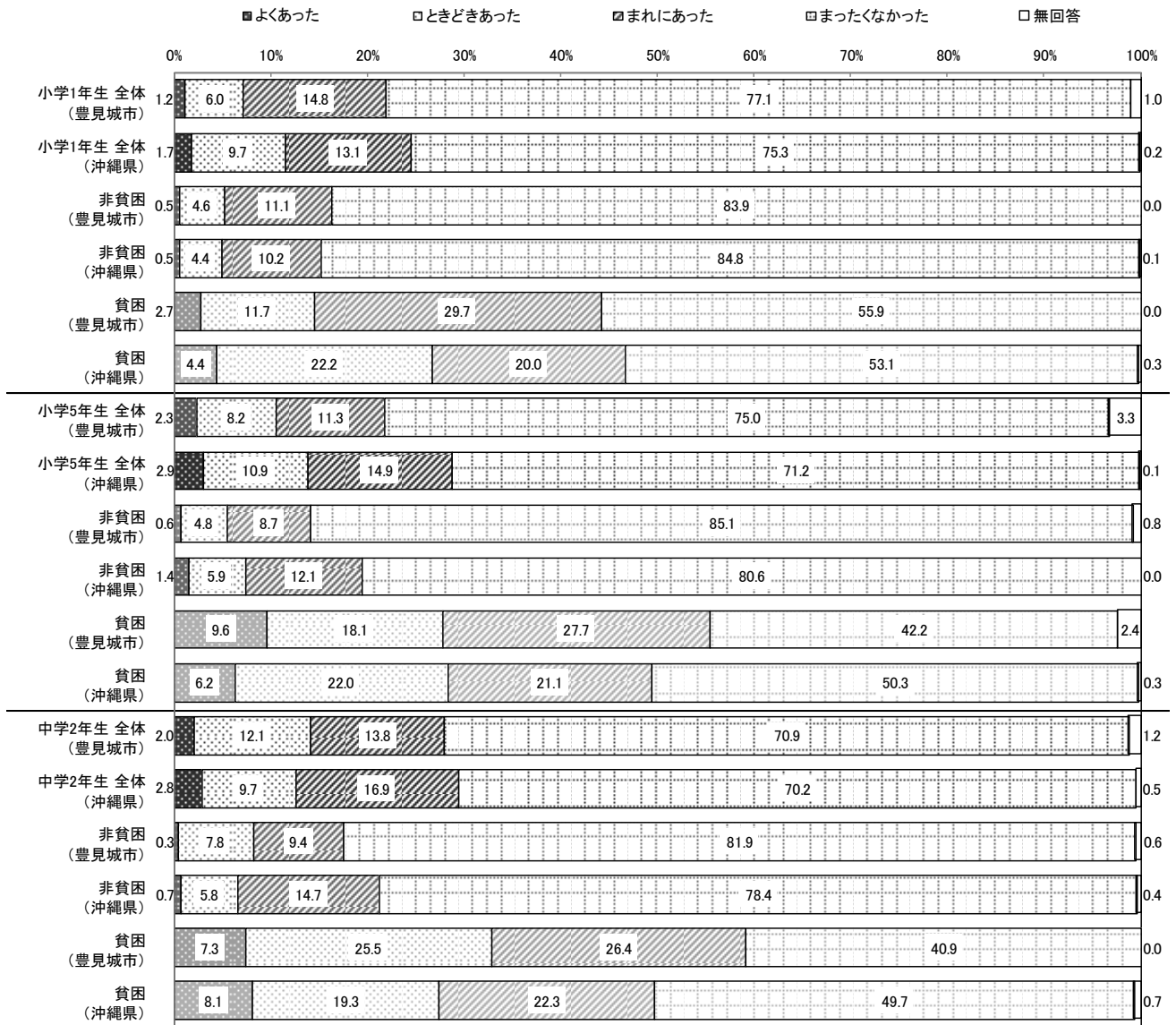
#### 【学年による比較】

『あった』（「よくあった」＋「ときどきあった」＋「まれにあった」）とする割合は、＜小学1年生＞、および＜小学5年生＞では2割強ですが、＜中学2年生＞では3割弱と高くなっています。＜貧困＞において『あった』とする割合は学年が上がるにつれて高くなっており、＜非貧困＞と＜貧困＞の差も学年が上がるにつれて拡大しています。

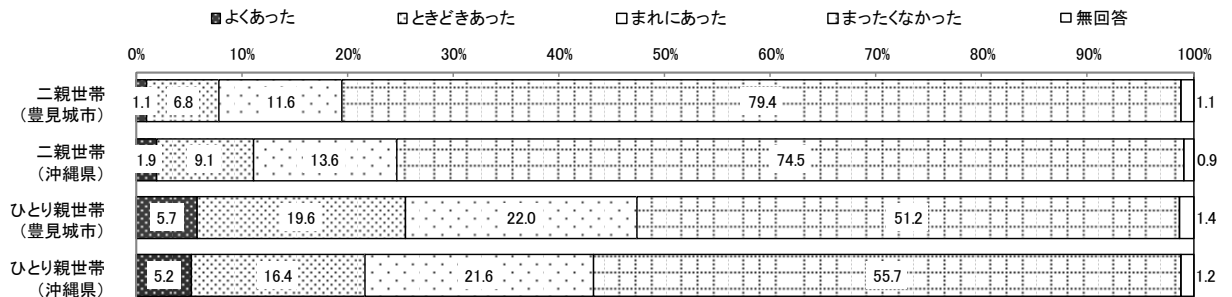
#### 【世帯種類別による比較】

『あった』（「よくあった」＋「ときどきあった」＋「まれにあった」）とする割合は、＜二親世帯＞で19.5%、＜ひとり親世帯＞で47.3%とほぼ半数となっており、その差は27.8ポイントとなっています。また、沖縄県と比較すると、＜二親世帯＞では『あった』とする割合が5.1ポイント低くなっていますが、＜ひとり親世帯＞では4.1ポイント高くなっています。

### 食料を買えなかった経験/経済状況別



### 食料を買えなかった経験/世帯種類別



## ○衣料を買えなかった経験

小学1年生、小学5年生、中学2年生の保護者たちに、過去1年間に経済的な理由で家族が必要とする衣料が買えないことがあったかを質問した結果です。

### 【小学1年生】

『あった』（「よくあった」＋「ときどきあった」＋「まれにあった」）とする割合は30.2%となっています。経済状況別にみると、『あった』は<非貧困>で23.5%、<貧困>で55.8%となり、<貧困>の方が32.3ポイント高くなっています。

沖縄県と比較すると、『あった』は全体で2.8ポイント低く、<貧困>でも4.9ポイント低くなっていますが、<非貧困>では2.4ポイント高くなっています。

### 【小学5年生】

『あった』（「よくあった」＋「ときどきあった」＋「まれにあった」）とする割合は31.5%となっています。経済状況別にみると、『あった』は<非貧困>で23.4%、<貧困>で68.7%となり、<貧困>の方が45.3ポイント高くなっています。

沖縄県と比較すると、『あった』は全体で6.5ポイント低く、<非貧困>でも4.8ポイント低くなっていますが、<貧困>では8.8ポイント高くなっています。

### 【中学2年生】

『あった』（「よくあった」＋「ときどきあった」＋「まれにあった」）とする割合は38.5%となっています。経済状況別にみると、『あった』は<非貧困>で28.8%、<貧困>で69.9%となり、<貧困>の方が41.1ポイント高くなっています。

沖縄県と比較すると、『あった』は全体で4.0ポイント低く、<非貧困>では3.3ポイント低くなっていますが、<貧困>では1.6ポイント高くなっています。

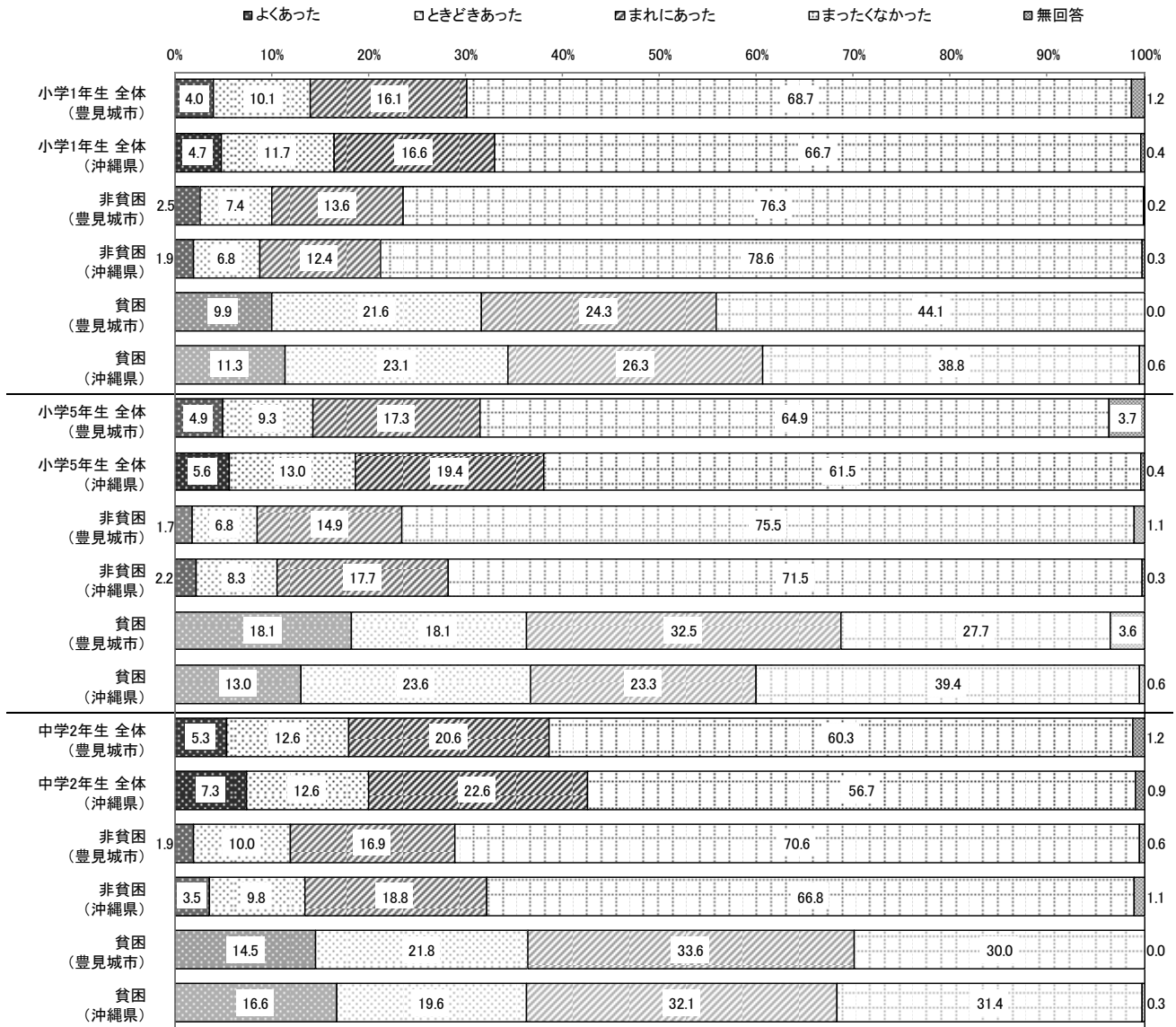
### 【学年による比較】

『あった』（「よくあった」＋「ときどきあった」＋「まれにあった」）とする割合は、<小学1年生>、および<小学5年生>では3割強ですが、<中学2年生>では4割弱と高くなっています。<貧困>において『あった』とする割合は学年が上がるにつれて高くなり、<非貧困>と<貧困>の差は<小学5年生>で最も大きくなっています。

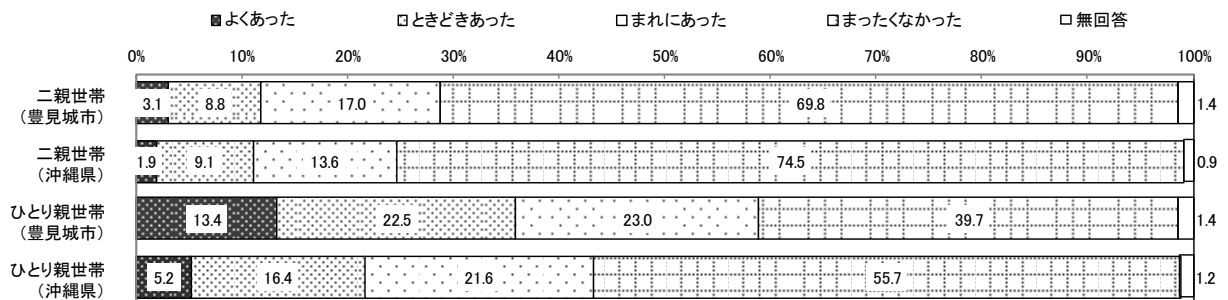
### 【世帯種類別による比較】

『あった』（「よくあった」＋「ときどきあった」＋「まれにあった」）とする割合は、<二親世帯>で28.9%、<ひとり親世帯>で58.9%と過半数となっており、その差は30.0ポイントとなっています。また、沖縄県と比較すると、<二親世帯>では『あった』とする割合が4.3ポイント高く、<ひとり親世帯>でも15.7ポイント高くなっています。

### 衣料を買えなかった経験／経済状況別



### 衣料を買えなかった経験／世帯種類別



## 11. 電気代などの滞納経験

### ○電気、ガス、水道料金、電話代などの滞納経験

小学1年生、小学5年生、中学2年生の保護者たちに、過去1年間に経済的な理由で電気、ガス、水道料金、電話代を滞納したことがあったかを質問した結果です。

#### 【小学1年生】

全体では、全8項目中、「給食費」(14.1%)、「その他」(12.6%)、「家賃」(11.7%)、および「電気料金」(10.1%)の4項目で滞納経験が1割を超えています。

経済状況別にみると、「住宅ローン」を除くすべての項目で<貧困>の方が高く、特に「給食費」については<貧困>で33.3%と3人に1人に滞納経験があり、<非貧困>との差は24.3ポイントとなっています。

<貧困>層に着目して沖縄県と比較すると、「電話代」で12.8ポイント、「電気料金」で9.8ポイント、「住宅ローン」で6.3ポイント、「ガス料金」で6.2ポイントそれぞれ低くなっていますが、<給食費>については4.5ポイント高くなっています。

#### 【小学5年生】

全体では、「給食費」(16.9%)、「その他」(15.0%)、「電気料金」(10.9%)、および「電話代」(10.1%)の4項目で滞納経験が1割を超えています。

経済状況別にみると、すべての項目で<貧困>の方が高く、特に「給食費」については<貧困>で51.5%と2人に1人に滞納経験があり、<非貧困>との差は43.5ポイントとなっています。このほか、<貧困>では「電気料金」(38.0%)、「ガス料金」(37.7%)、「電話代」(35.7%)の滞納経験が3割を超えており、<非貧困>との差も大きくなっています。

<貧困>層に着目して沖縄県と比較すると、すべての項目で沖縄県より滞納経験が高く、「給食費」で13.9ポイント、「水道料金」で9.6ポイント、「電気料金」で9.1ポイント、「ガス料金」で8.3ポイントと、特に差が大きくなっています。

#### 【中学2年生】

全体では、「給食費」(16.9%)、「その他」(14.5%)、「電話代」(12.9%)、「家賃」(11.8%)、「電気料金」(11.4%)、および「ガス料金」(10.3%)の6項目で滞納経験が1割を超えています。

経済状況別にみると、すべての項目で<貧困>の方が高く、特に「給食費」については<貧困>で43.3%となっており、<非貧困>との差は35.5ポイントとなっています。

<貧困>層に着目して沖縄県と比較すると、「給食費」の滞納経験の差が特に大きく、13.7ポイント高くなっています。

#### 【学年による比較】

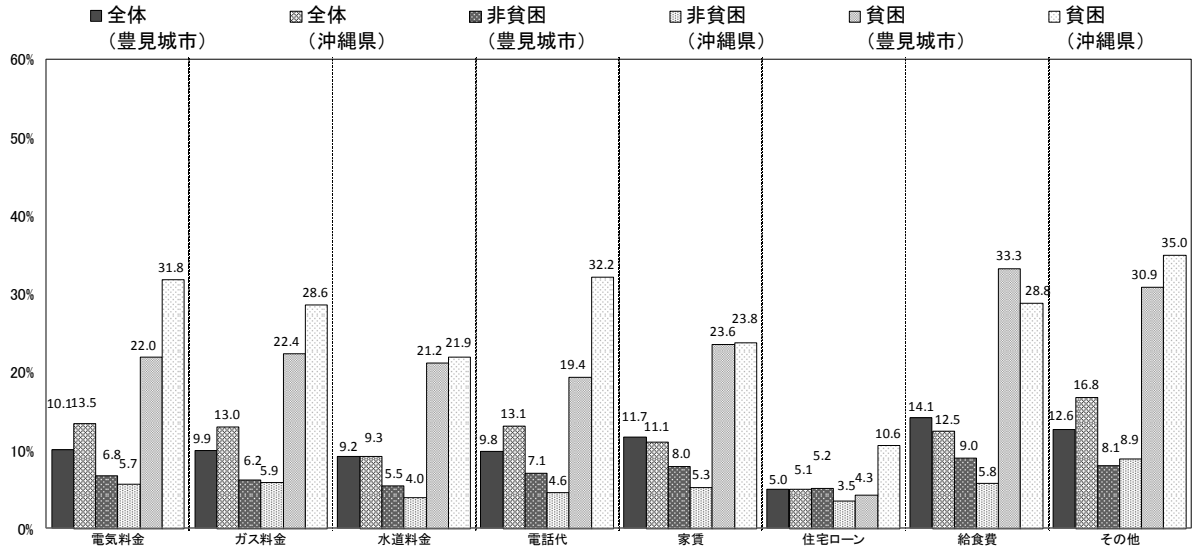
全8項目のうち、「電気料金」、「ガス料金」、「水道料金」、「電話代」、「家賃」、「住宅ローン」の6項目については<中学2年生>で滞納経験が最も高くなっています。また、「給食費」については<小学5年生>、および<中学2年生>でともに最も高く、「その他」は<小学5年生>で最も高くなっています。

#### 【世帯種類別による比較】

各種支払い債務の滞納経験は、すべての項目で<ひとり親世帯>が<二親世帯>を上回っています。<ひとり親世帯>では「その他」(31.9%)、「電気料金」(29.1%)、「電話代」(28.3%)、「家賃」(25.2%)、「ガス料金」(25.0%)の5項目で滞納経験が2割を超えており、<二親世帯>との差も大きくなっています。

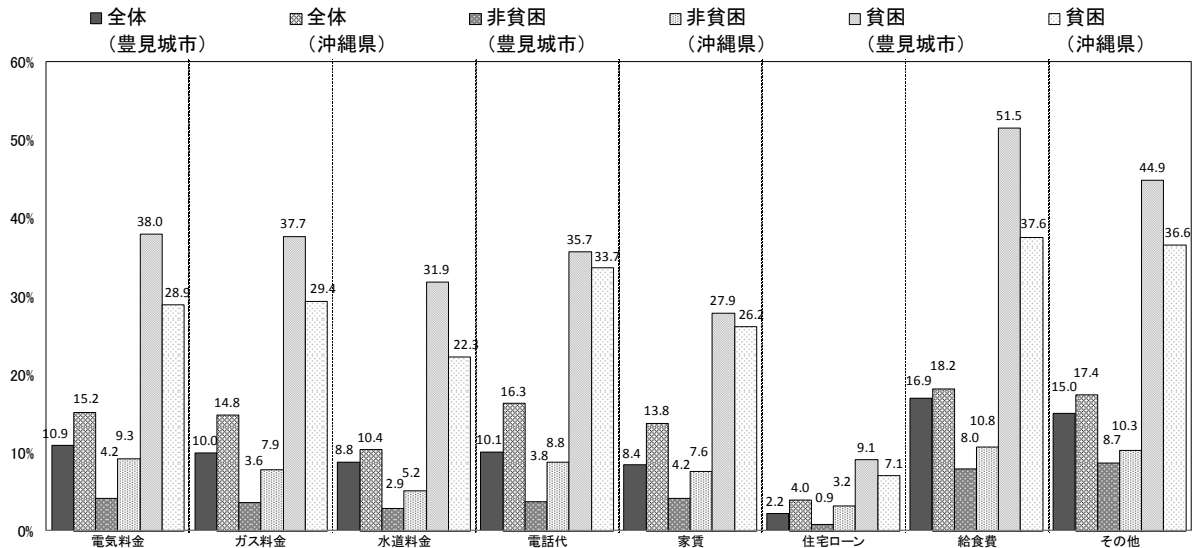
また、<ひとり親世帯>に着目して沖縄県と比較すると、「ガス料金」を除くすべての項目で、沖縄県より滞納経験が高く、「家賃」で5.0ポイント、「住宅ローン」で4.7ポイントと特に差が大きくなっています。

### 【小学1年生】



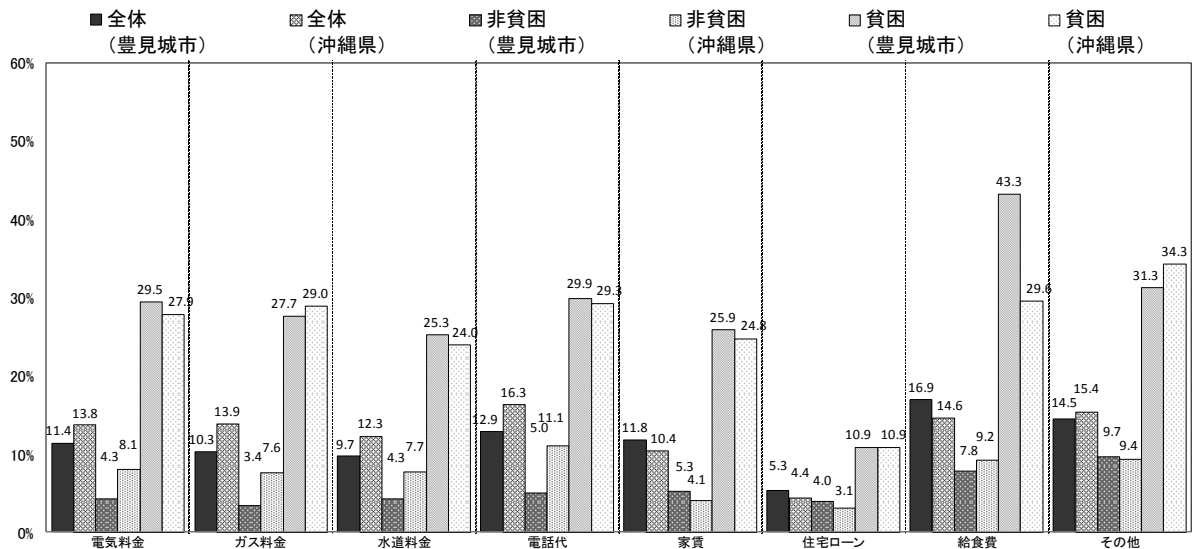
(注)「あった」とした世帯数/非該当と無回答を除く全世帯数

### 【小学5年生】



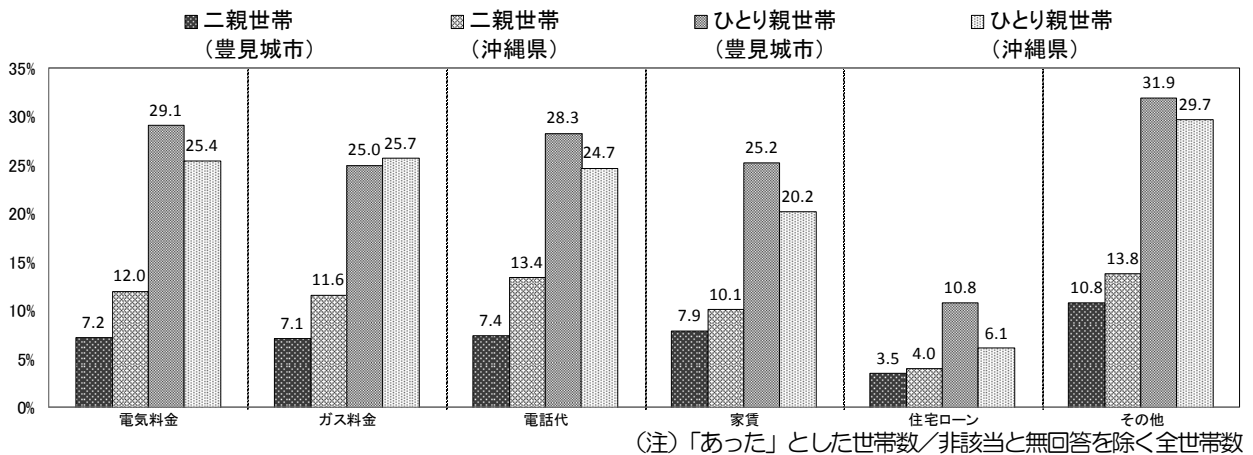
(注)「あった」とした世帯数/非該当と無回答を除く全世帯数

### 【中学2年生】



(注)「あった」とした世帯数/非該当と無回答を除く全世帯数

## 電気、ガス、電話代などの滞納経験/世帯種類別



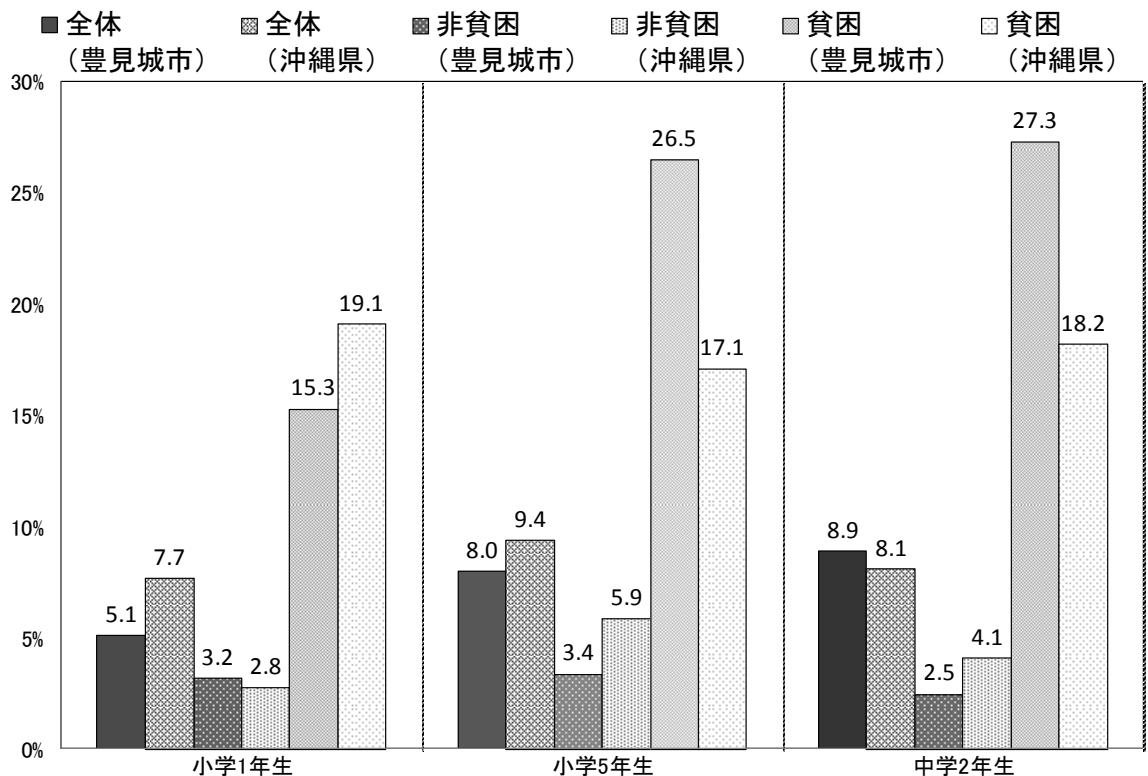
## ○料金滞納によるライフラインの停止経験

小学1年生、小学5年生、中学2年生の保護者たちに、過去1年間に経済的な理由でライフラインを停止された経験があったかを質問した結果です。

全体では、ライフラインを停止された経験は、全体で<小学1年生>で5.1%、<小学5年生>で8.0%、<中学2年生>で8.9%となっており、学年が上がるにつれて高くなっています。

経済状況別にみると、ライフラインを停止された経験は<小学1年生>では<非貧困>で3.2%、<貧困>で15.3%と、<貧困>の方が12.1ポイント高く、<小学5年生>でも<非貧困>で3.4%、<貧困>で26.5%と、<貧困>の方が23.1ポイント高く、<中学2年生>でも<非貧困>で2.5%、<貧困>で27.3%と、<貧困>の方が24.8ポイント高くなっており、学年が上がるにつれて<貧困>のライフライン停止経験は高く、<非貧困>との差も大きくなっています。

沖縄県と比較すると、全体では<小学1年生>で2.6ポイント、<小学5年生>で1.4ポイントともに低く、<中学2年生>では0.8ポイント高くなっています。<貧困>層に着目して比較すると、<小学1年生>では3.8ポイント低くなっていますが、<小学5年生>では9.4ポイント、<中学2年生>では9.1ポイントともに高く、特に大きな差となっています。



## 12. 医療サービスの受診状況

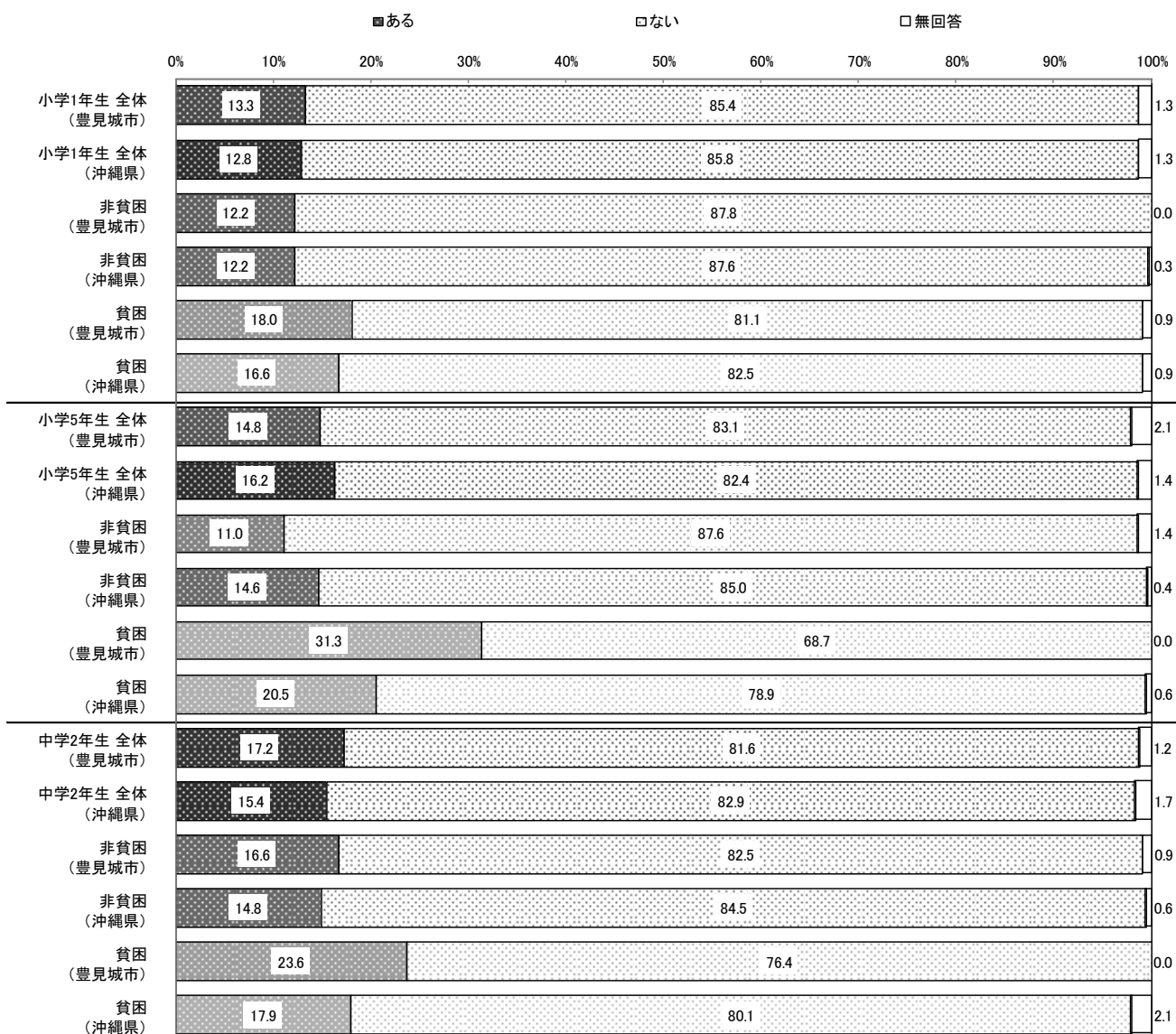
### ○子供に医療サービスを受診させなかった経験

小学1年生、小学5年生、中学2年生の保護者たちに、過去1年間に医療機関でお子さんを受診させた方がよいと思ったが、実際には受診させなかった経験があったかを質問した結果です。

全体では、子供を受診させなかった経験が「ある」が<小学1年生>で13.3%、<小学5年生>で14.8%、<中学2年生>で17.2%と、いずれも1割を超えており、学年が上がるにつれて高くなっています。

経済状況別にみると、子供を受診させなかった経験が「ある」の割合は<小学1年生>では<非貧困>で12.2%、<貧困>で18.0%と、<貧困>の方が5.8ポイント高く、<小学5年生>でも<非貧困>で11.0%、<貧困>で31.3%と、<貧困>の方が20.3ポイント高く、<中学2年生>でも<非貧困>で16.6%、<貧困>で23.6%と、<貧困>の方が7.0ポイント高くなっています。

沖縄県と比較すると、子供を受診させなかった経験が「ある」割合は<小学1年生>では全体で0.5ポイント高く、<貧困>でも1.4ポイント高くなっています。<小学5年生>では全体で1.4ポイント低くなっていますが、<貧困>では10.8ポイント高くなっています。<中学2年生>では全体で1.8ポイント高く、<貧困>でも5.7ポイント高くなっています。





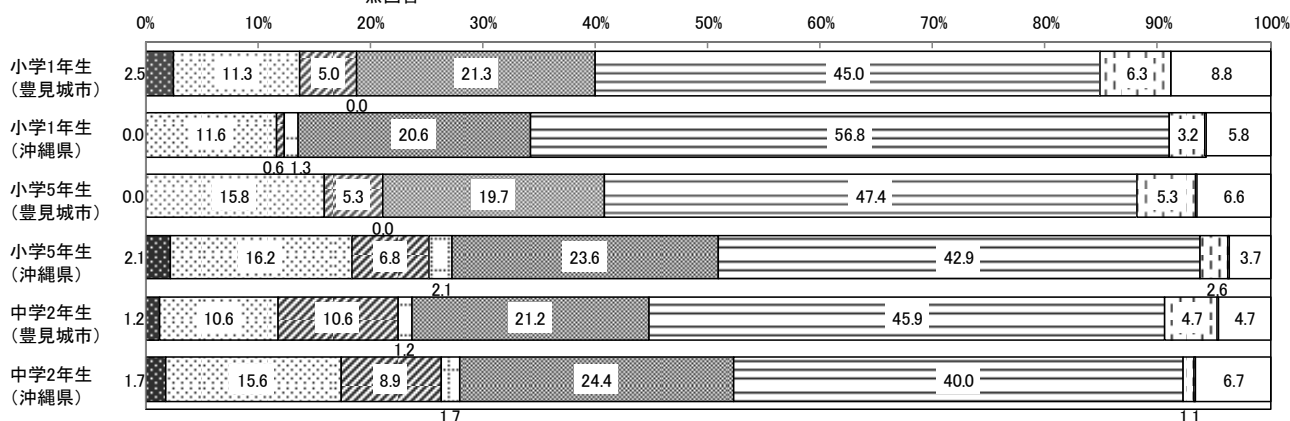
## ○未受診理由

子供に医療機関を受診させなかった経験が「ある」と回答した人に、その理由について質問した結果です。

未受診理由について、いずれの学年においても「最初は受診させようと思ったが、子どもの様子を見て、受診させなくてもよいと判断したため」がそれぞれ4割半ばを占めて最も高く、次いで「多忙で、医療機関に連れて行く時間がなかったため」がそれぞれ2割程度と続いています。

沖縄県と比較すると、＜小学1年生＞では「子ども本人が（行くのが）嫌だと言ったため」が、＜小学5年生＞、および＜中学2年生＞では「最初は受診させようと思ったが、子どもの様子を見て、受診させなくてもよいと判断したため」が、ともに他の学年に比べて沖縄県より比較的高くなっています。

- 公的医療保険に加入しておらず、医療費の支払いができなかったため
- 公的医療保険に加入していたが、医療機関での自己負担金を支払うことができなかったため
- 子ども本人が（行くのが）嫌だと言ったため
- 医療機関までの距離が遠く、通院することが困難であったため
- 多忙で、医療機関に連れて行く時間がなかったため
- 最初は受診させようと思ったが、子どもの様子を見て、受診させなくてもよいと判断したため
- その他の理由
- 無回答

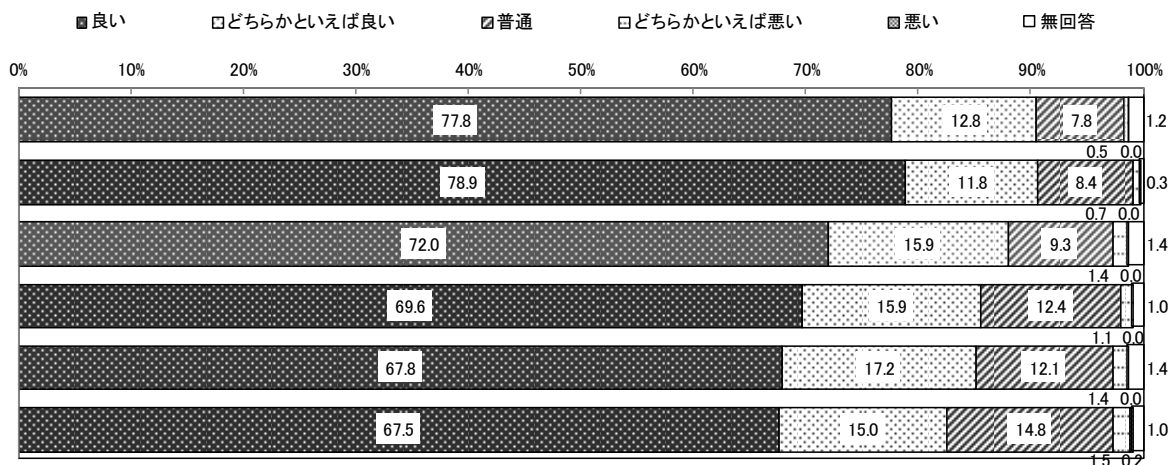


## ○保護者から見た子供の健康状況

小学1年生、小学5年生、中学2年生の保護者たちに、子供の健康状況について質問した結果です。

健康状況が「良い」、または「どちらかといえば良い」と回答した割合は、＜小学1年生＞で90.6%、＜小学5年生＞で87.9%、＜中学2年生＞で85.0%と、学年が上がるにつれて割合は低くなっていますが、大半の保護者が健康状況を良好と捉えています。

沖縄県と比較すると、健康状況が「良い」、または「どちらかといえば良い」と回答した割合は、＜小学1年生＞では大きな違いはみられませんが、＜小学5年生＞では2.4ポイント、＜中学2年生＞では2.5ポイントともに高くなっています。

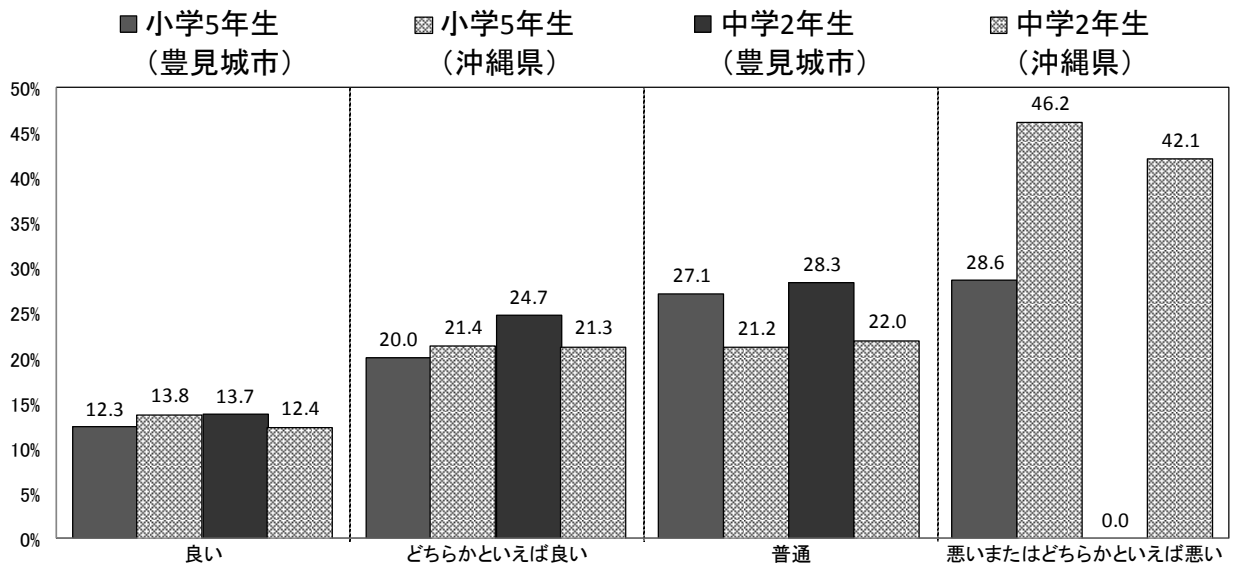


### ○子供の健康状況と受診抑制（未受診経験）

受診抑制（未受診経験）があった割合が、子供の健康状況によって異なるか分析した結果です。

「悪い」と「どちらかといえば悪い」は件数が少ないため合算しています。受診抑制（未受診経験）があった割合は＜小学2年生＞では「悪い」、または「どちらかといえば悪い」が0.0%となっていますが、これを除いては＜小学5年生＞、＜中学2年生＞ともに子供の健康状況が良いほど、受診抑制の経験が少なくなっています。

沖縄県と比較すると、健康状態が「良い」、および「どちらかといえば良い」では大きな違いはみられません。が、「普通」では＜小学5年生＞で5.9ポイント、＜中学2年生＞で6.3ポイントともに高くなっています。一方、「悪い」、または「どちらかといえば悪い」では＜小学5年生＞で17.6ポイント低くなっています（＜中学2年生＞では豊見城市における受診抑制（未受診経験）があった割合が、0.0%のためコメントは省略しています）。



## 13. 社会的ネットワーク

小学1年生、小学5年生、中学2年生の保護者たちに、地域とのつながりや、子育てを相談できる友人・知人の存在などの社会的ネットワークについて質問した結果です。

### 【小学1年生】

地域の行事に参加しているかについて、「よく参加している」は9.1%、「時々参加している」は37.1%、合計で46.2%となっており、沖縄県と比較すると、11.1ポイント低くなっています。

子育てや教育についての悩みを相談できる友人・知人がいるかについて、「たくさんいる」は24.4%、「ある程度いる」は58.7%、合計で83.1%となっており、沖縄県と比較すると、4.0ポイント低くなっています。

生活上の困難を解決するために地域の人々は協力するべきであると思うかについて、「そう思う」は33.0%、「ややそう思う」は23.5%、合計で56.5%となっており、沖縄県と比較すると1.1ポイント低くなっています。

### 【小学5年生】

地域の行事に参加しているかについて、「よく参加している」は13.0%、「時々参加している」は35.1%、合計で48.1%となっており、沖縄県と比較すると、4.5ポイント低くなっています。

子育てや教育についての悩みを相談できる友人・知人がいるかについて、「たくさんいる」は21.9%、「ある程度いる」は59.0%、合計で80.9%となっており、沖縄県と比較すると、3.6ポイント低くなっています。

生活上の困難を解決するために地域の人々は協力するべきであると思うかについて、「そう思う」は28.7%、「ややそう思う」は21.7%、合計で50.4%となっており、沖縄県と比較すると6.2ポイント低くなっています。

### 【中学2年生】

地域の行事に参加しているかについて、「よく参加している」は9.7%、「時々参加している」は33.4%、合計で43.1%となっており、沖縄県と比較すると、3.9ポイント低くなっています。

子育てや教育についての悩みを相談できる友人・知人がいるかについて、「たくさんいる」は16.8%、「ある程度いる」は65.8%、合計で82.6%となっており、沖縄県と比較すると、0.9ポイント低くなっています。

生活上の困難を解決するために地域の人々は協力するべきであると思うかについて、「そう思う」は29.1%、「ややそう思う」は22.9%、合計で52.0%となっており、沖縄県と比較すると4.3ポイント低くなっています。

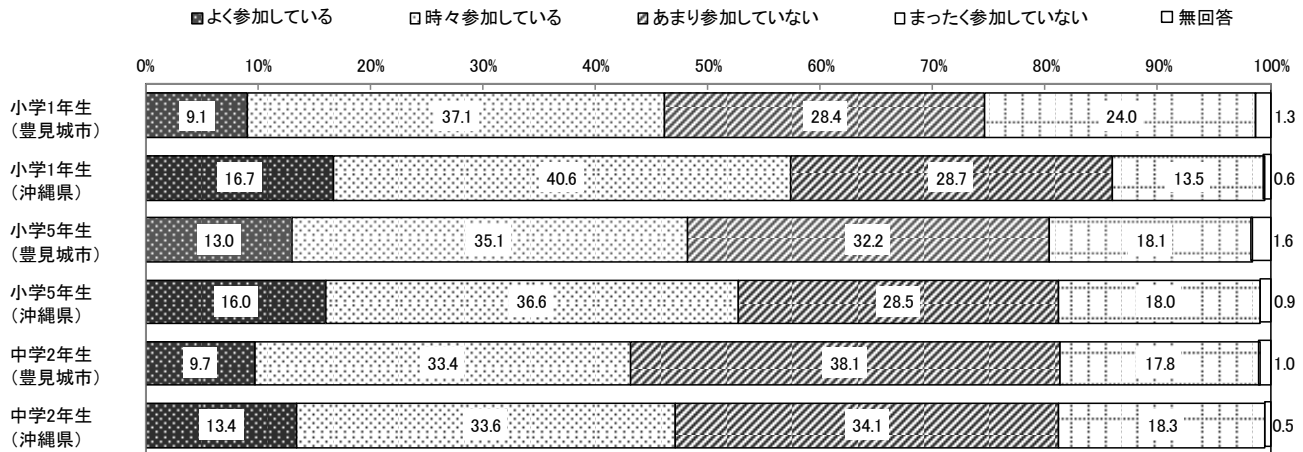
### 【子供の学年による比較】

地域の行事に参加しているかについて、「よく参加している」または「時々参加している」割合は<小学5年生>が他の学年に比べて比較的高くなっています。

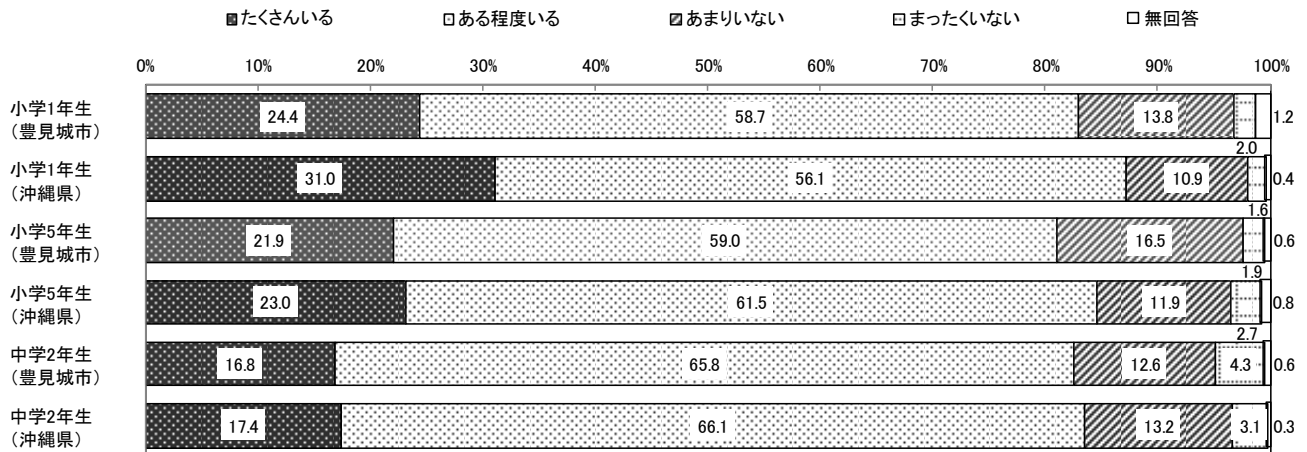
子育てや教育についての悩みを相談できる友人・知人がいるかについて、「たくさんいる」または「ある程度いる」割合は<小学1年生>が他の学年に比べて比較的高くなっています。

生活上の困難を解決するために地域の人々は協力するべきであると思うかについて、「そう思う」または「ややそう思う」割合は<小学1年生>が他の学年に比べて比較的高くなっています。

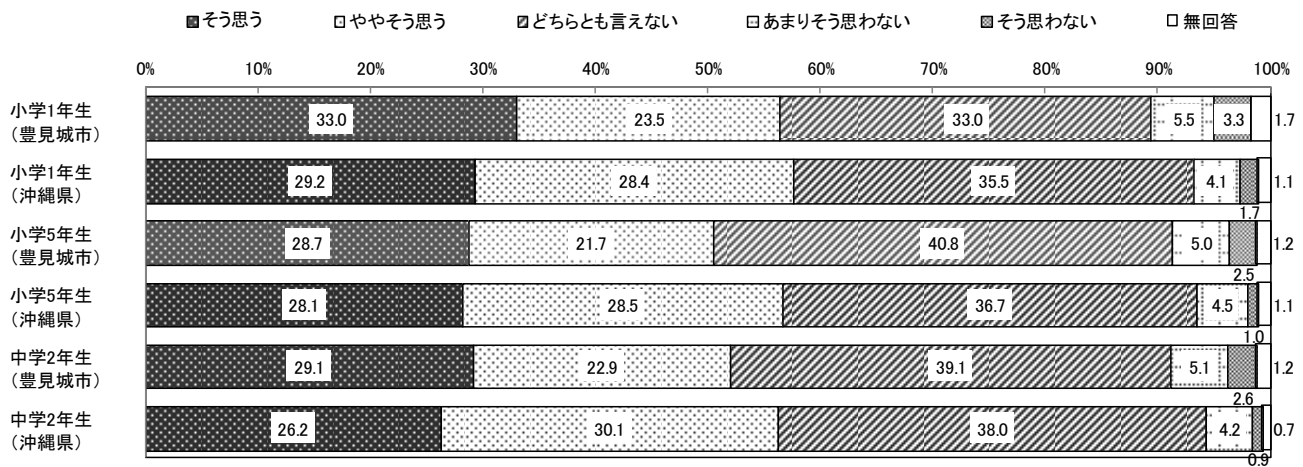
## 地域の行事に参加しているか



## 子育てや教育についての悩みを相談できる友人・知人がいるか



## 生活上の困難を解決するために地域の人々は協力するべきであると思うか



## ○社会的ネットワークの経済状況による違い

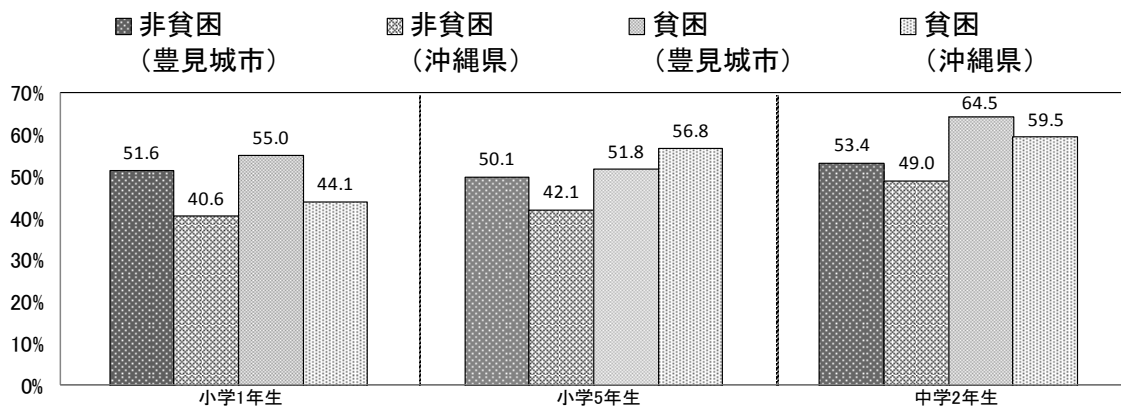
地域とのつながりや、子育てを相談できる友人・知人の存在などの社会的ネットワークが、経済状況によって異なるかを分析した結果です。

地域行事に「あまり参加していない」、または「まったく参加していない」割合は、いずれの学年においても<貧困>の方が高く、特に<中学2年生>では11.1ポイントの差がみられます。沖縄県と比較すると、沖縄県の<小学5年生>では<貧困>の方が14.7ポイント高くなっていますが、豊見城市の<小学5年生>では1.7ポイントの差にとどまり、<非貧困>と<貧困>の差は小さくなっています。

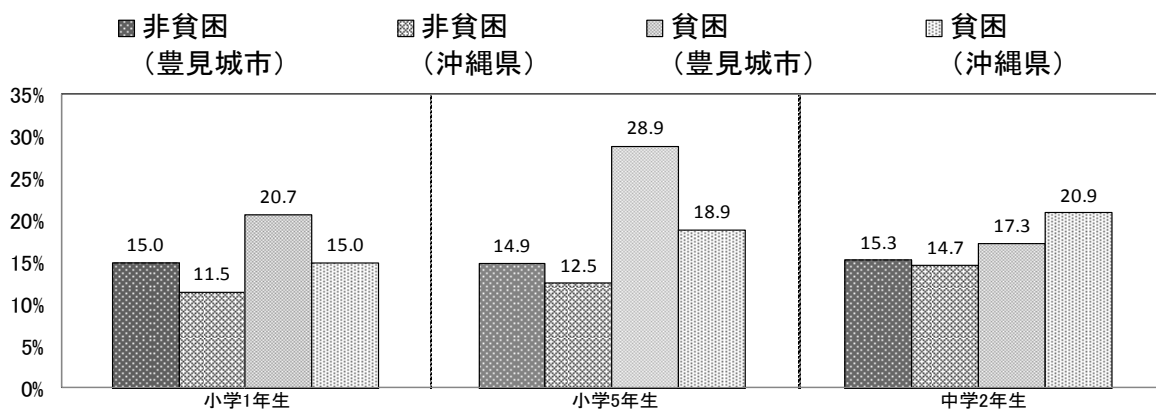
子育てや教育についての悩みを相談できる友人・知人の存在について、「あまりいない」、または「まったくいない」割合は、いずれの学年においても<貧困>の方が高く、特に<小学5年生>では14.0ポイントの差がみられます。沖縄県と比較すると、<小学1年生>、および<小学5年生>で<非貧困>と<貧困>の差が沖縄県より大きくなっています。

生活上の困難を解決するために地域の人々は協力するべきであると思うかについて、「そう思う」、または「ややそう思う」割合は、いずれの学年においても<貧困>の方が低くなっています。沖縄県と比較すると、<非貧困>と<貧困>の差はすべての学年で豊見城市の方が大きくなっていますが、<小学1年生>、および<小学5年生>でその差が特に大きくなっています。

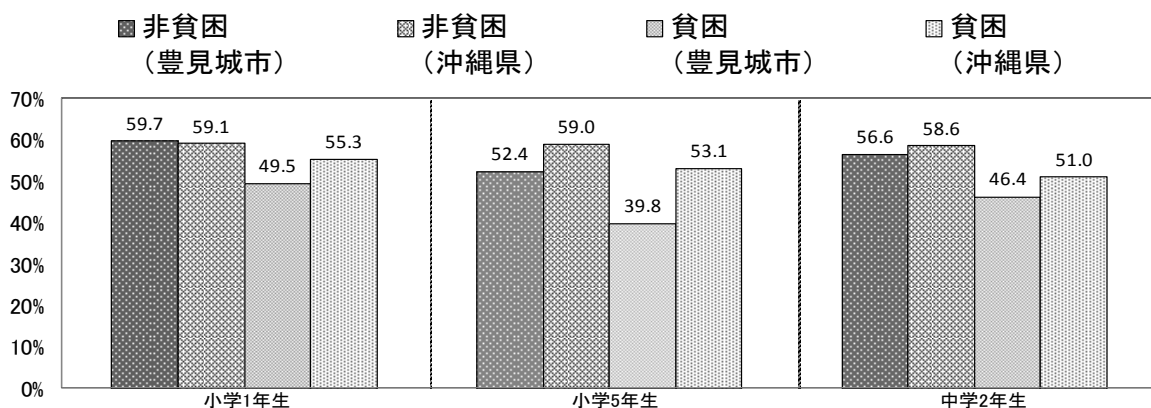
### 地域行事への参加：「あまり参加していない」「まったく参加していない」割合



### 相談できる知人友人の存在：「あまりいない」「まったくいない」割合



### 地域の人々は協力するべき：「そう思う」「ややそう思う」割合



# 14. 子供期の経済状況と現在の困窮経験

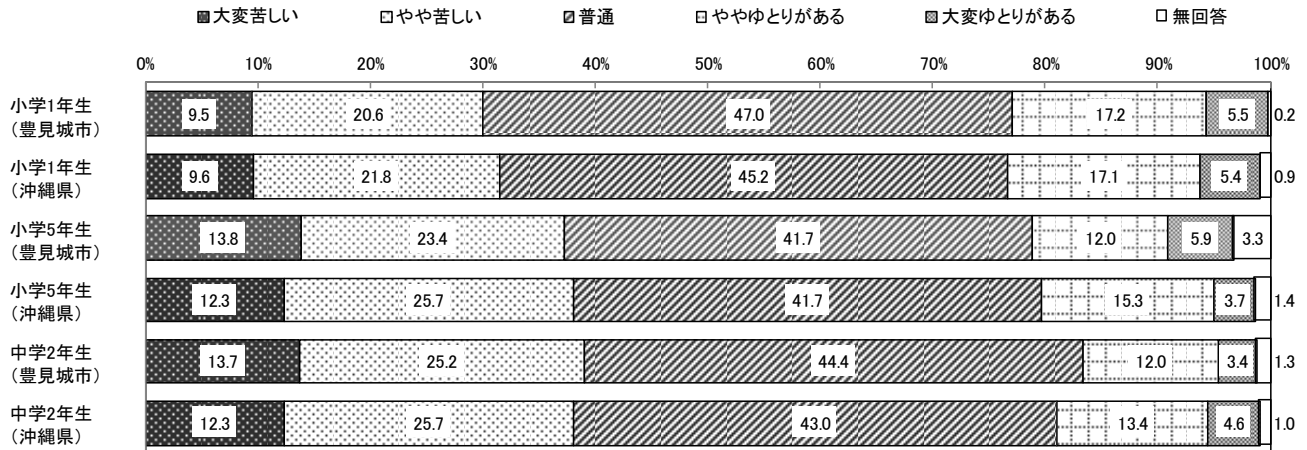
## ○子供期の経済状況

小学1年生、小学5年生、中学2年生の保護者たちに、15歳時の暮らし向きについて質問した結果です。

15歳時の暮らし向きについては、いずれの学年でも「普通」が4割台で最も高くなっていますが、「大変苦しい」または「苦しい」と回答した割合は、<小学1年生>で30.1%、<小学5年生>で37.2%、<中学2年生>で38.9%と、いずれの学年においても3割台となっています。

沖縄県と比較すると、「大変苦しい」または「苦しい」と回答した割合は、<小学1年生>で1.3ポイント、<小学5年生>で0.8ポイントともに低くなり、一方、<中学2年生>では0.9ポイント高くなっています。

保護者の15歳時の生活状況



(注) 回答者が父母の場合のみに限定し、祖父母等が回答者の場合は除いている。

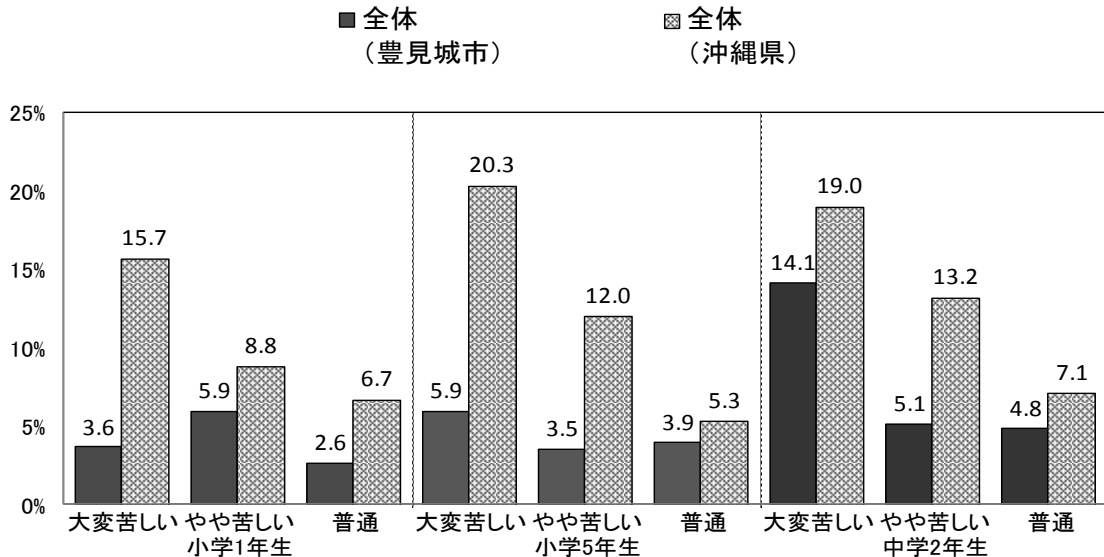
## ○15歳時と現在の暮らしの状況

現在の暮らしの状況を「大変苦しい」と感じている割合が、15歳時の暮らし向きによって異なるかを分析した結果です。

15歳時の暮らし向きが、「大変苦しい」、「やや苦しい」、「普通」であった保護者が、現在の暮らしの状況を「大変苦しい」と感じている割合について、<小学1年生>では「やや苦しい」状況であった保護者が、また、<小学5年生>、および<中学2年生>では「大変苦しい」状況であった保護者が、現在の暮らしの状況を「大変苦しい」と感じている割合が比較的高くなっています。

沖縄県と比較すると、いずれの学年、いずれの15歳時の生活状況においても、現在の生活を「大変苦しい」と感じている割合は沖縄県より大幅に低くなっています。

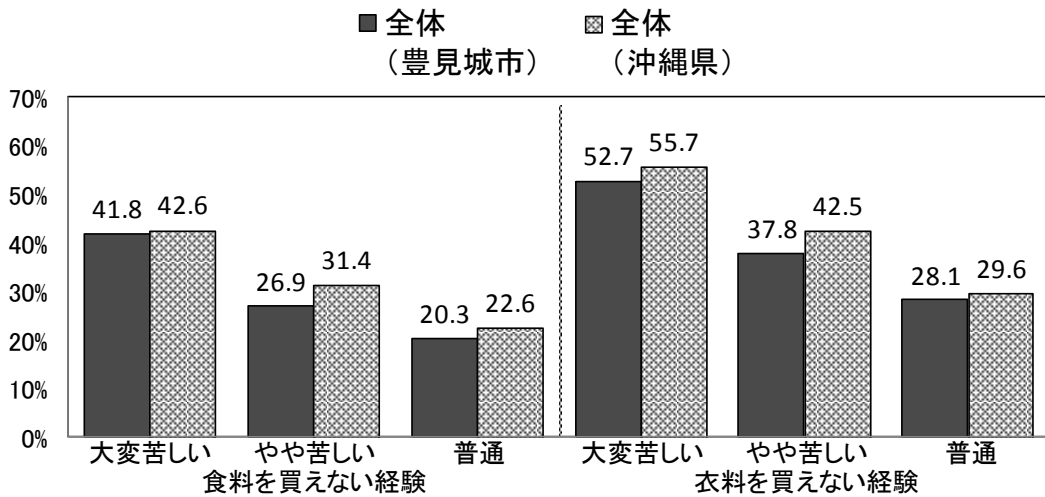
保護者の15歳時の暮らし向きと、現在の暮らしの状況が「大変苦しい」割合



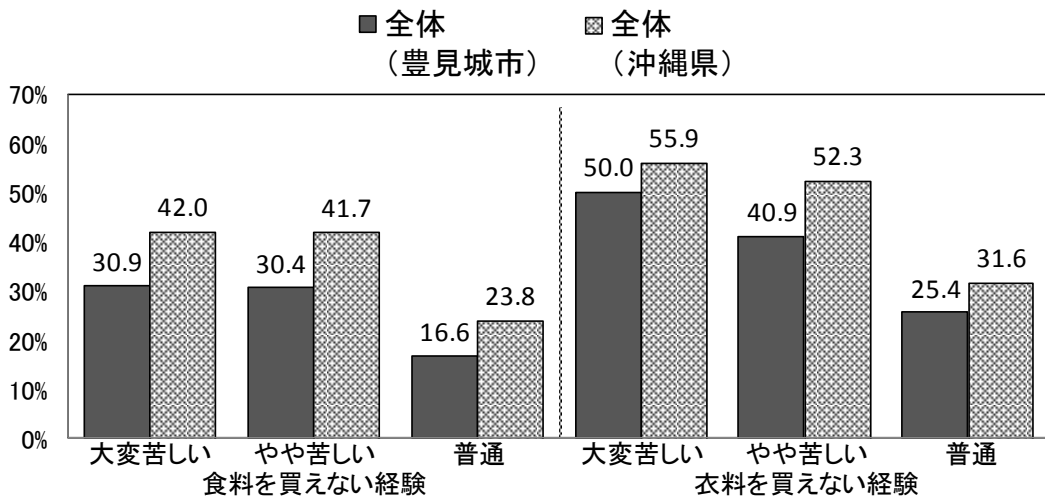
### ○15歳時の経済状況と現在の困窮経験

過去1年間に食料や衣料を買えなかった経験が、15歳時の暮らし向きによって異なるかを分析した結果です。  
 いずれの学年においても、15歳時の生活状況が苦しかったほど、食料および衣料を買えなかった割合が高くなっています。  
 沖縄県と比較すると、いずれの学年、いずれの15歳時の暮らし向きにおいても、食料および衣料を買えなかった割合は、沖縄県より低くなっています。

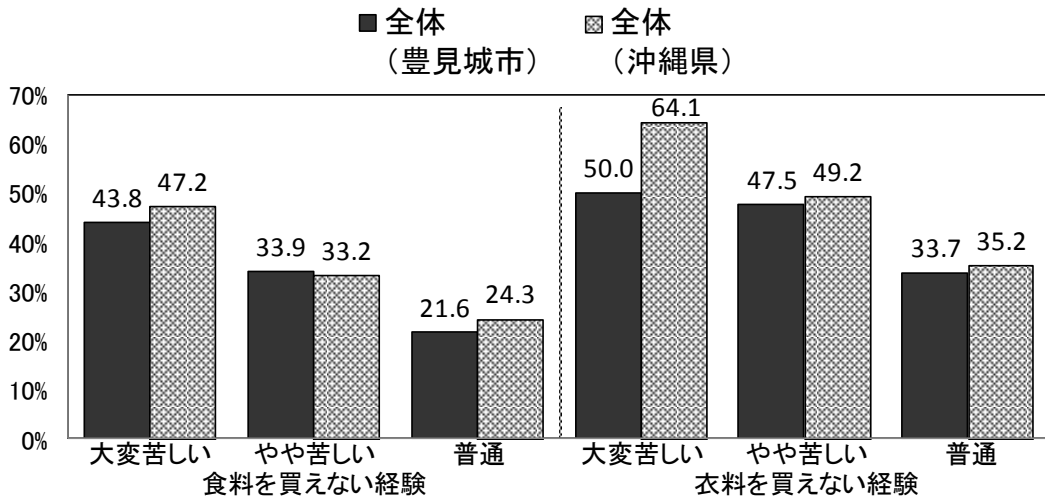
#### 【小学1年生】



#### 【小学5年生】



#### 【中学2年生】



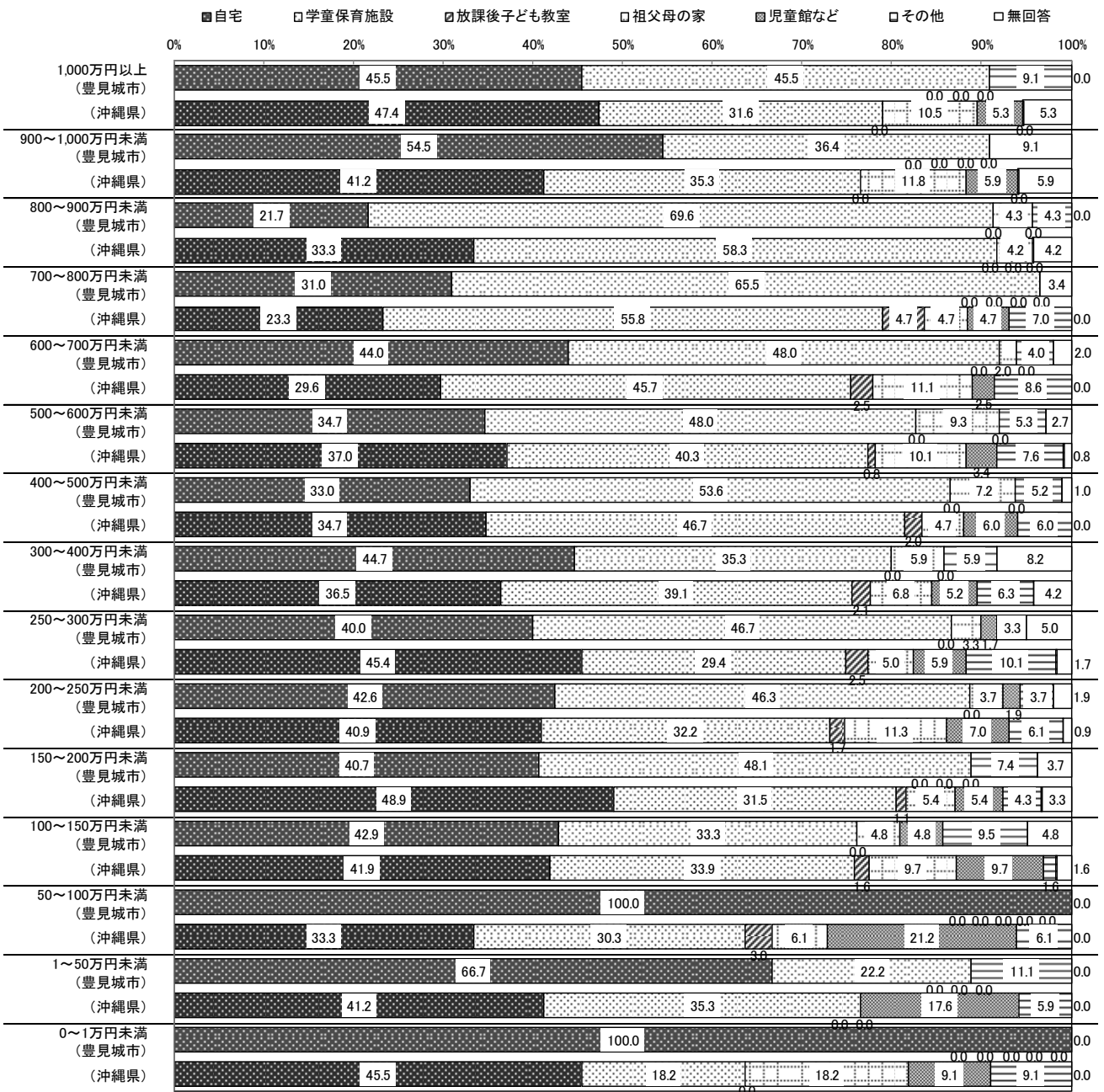
# 15. 子供の放課後の居場所

## ○所得階層別 放課後の居場所

小学1年生の放課後の居場所が、保護者の所得階層によって異なるかを分析した結果です。

年収150万円～300万円未満、および年収400～900万円未満の世帯では「学童保育施設」が最も高くなっていますが、年収150万円未満、年収300～400万円未満、および年収900～1,000万円未満の世帯では「自宅」が最も高くなっています。また、年収1,000万円以上では「自宅」と「学童保育施設」が同率で最も高くなっています。

沖縄県と比較すると、「学童保育施設」は年収150～300万円未満、800～900万円未満、および1,000万円以上の家庭では沖縄県より10.0ポイント以上高く、年収100万円未満の家庭では沖縄県より10.0ポイント以上低くなっています。また、「自宅」は年収100万円未満、600～700万円未満、および900～1,000万円未満の家庭では沖縄県より10.0ポイント以上高く、年収800～900万円未満の家庭では沖縄県より10.0ポイント以上低くなっています。







豊見城市 子供調査  
調査結果報告書

---

|      |                |
|------|----------------|
| 発行年月 | 平成30年3月        |
| 発行   | 豊見城市 福祉部 社会福祉課 |

沖縄県豊見城市翁長 854 番地 1  
TEL：098-850-0141（直通）

---